

茨城県教育財団文化財調査報告第291集

# 島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書XV

下 卷

平成20年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第291集

しま な くま やま い せき  
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XV

下 巻

平成20年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## － 下 卷 －

|      |                      |                |     |
|------|----------------------|----------------|-----|
| 第6節  | まとめ                  | .....          | 695 |
| 付章   | 島名熊の山遺跡（12区）の植物珪酸体分析 | .....          | 729 |
| 写真図版 | 9区 遺構 PL 1～PL 11     | 遺物 PL12～PL16   |     |
|      | 12区 遺構 PL17～PL 54    | 遺物 PL55～PL70   |     |
|      | 15区 遺構 PL71～PL119    | 遺物 PL120～PL163 |     |



## 第6節 ま と め

### 1 はじめに

鳥名熊の山遺跡は、平成7年度から調査が実施され、これまでに当財団から『第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280集』の10集の報告書が刊行されている。今回の報告分までの総調査面積は194,671㎡で、竪穴住居跡2,221軒、掘立柱建物跡356棟をはじめ、陥し穴5基、古墳2基、焼成遺構11基、大形竪穴状遺構6基、方形竪穴遺構88基、地下式坑68基、堀跡・溝跡220条、道路跡21条、水田跡2か所、井戸跡134基、火葬施設33基、粘土貼土坑4基、墓坑68基、土坑3,648基、柵跡19列、ピット群・ピット列59か所、遺物包含層2か所などが確認されている。遺跡の内容は、古墳時代（4世紀）から平安時代（11世紀）にかけての集落跡が中心であり、遺跡の北側に隣接する鳥名関ノ台古墳群や律令期の「河内郡嶋名郷」との関連が指摘されている。また、中世以降も堀や溝による区画や墓域、水田跡などが確認されており、長期間にわたる土地利用の状況が明らかにされた。

本節では、今年度の調査成果を概観するとともに、これまでに確認された古墳時代から平安時代の遺構・遺物について数量的なデータ集成を行う。なお、時期区分に関しては、既往の成果との整合性を保つため、『第190集』で示された土器の変遷に基づき、第1・2期を4・5世紀、第3～5期を6世紀、第6～8期を7世紀、第9～11期を8世紀、第12～14期を9世紀、第15～18期を10・11世紀とする。また、遺跡内の空間区分に関しては、地形的な特徴からA～F群の6住居跡群に区分する方法を採用している。地形の分析及び住居跡群の設定の詳細については、「鳥名熊の山遺跡の集落研究のための前提作業」（清水2007）で提示しており、次項ではその概要について述べ、一部今回の調査成果で新たに得られた知見を紹介する。

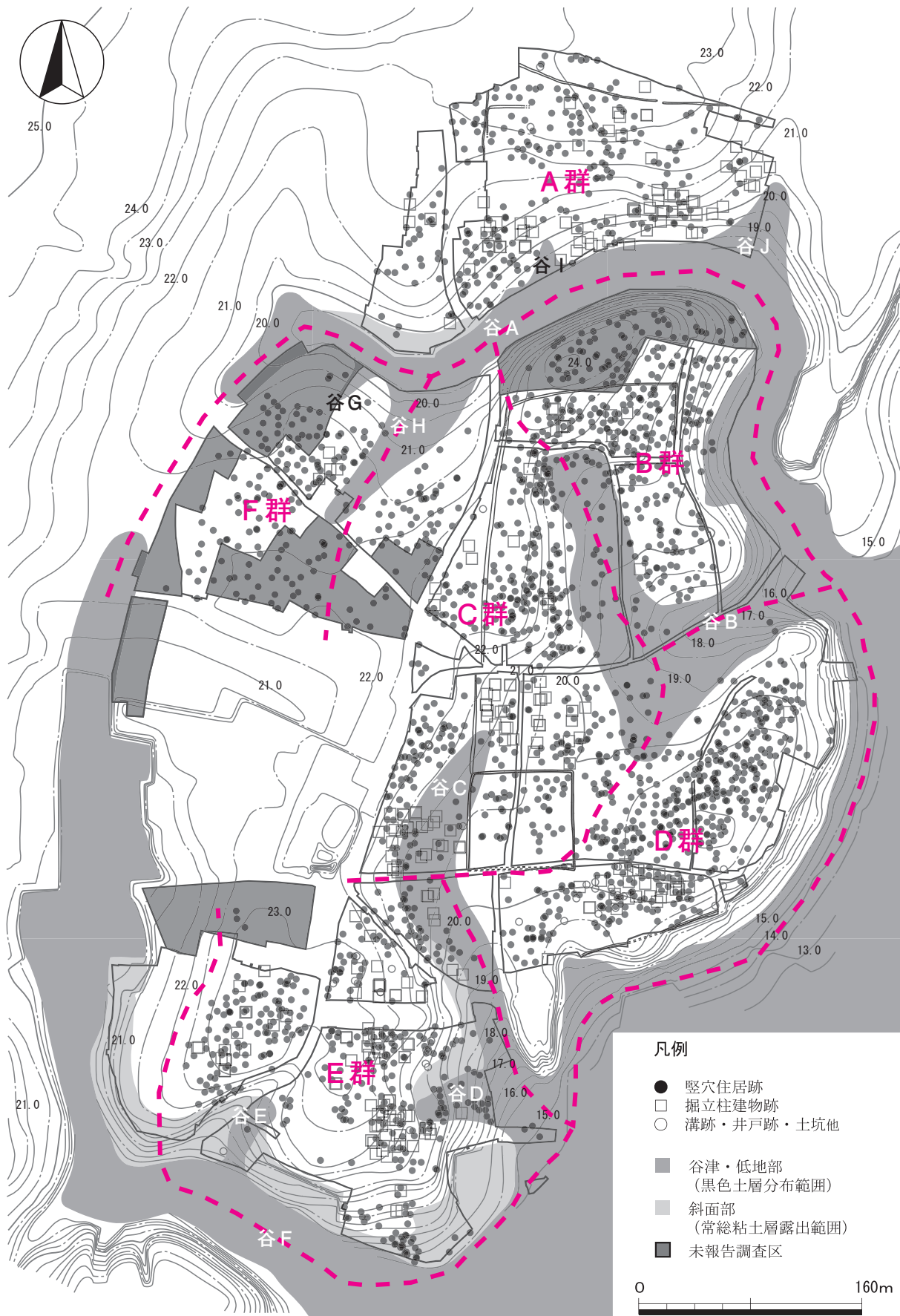
### 2 地形の特徴と住居跡群の区分（第575図）

当遺跡は、つくば市南西部の東谷田川中流域、蓮沼川との合流部から1kmほど遡上した右岸台地上を中心に立地している。東谷田川流域の地形は、当遺跡より上流域では広く平坦な台地面が良好に遺存している一方、当遺跡以南の下流域では樹枝状に支谷が発達し、谷密度の高い状況が看取される。このことから、当遺跡は起伏の少ない台地上を利用した陸運と東谷田川あるいは蓮沼川を經由して桜川流域へと至る水運との結節点にあり、交通の要衝であったことが想定できる。

次に、当遺跡の地形について見る。第575図は、『鳥名・福田坪地区都市計画図（500分の1）』から作成した等高線図に、表土除去作業後に確認された黒色土層や常総粘土層の範囲を図示し、竪穴住居跡と掘立柱建物跡等をドットで示したものである。黒色土層の分布範囲は沖積低地部や埋没谷、常総粘土層の分布範囲は台地斜面部において基盤層上部の関東ローム層が流出した部分をそれぞれ示している。

第575図によると、遺跡北部と南端部には深い谷（谷A・谷F）が入り込んでおり、さらに、複数の埋没谷（谷B～谷E・谷G～谷J）が存在し、遺跡内は起伏に富んだ地形を呈していたことがわかる。特に、遺跡東部に位置する谷Bや南東部の谷C、北西部の谷Hは、台地上まで開析が及んでおり、その両岸や谷頭付近には竪穴住居跡や掘立柱建物跡が高い密度で分布している。これらの竪穴住居跡や掘立柱建物跡のまとまりを住居跡群として捉えると、遺跡内は6つの住居跡群に区分することが可能である。これらの住居跡群をA～F群と仮称し、以下、各群の位置及び既調査区との対応関係について解説する。

A群は、遺跡北部の谷A北岸域の緩斜面部に位置し、標高は19.0～23.0mである。既調査区の13・14区が該当する。今回、調査担当者への聞き取りから、谷Aから派生する2か所の埋没谷の存在が明らかになり、



第575図 島名熊の山遺跡遺構全体図

これらを谷I・谷Jとした。谷Iは調査区域の中央部、谷Jは東端部にそれぞれ位置している。

B群は、遺跡北東部の谷A・谷Bに囲まれた台地上に位置し、谷Aに面した北側は、標高24.0mの遺跡内の最高標高地点となっている。既往の1・5・11区と4区東側の一部が該当している。

C群は、遺跡中央部の谷B・谷Cの谷頭付近から谷Hの東側にかけての平坦な台地上に位置しており、標高は20.0～22.5mである。既調査区では、3・4・8区と7区の西半部のほか、今回報告する15区の東半部もこの区域に含まれている。

D群は、遺跡東部の谷B南岸から谷C東岸にかけての台地縁辺部に位置している。標高は16.0～21.5mで、7区の東半部と2・6・10区が該当する。

E群は、遺跡南部の谷C・谷Fに囲まれた区域で、住居跡の分布域は標高23.0mの台地上から標高15.0mの低地部まで広がりを見せる。9・12・16区が該当し、特に今回の調査では、台地斜面部から谷部、低地部にかけての土地利用の様相が明らかになっている。

F群は、遺跡北西部の谷Hの西側に位置し、住居跡は標高20.5～22.0mの平坦な台地上に展開している。今回報告する15区の西半部が該当し、谷Hの東西で遺構の分布状況や出土遺物の内容が異なることが明らかになったため、新たに設定した一群である。

以上の空間区分に従い、調査成果と遺跡の様相について述べる。

### 3 各調査区の概要

#### (1) 9・12区の概要（表42）

9・12区は遺跡の南東部にあたり、東谷田川が流れる沖積低地に面した台地縁辺部から斜面部に位置している。9区は、東半部に黒色土の広がりが見られ、埋没谷の谷Cが南北方向に入り込んでいる。調査区内の標高は18.5～21.0mで、南東へ緩かに傾斜している。12区は、中央部が台地縁辺部にあたり、標高は21.5mである。北東部は黒色土が広がる緩斜面で、東西方向に谷Dが入り込んでおり、東端部は標高14.0mの低地部となっている。また、南部は南へ緩やかに傾斜する斜面部となっており、中段から下段にかけては、基盤層の関東ローム層が流出し、下位の常総粘土層が露出している。前述の住居跡群の分類では、いずれもE群に属している。以下、時代ごとの様相について概要を述べる。

#### 古墳時代

12区の住居跡22軒、古墳2基、土坑2基が該当し、9区では当期の遺構は確認されていない。

12区中央部の台地縁辺部には、大小2基の円墳と墳丘外埋葬施設と考えられる土坑1基が確認されている。円墳は、いずれも周溝だけが確認され、築造時期は不明であるが、出土土器から7世紀前半には埋没が始まっていたと考えられる。また、2基の円墳に隣接して墳丘外埋葬施設と考えられる第5155号土坑が確認されており、底面からは長さ41.8cmの鉄剣が出土している。これらは東谷田川が流れる低地部を一望できる景観の良い場所に位置しており、在地の有力者層の古墳群と考えられる。

今回の調査区域では6世紀代の住居跡は確認されておらず、円墳の北西約40m以上離れた台地部に12軒（『第214集』12区）が確認されるだけである。以後、8世紀代にならないと周辺に遺構が確認されないことから、当地は墓域と意識されていたため、居住域としての開発が遅れたものと考えられる。

7世紀代には、12区北部で10軒、中央部で6軒の住居跡のまとまりが見られ、集落の中心地であったと考えられる。また、東部で1軒、南部では斜面部中段に3軒、下段に2軒が確認されている。北部に位置

する集団についてみると、7世紀前半には谷Dを囲むように6軒の住居跡が確認され、いずれも主軸は北北西方向に統一されている。7世紀後半になると居住域は斜面部中段から下段まで広がるようになり、主軸方向には統一性が見られなくなっている。7世紀前葉と考えられる第2569号住居跡は、一辺7mを超える大形住居であり、多数の土師器や土製紡錘車、土玉、刀子のほか、竈の覆土下層からは鋤先形土製品4点（内2点はほぼ完形）がまとまって出土している。鋤先形土製品は祭祀的意味合いが強く示唆されるとともに、有力者の立場を象徴する呪具とも考えられている。後世になっても他の遺構に掘り込まれていないことから当地の中心的な住居であったと考えられる。また、12区北部や東部では、羽口片51点、鉄滓121点（3022.3g）が広範囲にわたって出土しており、周辺には鍛冶工房があったものと想定される。7世紀前葉と考えられる第2568号住居跡の覆土下層から羽口片や鉄滓が出土していることから、それ以降に廃棄されたものと想定されるが、工房跡の痕跡や操業時期を特定することはできない。

### 奈良時代

住居跡19軒、掘立柱建物跡4棟が該当している。8世紀前半には、12区北部に位置する集団が、斜面部上段から下段にかけて点在するようになり、住居跡が一定の距離を置いて分布する状況が見られる。また、東端部にも1軒確認され、低地部への居住域の広がりがうかがえる。北部や東部で確認された住居跡の主軸はおおむね北方向を向き、いずれも一辺5m前後の中形住居である。8世紀後半になると、9区の谷Cを臨む緩斜面部で住居跡が1軒確認され、12区北部に位置する2軒の住居跡と主軸方向がほぼ一致することから同一の集団であったと考えられる。また、12区南部の斜面部下段にも2・3軒を一単位とする新たな集団が出現している。当期の住居跡は、いずれも主軸方向はおおむね北方向を向き、規模は一辺4m前後が中心となり小形化する傾向にある。

12区中央部の台地縁辺部には、掘立柱建物跡4棟が重複して確認されている。既報告によると8・9世紀代には9区から12区にかけて、東側の台地縁辺部に掘立柱建物跡群が立ち並んでおり、今回の4棟の建物跡もその一部に含まれている。8世紀前半の第506号掘立柱建物跡と8世紀後半の第503号掘立柱建物跡は、いずれも桁行が4間を超える大形建物であり、これらの建物群の中心的な施設と想定される。

### 平安時代

住居跡60軒、掘立柱建物跡4棟、土坑24基が該当する。9世紀前半は奈良時代と同様に、9区や12区北部の谷Cを臨む斜面部や12区南部に2・3軒が点在する傾向を示している。9世紀後半になると、9区での開発が進み、住居跡や掘立柱建物跡が多数確認されるようになる。9世紀後葉と考えられる第2963号住居跡は、一辺が3.3mと小形の住居で、刀子3点、短刀カ1点、墨書土器5点が出土している。墨書土器には、当遺跡に共通する「大土」のほか、「天福」と書かれた文字も見られる。9区北部（『第280集』9区）でも墨書土器や硯、鉄鎌や巡方が出土していることから、当期における当地の中心的な集団に属していると推定される。また、9世紀後半と考えられる3棟の掘立柱建物跡は、いずれも前述した建物群の一部にあたるものと考えられ、規模や構造から倉庫としての機能が想定される。一方、同時期の12区中央部は、掘立柱建物が姿を消し、住居跡だけで構成されている。12区北部や南部では住居跡が減少し、1・2軒程度が点在するようになり、10世紀代にも同様の分布傾向を示している。11世紀代になると9区西部や12区中央部、東部の斜面部下段に住居跡の分布域が見られ、いずれも2・3軒を一単位とする集団が形成されている。いずれも主軸はおおむね東方向を向き、規模は一辺4m以下が中心となり、さらに小形化している。





## 中世

斜面部に堀跡や溝跡、土坑群が分布し、低地部においては水利施設を伴う水田跡が確認されている。

12区中央部の台地縁辺部から東部の低地部へ東西に延びる第91号堀跡をはじめ、12区南部の斜面部には東西・南北に延びる溝跡が確認される。第91号堀跡は台地部と斜面部を区別し、その他の溝の多くは斜面部に位置する土坑群などを区画する機能を果たしていたものと考えられる。また斜面部中段では、斜面を段切りして平坦面が造成されている。さらに12区東端部と南東部の低地部では、畦畔や水田面、取・配水施設などが確認されており、水稲耕作が行われていたことをうかがわせる。出土遺物からいずれも15世紀後半から16世紀後半に機能していたと考えられ、開発のピークは16世紀前半と想定される。

### (2) 15区の概要 (表43)

15区は遺跡西部に位置している。今年度は、平成16年度調査で確認された遺構のうち、竪穴住居跡132軒、掘立柱建物跡28棟、方形竪穴遺構8基を報告している。調査区は標高18.5～21.5mで、北側と西側には深い谷(谷A)が入り込んでおり、中央部には北東方向へ延びる埋没谷(谷H)が存在している。遺構は標高20.5m以上の平坦な台地上から確認されており、前述した住居跡群の分類では、谷の東側がC群、西側がF群に属している。以下、谷の東西の様相を比較しながら、時代ごとの概要を述べる。

## 古墳時代

竪穴住居跡85軒が該当する。古墳時代前期の第1期は3軒、中期の第2期は1軒の住居跡が確認されている。いずれも谷H西側の谷頭付近に位置し、一辺4～5.5mの中形住居である。時期は、出土土器から前者が4世紀中葉、後者が5世紀後葉と考えられ、集落は断続的なあり方を示している。

古墳時代後期は当調査区の中心的な時期であり、6世紀中葉の第4期が11軒、6世紀後葉の第5期が31軒、7世紀前葉の第6期が27軒、7世紀中葉の第7期が12軒となっている。

第4期は、東側のC群で6軒、西側のF群で5軒の住居跡が確認されている。C群は、一辺5～6mの住居跡で構成され、大形の第2323・2340号住居跡からは、いずれも刀子が出土しているほか、竈や貯蔵穴、出入り口施設周辺の床面から多数の土師器が出土しており、当期の良好な一括資料を提供している。F群では、一辺9.5mの第2487号住居跡が確認されている。当期では遺跡内で最大級であり、当遺跡の台地上における開発が始まる時期に主導的な役割を担った有力者層の居宅と考えられる。また、第2491号住居跡からは、竈の覆土中やコーナー部の覆土中から土製の勾玉2点と小玉5点、滑石製白玉1点が出土している。

第5期はC群で13軒、F群で18軒が確認されており、大形住居を核として複数の中小住居からなる集団構成が認められる。C群では、一辺6～7mの大形住居が5軒出現するほか、一辺2.5mの第2334号住居跡や横長長方形の第2336号住居跡のような小形住居も見られる。第2334号住居跡は緑色凝灰岩製紡錘車1点、第2336号住居跡は鉢形の手捏土器3点が出土していることから、工房的な機能を有していた住居と考えられる。また、8軒の住居跡から刀子1点、鏃3点、鎌1点、釘3点、砥石4点の他、小札1点、耳環1点なども出土しており、鉄器や金属製品の高い保有率を示している。さらに、第2314号住居跡からは鉄滓16点、椀状滓1点が出土しており、集落内での鉄生産の可能性も推定される。一方、F群は鉄鏃2点、土師器の坏を転用した砥石3点が出土している程度で、鉄器の保有率は低い。主な出土遺物としては、第2387号住居跡の竈火床部及び竈周辺の床面から土製勾玉2点、土製小玉1点、土玉2点、滑石製と蛇紋岩製の白玉各1点が出土している。種別の構成や出土状況は、第5期の第2491号住居跡例と類似性が認めら

表43 島名熊の山遺跡15区 堅穴住居跡・掘立柱建物跡一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期               | 第5期  | 第6期                                  | 第7期  | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期   | 第15期 | 第16期 | 第17期   | 第18期 | 備考 |  |
|----|-----|-----|-----|-------------------|--|--------------------------------------|--|-----|-----|------|------|------|------|--------|------|------|--------|------|----|--|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中               | 6C後  | 7C前                                  | 7C中  | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後    | 10C前 | 10C後 | 11C前   | 11C後 |    |  |
| 東部 |     |     |     | S12309B<br>S12323 | S12309A<br>S12316                                  | S12318                               |  |     |     |      |      |      |      | S12324 |      |      | S12344 |      |    |  |
|    |     |     |     | S12326            | S12317<br>S12343<br>S12342<br>S12327→S12329→S12349 | S12339                               |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12325<br>S12337                                   | S12328<br>S12338                     |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     | S12354            | S12352<br>S12350                                   | S12353                               |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12308<br>S12311<br>S12314<br>S12332               | S12330<br>S12345                     |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12331<br>S12333<br>S12334<br>S12347               |                                      |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12340<br>S12341                                   | S12351<br>S12355                     |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12360   | S12367                               |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12395<br>S12397                                   | S12394                               |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12371<br>S12374                                   | S12372<br>S12370                     |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12380<br>S12382B<br>S12387                        | S12376<br>S12379<br>S12382A          |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12443<br>S12446                                   | S12388<br>S12398                     |  |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12460   | S12444<br>S12445<br>S12455           | S12476<br>S12447   |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12487   | S12485<br>S12482                     | S12467<br>S12473   |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     |                   | S12496<br>S12499                                   | S12485<br>S12498                     | S12497<br>S12497   |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     | S12450<br>S12491  | S12458<br>S12479                                   | S12377<br>S12363<br>S12462           | S12362<br>S12451<br>S12454                               |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
|    |     |     |     | S12465<br>S12472  | S12463<br>S12468                                   | S12399<br>S12469<br>S12480<br>S12483 | S12357<br>S12358<br>S12369<br>S12378<br>S12442<br>S12457 |     |     |      |      |      |      |        |      |      |        |      |    |  |
| 総数 | 3   | 1   |     | 11                | 31   | 27                                   | 12   |     | 7   | 5    | 6/3  | 5/1  | 12   | 4      | 3    | 2    | 2      | 1    |    |  |

15区

れ、住居や竈の廃絶に伴って廃棄された可能性があり、祭祀具としての用途が想定される。

第6期はC群で13軒、F群で14軒が確認されている。C群は7軒の住居跡から鉄器が出土しており、継続して高い保有率を示している。また、第2351号住居跡からは、廃絶後に一括して投棄されたと考えられる須恵器の壺・短頸壺・提瓶・平瓶・横瓶が出土しており、当群の優位性を物語っている。一方、F群は以前として鉄器の保有率が低く、出土遺物も一般的な土師器の日用雑器類が主体であり、現時点では集団の具体的な特徴は見出せない。

第7期はC群で5軒、F群で7軒が確認されている。当期の居住域は、C群が東へ、F群が西へ移動しており、住居跡の分布状況は谷地形を境界に明確に区分することが可能である。一方で、出土遺物の内容は、両群で共通した特徴が認められ、一辺6mを超える大形住居から耳環2点、刀子4点、鎌1点、釘3点などが出土し、集団の有力者層による鉄器の集中的な所有を示唆している。また、一辺3m前後の小形住居からは、土製・石製の紡錘車3点が出土しており、工房的な機能が想定される。5期の第2334・2336号住居跡の例とともに住居の規模や形態による機能差を反映したものとして注目される。

第8期は、住居跡が確認されておらず、特に、C群は9世紀後葉の第14期まで空白域となっている。

#### 奈良時代

8世紀代は竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡3棟が該当し、いずれも調査区東部のF群で確認されている。時期別には、第9期が竪穴住居跡7軒、第10期が竪穴住居跡5軒と掘立柱建物2棟、第11期が竪穴住居跡18軒と掘立柱建物跡1棟となっている。住居跡は、主軸方向が真北から西へわずかに振れるものが主体であり、規模は、第9期が一辺4～5.5m、第10・11期では一辺3～5mと小形化する傾向が見られる。掘立柱建物跡は、主軸方向が住居跡とほぼ同一で、構造は3間×2間または2間×2間の側柱建物跡である。出土遺物は、鉄製品が第10期には60%、第11期になると80%以上の住居跡から出土しており、高い保有率を示している。また、第317号掘立柱建物跡からは、「□達丸」と刻書された土師器の甕片が出土しており、人名の可能性が高い。なお、8世紀代におけるC群の既調査区は、遺跡の中核域と考えられており、溝による方形区画や「L」字状に配置された掘立柱建物群が出現する区域である。今回の調査では、その方形区画から谷Hまでの間が空白域になっていることが判明したが、その土地利用の解明については、今後の課題と言える。

#### 平安時代

竪穴住居跡29軒、掘立柱建物跡1棟が該当する。時期別には、9世紀前葉の第12期が竪穴住居跡5棟と掘立柱建物跡1棟、以後は竪穴住居跡だけで構成され、第13期が12軒、第14期が4軒、第15期が3軒、第16期が2軒、第17期が2軒、第18期が1軒となっている。9世紀後葉の第14期には再び東側のC群にも住居跡が出現し、10世紀後葉の第16期以降には居住域は東側へ移動し、F群では住居跡が認められなくなる。住居跡の規模は一辺3～4mで、さらに規模の小形化が進んでいる。また、主軸方向は真北からわずかに東を向くようになり、10世紀後半以降は東竈のものも見られるようになる。出土遺物は、F群の第2378号住居跡から須恵器の鉄鉢形土器、第2453号住居跡から灰釉陶器の長頸瓶が出土しているほか、各住居跡から鉄器や墨書土器が多数出土している。鉄器は、刀子9点、鎌1点、斧1点、釘7点などが出土しており、集団が移動する第15期まで、高い保有率を維持している。墨書土器は「大」、「大□（大土カ）」、「ナ」、「丕」、「□（万カ）・万」などの吉祥句のほか、「小栗」、「小□・□（方カ）」、「家」などの場所や集団を示す標識

文字と考えられるものも見られる。こうした鉄器や墨書土器の状況から、今回の調査区域は、集団内の富裕層の居住地である可能性がある。また、今回の調査では、竈の火床部から土師器の坏、小形甕や須恵器の坏、高盤が逆位で出土している例が8例、袖部や掛口部の構築材に土師器や須恵器の甕が使用されている例が3例、袖部や支脚に雲母片岩が使用されている例が1例確認されており、竈の構築材や支脚に土器や雲母片岩が多用されるのも当地の特徴の一つに挙げられる。

## 中世

方形竪穴遺構8基が確認されており、中央部の谷H周辺に分布が認められる。出土遺物が乏しいため、詳細な時期や性格については明確でない。また、時期不明とした掘立柱建物跡24棟についても、柱穴の規模や形状から、多くが中世段階に該当する可能性がある。これらの中世の遺構については、主軸方向から周囲に位置する溝跡や土坑などとの関連性がうかがえるが、整理作業が終了しておらず、その成果を待つて再度検討を行いたい。

## 4 遺構の様相（古墳時代から平安時代）（第576～579図）

ここでは、これまで刊行された当遺跡の報告書を参考にしながら今年度整理した遺構も含め、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡・井戸跡・土坑などの遺構について、その数の増減や規模の変化、さらに前項で述べた住居跡群ごとの様相を時期別に検討したい。なお、時期や規模、構造が不明なものを除いた数値を提示しているため、調査で確認された数値と異なることがある。

### (1) 竪穴住居跡

これまでに確認された竪穴住居跡の総数は2221軒である。時代別には、古墳時代（4～7世紀）800軒、奈良時代（8世紀）410軒、平安時代（9～11世紀）809軒で、時期が特定できないものが202軒である。また、住居群別に分類するとA群317軒、B群337軒、C群555軒、D群493軒、E群430軒、F群89軒となっている。

### 住居跡数の推移（グラフ1）

4世紀の第1期には、当遺跡で最初の住居跡が確認される。A群で5軒、F群で3軒と数軒にとどまるが、B群では谷B北岸、D群では谷B南岸の谷頭にまとまりが見られ、2群で51軒を数える。当期は当遺跡の集落の出現期と捉えられ、中心地であったものと想定される。その後、第1～3期にかけて減少傾向（59→4軒）を示す。第2期では新たにE群でも谷Eの谷頭を中心とした台地部に小規模な集団（5軒）が見られるようになるが、次期には姿を消している。第1・2期の集落形成は断続的であり、小規模集団が移住を繰り返していたものと想定される。第4期になると54軒を数え、A群・B群・C群・F群の各谷頭を中心とした台地部に再び小規模なまとまりが確認されるようになり、当遺跡の北半部を中心に集落が栄えていった様子がうかがえる。

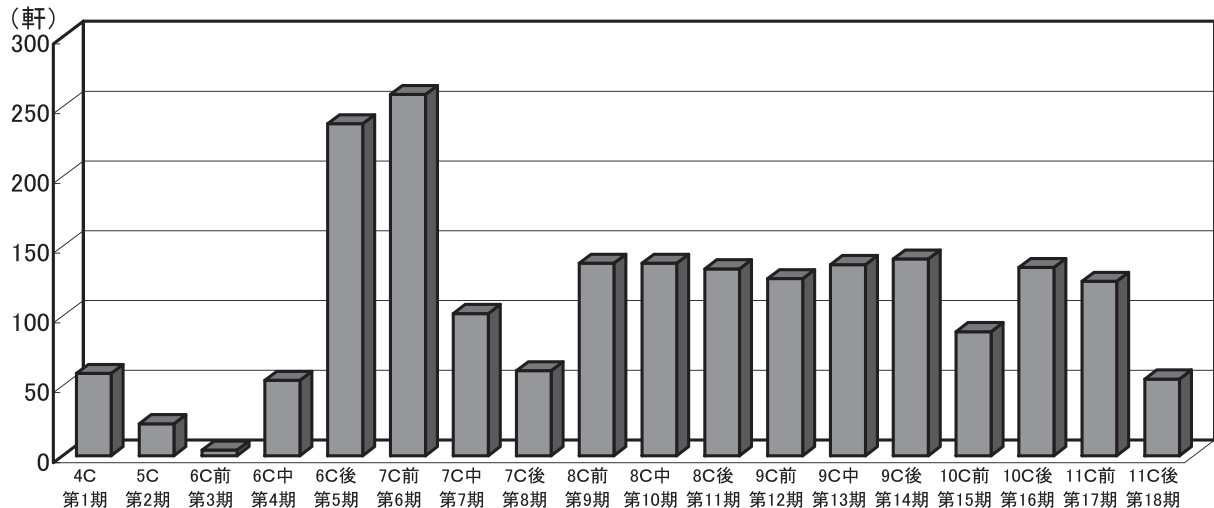
6世紀後葉の第5期には住居跡数も急増し、239軒を数える。前期と同様に各群の各谷頭を中心に大きな集団となっていく様子がうかがえる。加えてE群では新たに谷Eと谷Dの谷頭付近の台地部にそれぞれまとまりが確認されるようになり、南半部でも集落が栄えていった様子がうかがえる。第6期ではさらに増加傾向を示し、260軒を数える。古墳時代で最大の繁栄期を迎え、各群の谷部を囲むように住居跡が分

布し、当遺跡全体に集落が及ぶようになる。第5・6期は、当遺跡一帯が大規模に開発され、人口が急増した時期であったと捉えられる。第7・8期になると住居数は激減するが、第7期では103軒、第8期では58軒を数え、律令制への過渡期においても、各集団は継続して居住していたことがうかがえる。

奈良時代の第9期には、再び増加傾向を示し、138軒を数える。C群やD群の台地部にまとまりが確認されるのと同時に掘立柱建物跡も立ち並ぶようになる。以後9世紀後葉の第14期まで各期とも大幅な増減(138→141軒)は見られず、奈良時代から平安時代前半までは安定した生活の基盤がうかがえる。

10世紀前半の第15期以降は減少傾向(135→55軒)を示すものの、11世紀後半まで住居跡は確認され集落は継続して営まれていた様子がうかがえる。なお、住居跡の減少は一樣ではなく、各群とも減少していく中で、11世紀後半の第18期には、D群中央部の台地上に位置する大規模な集団と、E群南東部の谷Dの谷頭に位置する小規模な集団が見られ、その他はその周辺に点在するだけとなる。

グラフ1 島名熊の山遺跡 竪穴住居跡 時期別軒数

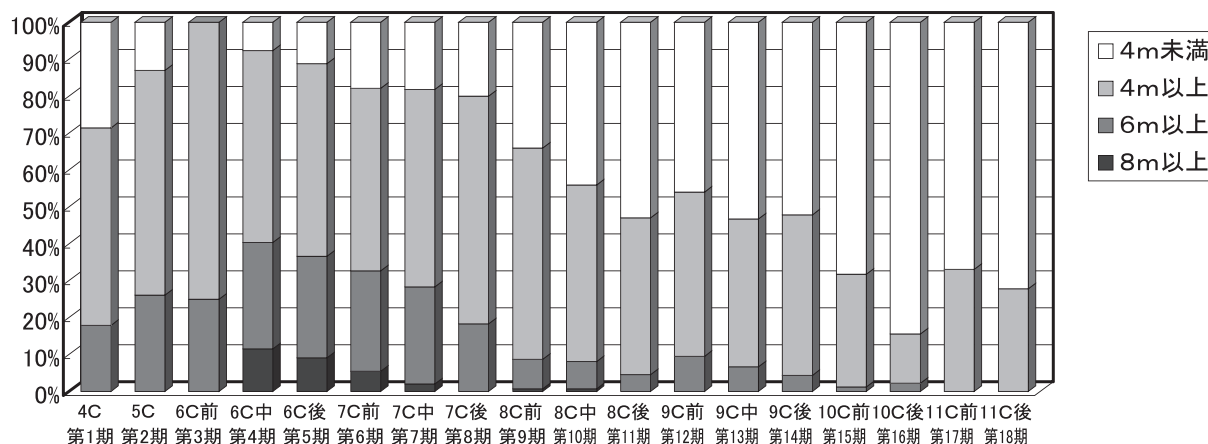


### 住居規模の変化 (グラフ2)

規模は、一辺の長さが4m未満を小形住居、4m以上6m未満を中形住居、6m以上8m未満を大形住居、8m以上を超大形住居とし、各期ごとの規模を割合で見えていくこととする。

第1～4期にかけては、大形住居が18→29%と増加しているのに対して、小形は28→7%と減少しており、第4期から超大形住居も12%確認されるようになる。このことから住居の規模は大形化する傾向がうかがえる。第5～7期にかけては、超大形住居が9→2%、大形住居が29→26%とわずかに減少するのに対し、小形住居が11→19%とわずかに増加傾向を示し、わずかに小形化する傾向が見られる。しかし軒数で見ると第5・6期で、超大形住居と大形住居を合わせて169軒を数え、当期は大形住居が立ち並ぶ最も大形化する時期と捉えられる。第8～10期にかけては、大形住居が18→7%と減少しているのに対して、小形住居は20→44%と増加傾向を示しており、急激に小形化していく様子がうかがえる。第11～14期にかけては、大形住居が5→4%、中形住居が42→44%、小形住居が53→52%とそれぞれ大きな推移は見られない。しかし、小形住居が中形住居をわずかに上回るようになることから、当期は全体的に小形化し、且つ均一化してくる時期と捉えられる。第15～18期にかけては、大形住居が1・2%で第17期以降はその姿を消す。中形住居は13→28%、小形住居は85→72%と小形住居が中形住居を大幅に上回るようになることから、当期は小形住居が多数立ち並ぶ最も小形化する時期と捉えられる。

グラフ2 島名熊の山遺跡 竪穴住居跡 規模の変化



各群の様相 (表44)

当遺跡の集落の出現期は古墳時代前期であり、4世紀の第1期には59軒が確認されている。それらの多くはB群・D群に分布し、2群で全体の86%を占める。その後、第2～4期に台地縁辺部に散在していた住居跡は、第5・6期に当遺跡全体に及ぶようになり、第7・8期では激減している。こうした古墳時代の様相は各群に共通して見られる特徴である。しかし、奈良・平安時代になると各群の様相は異なってくる。そこで、以下、奈良時代以降の各群の様相について述べる。

A群の住居跡数は、第12期に30軒を数え、全体の24%を占めており、当期をピークとして山型の様相を示している。当群の様相は、第9期に中央部から西部にかけての斜面部に点在していた住居跡が、第10期になると全体に広がり、第11～13期には北部の台地上、第14期には東部の斜面部へ移動する様子が見られる。第15期以降は東部の集団が姿を消し、西部に数軒だけが確認されるようになり、第18期には消滅する。

B群では、第10期に27軒を数え、全体の20%を占める。当期をピークとして増減(13～18軒)を繰り返し継続して確認される。第9・10期には全体的に点在していた住居跡が、第11期に谷Cの谷頭付近に小規模なまとまりを形成するようになる。第12・13期になると新たに谷Aに面した東斜面にも小集団が出現し、第14期以降はその集団が時期を経るごとに東へ移動していく様子がうかがえる。また、南部にも新たに数軒のまとまりが確認されるが、第18期にはいずれも消滅する。

C群では、第9期に39軒を数え、全体の28%を占め、当遺跡で最大値となる。以後第15期にかけて減少傾向(39→13軒)を示すが、第16・17期には41軒を数え、全体の32%を占める。第18期には激減するものの19軒を数え、継続して営まれていた様子がうかがえる。第9期には谷Bと谷Cに挟まれた台地部から東斜面部にかけて、大規模なまとまりが確認されており、これらは当遺跡の中心的な集落であったと想定される。第10～12期には、南方へ分散しながら、北部の谷Bに面した斜面部に位置する小規模な集団と南部の谷Bと谷Cに挟まれた台地上に位置する大規模な集団とに2分化していく様子がうかがえる。また、同時期には谷Cの谷頭と南部に掘立柱建物跡群が立ち並ぶようになり、大規模なまとまりが確認されている。

D群では、第9期に35軒を数え、全体の25%を占める。第10期で一時減少するが、その後増加傾向(27→36軒)を示し、第13期以降は当遺跡の最大値を継続している。第16期には44軒を数え、全体の33%を占め、第18期で減少するものの21軒を数え、全体の38%を占めている。第9～13期にかけては台地上に点在していた住居跡が時期を経るごとに、標高が最も高い中央部にまとまったり、分散したりを繰り返し、第14

期には再び大規模なまとまりとなる。そのまとまりは第16期に最大となり、当遺跡の中心的な集団であったと想定され、以後第18期まで継続される。

E群では、第9期に28軒を数え、第11期まで減少する。しかし、第12期以降増加傾向に転じ、第14期には35軒を数え、全体の25%を占めるようになる。住居跡数は第14期をピークとして山型の様相を示し、以後第18期まで継続している。当群の様相は、第9～12期にかけて谷部Dの谷頭付近、南部の斜面部、西部の台地部に3つの小規模なまとまりが見られ、中央部の台地部には掘立柱建物跡群が立ち並んでいる。これらの3つの集団は、第13～15期にかけて居住域が低地側へ広がる様子がうかがえる。谷部Dの谷頭付近の集団は点在しながら北東部へ、南部の小集団は斜面部中段から下段、西部のまとまりは台地部から斜面部へと移動している。第16期には南部の小規模な集団が消滅し、第18期には西部の集団も消滅する。北東部と谷Dの谷頭付近の集団は規模を縮小するものの第18期まで継続している。

F群は、第9期以降5～7軒が確認されており、第13期には、12軒を数えピークを迎えている。以後住居跡数は激減し、第16期以降では確認されていない。今年度の報告は、平成16年度調査の一部に留まり、今後の成果によるところが大きい。

表44 鳥名熊の山遺跡 竪穴住居跡 住居跡群・時期別軒数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 計    |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |
| A群 | 5   | 6   |     | 10  | 54  | 50  | 9   | 7   | 12  | 19   | 28   | 30   | 22   | 16   | 4    | 1    |      | 1    | 274  |
| B群 | 31  | 4   | 3   | 10  | 46  | 43  | 9   | 3   | 17  | 27   | 18   | 11   | 17   | 15   | 13   | 17   | 16   |      | 300  |
| C群 | 0   |     |     | 22  | 61  | 71  | 36  | 17  | 39  | 35   | 32   | 28   | 22   | 32   | 13   | 41   | 41   | 19   | 509  |
| D群 | 20  | 7   | 1   | 4   | 19  | 28  | 14  | 13  | 35  | 27   | 31   | 28   | 36   | 40   | 36   | 44   | 43   | 21   | 447  |
| E群 |     | 5   |     | 3   | 40  | 53  | 27  | 21  | 28  | 25   | 19   | 25   | 28   | 35   | 20   | 32   | 25   | 14   | 400  |
| F群 | 3   | 1   |     | 5   | 18  | 14  | 7   |     | 7   | 5    | 6    | 5    | 12   | 3    | 3    |      |      |      | 89   |
| 計  | 59  | 23  | 4   | 54  | 238 | 259 | 102 | 61  | 138 | 138  | 134  | 127  | 137  | 141  | 89   | 135  | 125  | 55   | 2019 |

## (2) 掘立柱建物跡

これまでの調査で確認された掘立柱建物跡は、356棟に及ぶ。そのうち古墳時代から平安時代のものは、300棟を数える。時代別には、古墳時代10棟、奈良時代117棟、平安時代127棟で、そのほとんどが8・9世紀の奈良時代と平安時代前半に集中し、総数は215棟である。構造別に分類すると側柱建物跡（以下側柱と表記）249棟、総柱建物跡（以下総柱と表記）36棟、庇付建物跡（以下庇付と表記）9棟で、総数は、294棟である。

### 掘立柱建物跡数の推移（表45 グラフ3）

当遺跡で初めて確認されるのは6世紀後葉の第5期であり、3棟が該当する。B群南部の斜面部、C群中央部の台地部と谷Cを臨む緩斜面部に各1棟ずつ見られ、いずれも桁行2間、梁行2間（以後2×2間、その他の場合も○×□間と表記）の総柱である。その後、7世紀後葉の第8期にはC群中央部の台地部、E群中央部の台地縁辺部に各3棟ずつまとまって見られるようになり、わずかではあるが増加傾向を示す。

奈良時代に入ると律令体制の進展とともに増加傾向を示し、第9～11期にかけて急増（18→61棟）する。8世紀後葉の第11期には61棟を数え、ピークを迎える。A群南部の斜面部（22棟）、C群中央部やや南東寄りの台地部（19棟）、E群中央部の台地部（15棟）に大規模なまとまりが見られるようになり、掘立柱建物跡群を形成する。そのほとんどが3×2間の側柱である。その後、9世紀後葉の第14期にかけて減少

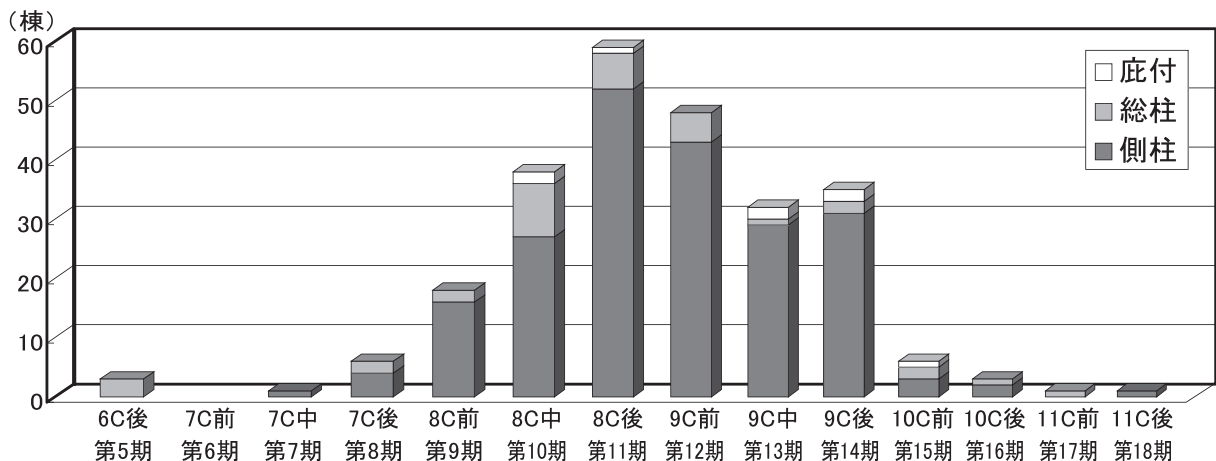


傾向（48→35棟）を示し、A群・C群・E群に小規模なまとまりが見られるだけとなる。10世紀前半の第15期には、6棟を数えるだけとなり、それまで確認されていた掘立柱建物跡群も姿を消し、新たにD群中央部南寄りの台地縁辺部に小規模なまとまりが見られるだけとなり激減する。その後、各期とも1・2棟が確認されるだけであるが、集落の終焉を迎える第18期まで存在する。

表45 島名熊の山遺跡 掘立柱建物跡 構造・時期別棟数一覧表

|    | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 総数  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
|    | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |     |
| 側柱 |     |     | 1   | 4   | 16  | 27   | 52   | 43   | 29   | 31   | 3    | 2    |      | 1    | 40   | 249 |
| 総柱 | 3   |     |     | 2   | 2   | 9    | 6    | 5    | 1    | 2    | 2    | 1    | 1    |      | 2    | 36  |
| 庇付 |     |     |     |     |     | 2    | 1    |      | 2    | 2    | 1    |      |      |      | 1    | 9   |
| 不明 |     |     |     |     |     |      | 2    |      | 1    |      |      |      |      |      | 3    | 6   |
| 総数 | 3   |     | 1   | 6   | 18  | 38   | 61   | 48   | 33   | 35   | 6    | 3    | 1    | 1    | 46   | 300 |

グラフ3 島名熊の山遺跡 掘立柱建物跡 構造・時期別棟数



各群の様相（表46・47 グラフ4）

A群では、85棟が該当する。規模は2×2間、3×2間が主体で78%を占めるが、桁行が4間以上の比較的大形のものも2棟を数える。構造は側柱が主体であるものの総柱3棟、庇付2棟も数える。初めて確認されるようになるのは、8世紀前葉の第9期であり、西部の谷Aを臨む斜面部に2棟、谷Jの西側に1棟である。いずれも2×2間、3×3間の側柱で、倉庫としての機能が想定される。その後、時期を経るごとに増加傾向（3→11棟）を示し、第11期には22棟を数え当群で最大値となる。この間、谷Aを臨む緩斜面の東・西側から中央に向けて広がっていく様子がうかがえ、当期には斜面部全体を覆い尽くすようになる。2×2間、3×3間も数棟確認されるが、中心は3×2間の側柱であり、倉庫群を形成していたものと考えられる。また、東部に位置する第403号掘立柱建物跡は2×2間の片側に庇をもつ側柱であり、倉庫とは別の機能を有する屋と考えられる。北部中央の台地部には大規模な住居跡のまとまりが確認されており、南部の倉庫群との二分化した土地利用がうかがえる。第12期以降は減少傾向を示す。9世紀後葉の第14期には、10棟を数え、住居跡が東部にまとまるのと同時に住居跡に付随する形で東部にまとまって立ち並ぶ様子がうかがえる。第15・16期には、東部のまとまりは姿を消し、西部の斜面部に住居跡に付随する形で1棟ずつ確認されるだけとなり、第17期には消滅する。

B群では、11棟が該当する。規模は2×2間、3×2間、3×3間が3棟ずつで、構造は側柱が主体となるが総柱も4棟を数え、36%を占める。初めて確認されるようになるのは、6世紀後葉の第5期であり、

南部の斜面部に1棟である。2×2間の総柱で倉庫としての機能が想定される。その後、一時その姿を消すが、8世紀中葉の第10期になって再び確認されるようになり、中央部の谷頭（谷C）に側柱と総柱が1棟ずつ距離を置いて分布する様子が見られる。その後時期を経るごとに建物同士の距離は近づき、南下していく様子がうかがえる。9世紀後葉の第14期には中央部やや東寄りに2棟の側柱が見られ、11世紀前半の第17期以降は、集落の終焉を迎える前に消滅する。

C群では、78棟が該当する。規模は、2×2間、3×2間が主体で76%を占めるが、桁行が4間以上の大形のものも5棟を数える。構造は、側柱が主体であるが、総柱12棟、庇付1棟も数える。初めて確認されるようになるのは、6世紀後葉の第5期であり、中央部の台地上に1棟、南側の谷頭に1棟である。いずれも2×2間の総柱で倉庫としての機能が想定される。その後住居跡のまとまりが南下するのと同時に掘立柱建物跡は減少し、中央部やや南寄りの谷Bに面した東斜面部に1棟が確認されるだけとなる。しかし、第10期になると谷Cの谷頭に10棟が整然と立ち並ぶようになる。また、南西部にも谷Cに沿うように5棟が立ち並び、2つの掘立柱建物跡群が見られるようになる。次期になっても同様の様相を示し、谷Cの谷頭付近では、L字状に14棟が配置され、計画的に造営・整備されていたことがうかがえる。その後、整然とした配置が崩れ、第13期にはその姿を消す。代わって南部の谷Cに沿って立ち並んでいた掘立柱建物跡群が谷部を横断するように立ち並ぶようになり、時期を経るごとにそれらはさらに南下し、第13期にはE群と合わせて一大倉庫群を形成するようになる。その後減少傾向を示し、第15期には消滅する。

D群では、27棟が該当する。規模は2×2間、3×2間が主体であるが、桁行が4軒以上のものも5棟を数え、22%を占める。構造は側柱が主体であるが、総柱7棟、庇付2棟を数える。当群では8世紀前葉の第9期に初めて掘立柱建物跡が出現し、北東部の台地縁辺部に1棟、南西部の台地上に3棟で、第10期も南西部を中心に存続し、第11期に一時的に姿を消す。第12期にはD群のピークを迎え、5棟を数える。3×2間の側柱が主体で倉庫としての機能が想定されるが、第93号掘立柱建物跡は4×3間という規模から屋としての機能も考えられる。その後南西部を中心に増減を繰り返し、第15期になると5棟を数え、再びピークを迎える。第14期の第196号掘立柱建物跡は3×2間の片側に庇をもつ側柱という構造から倉庫とは別の機能を有する屋と考えられる。また、第15期の第131号掘立柱建物跡は4×2間の三面に庇をもつ側柱で、規模や構造から仏堂的な建物と考えられる。その後第17期まで、各期1棟ずつ確認されており、第18期に消滅する。

E群では、95棟が該当する。規模は3×2間が主体で、71%を占める。構造は側柱が主体であるが、総柱7棟、庇付3棟も数える。初めて確認されるようになるのは、7世紀中葉の第7期であり、谷Dの谷頭に1棟である。次期では、同じ位置に3棟を数え、増加傾向を示す。8世紀前葉の第9期でも前期に引き続き9棟を数え、谷Dの谷頭を中心に掘立柱建物跡群が形成されていく様子がうかがえる。その後時期を経るごとに分散する傾向が見られ、北部の台地上や谷E西側の台地上にも立ち並ぶようになる。第13期には、南下してきたC群と合わせて台地部から斜面部にかけて南北に立ち並ぶようになり、規模や構造から一大倉庫群が形成されたものと考えられる。第14期には、それまで確認された掘立柱建物跡群もまばらとなり、第15期には消滅する。

F群では、4棟が該当する。規模は2×2間、3×2間が2棟ずつで、構造は側柱3棟、総柱1棟である。8世紀後葉の第11期に、谷Hの谷頭に3棟が出現する。いずれも側柱で倉庫としての機能が想定される。次の第12期には2×2間の総柱が1棟確認されるだけとなり、第13期には消滅する。

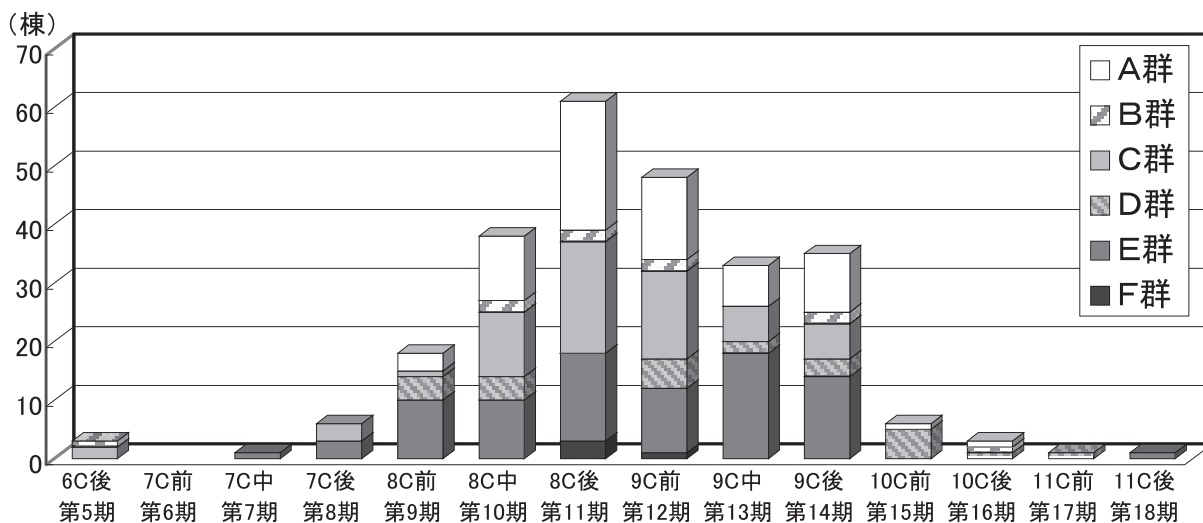
表46 島名熊の山遺跡 掘立柱建物跡 住居跡群・時期別棟数一覧表

|    | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 総数  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
|    | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |     |
| A群 |     |     |     |     | 3   | 11   | 22   | 14   | 7    | 10   | 1    | 1    |      |      | 16   | 85  |
| B群 | 1   |     |     |     |     | 2    | 2    | 2    |      | 2    |      | 1    |      |      | 1    | 11  |
| C群 | 2   |     |     | 3   | 1   | 11   | 19   | 15   | 6    | 6    |      |      |      |      | 15   | 78  |
| D群 |     |     |     |     | 4   | 4    | 0    | 5    | 2    | 3    | 5    | 1    | 1    |      | 2    | 27  |
| E群 |     |     | 1   | 3   | 10  | 10   | 15   | 11   | 18   | 14   |      |      |      | 1    | 12   | 95  |
| F群 |     |     |     |     |     |      | 3    | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 4   |
| 総数 | 3   | 0   | 1   | 6   | 18  | 38   | 61   | 48   | 33   | 35   | 6    | 3    | 1    | 1    | 46   | 300 |

表47 島名熊の山遺跡 掘立柱建物跡 住居跡群・規模別棟数一覧表

|    | 2×1 | 2×2 | 3×1 | 3×2 | 3×3 | 4×1 | 4×2 | 4×3 | 5×2 | 6×3 | 特殊 | 不明 | 総数  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|
|    | A群  |     | 17  |     | 49  | 7   | 1   | 1   |     |     |    |    |     |
| B群 | 1   | 3   | 1   | 3   | 3   |     |     |     |     |     |    |    | 11  |
| C群 | 1   | 16  |     | 43  | 5   |     | 3   | 1   | 1   | 1   | 1  | 6  | 78  |
| D群 |     | 5   |     | 12  | 1   |     | 4   | 1   |     |     |    | 4  | 27  |
| E群 | 1   | 6   | 1   | 67  |     |     | 3   | 1   | 1   |     | 1  | 14 | 95  |
| F群 |     | 2   |     | 2   |     |     |     |     |     |     |    |    | 4   |
| 総数 | 3   | 49  | 2   | 176 | 16  | 1   | 11  | 3   | 2   | 1   | 2  | 34 | 300 |

グラフ4 島名熊の山遺跡 掘立柱建物跡 住居跡群・時期別棟数

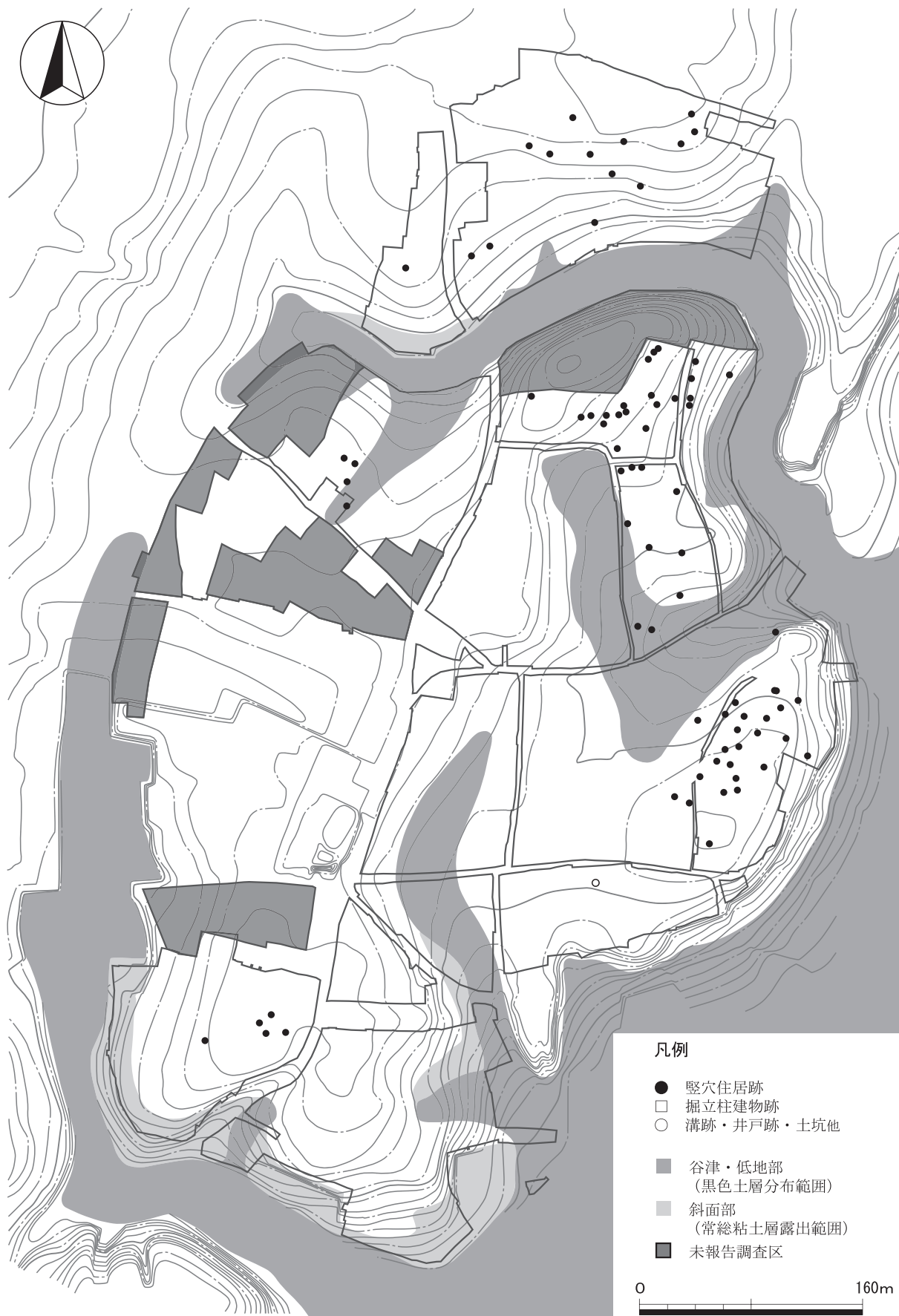


(3) その他の遺構

これまでの調査で溝跡や井戸跡、土坑などが多数確認されており、数量については「はじめに」の項を参照されたい。それらの多くは出土遺物が少ないため時期を特定するには至っていない。しかし、その中で古墳時代から平安時代と考えられる遺構は、溝跡13条、井戸跡10基、大形堅穴状遺構6基、鍛冶工房跡1基、土坑119基である。以下、各遺構について紹介する。

溝跡

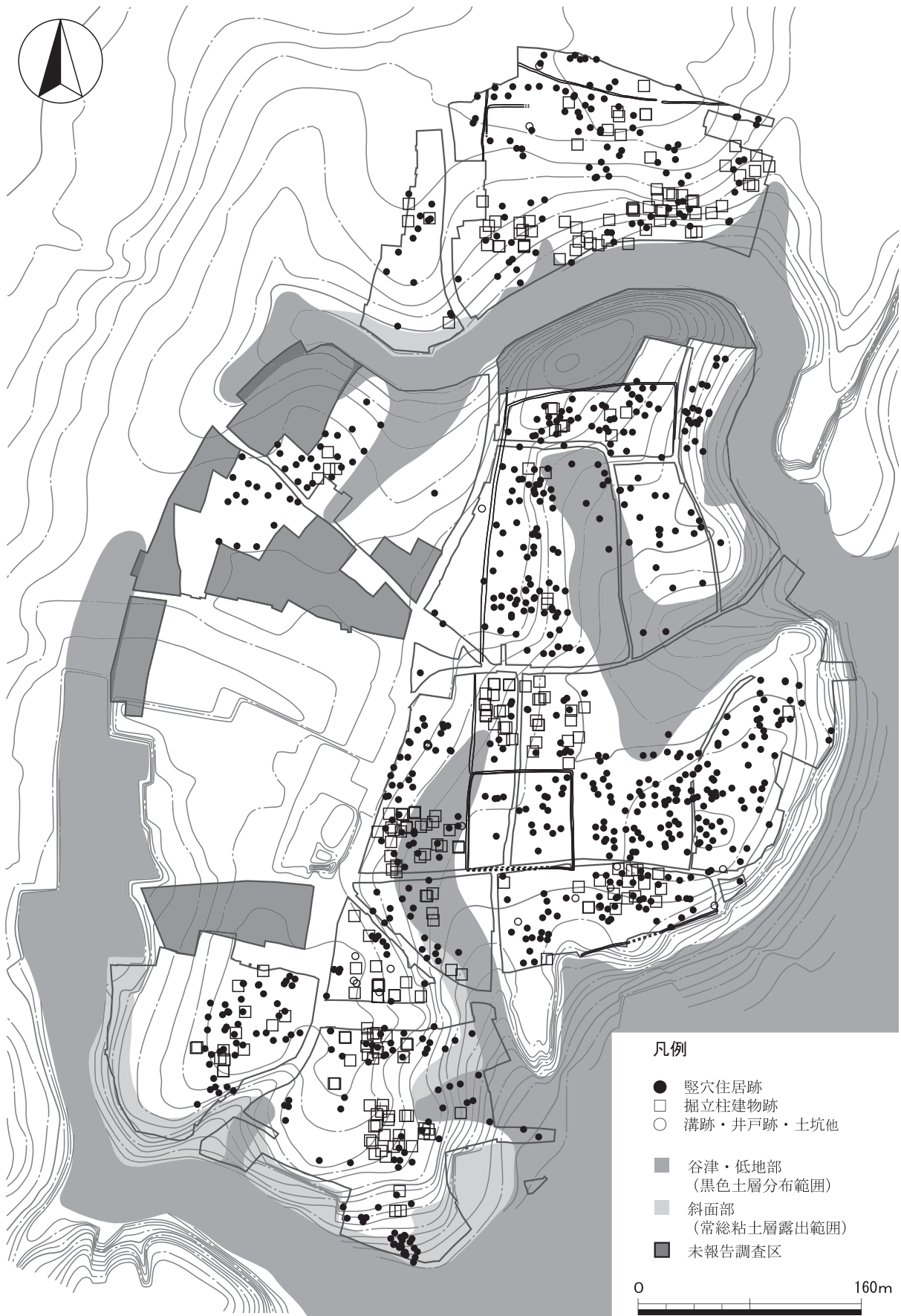
確認された13条のうち、古墳時代のものは確認されておらず、初めて確認されるようになるのは奈良時代に入ってからである。8世紀前葉の第9期にC群南部に第16・22・77号溝跡が確認され、それぞれ別の



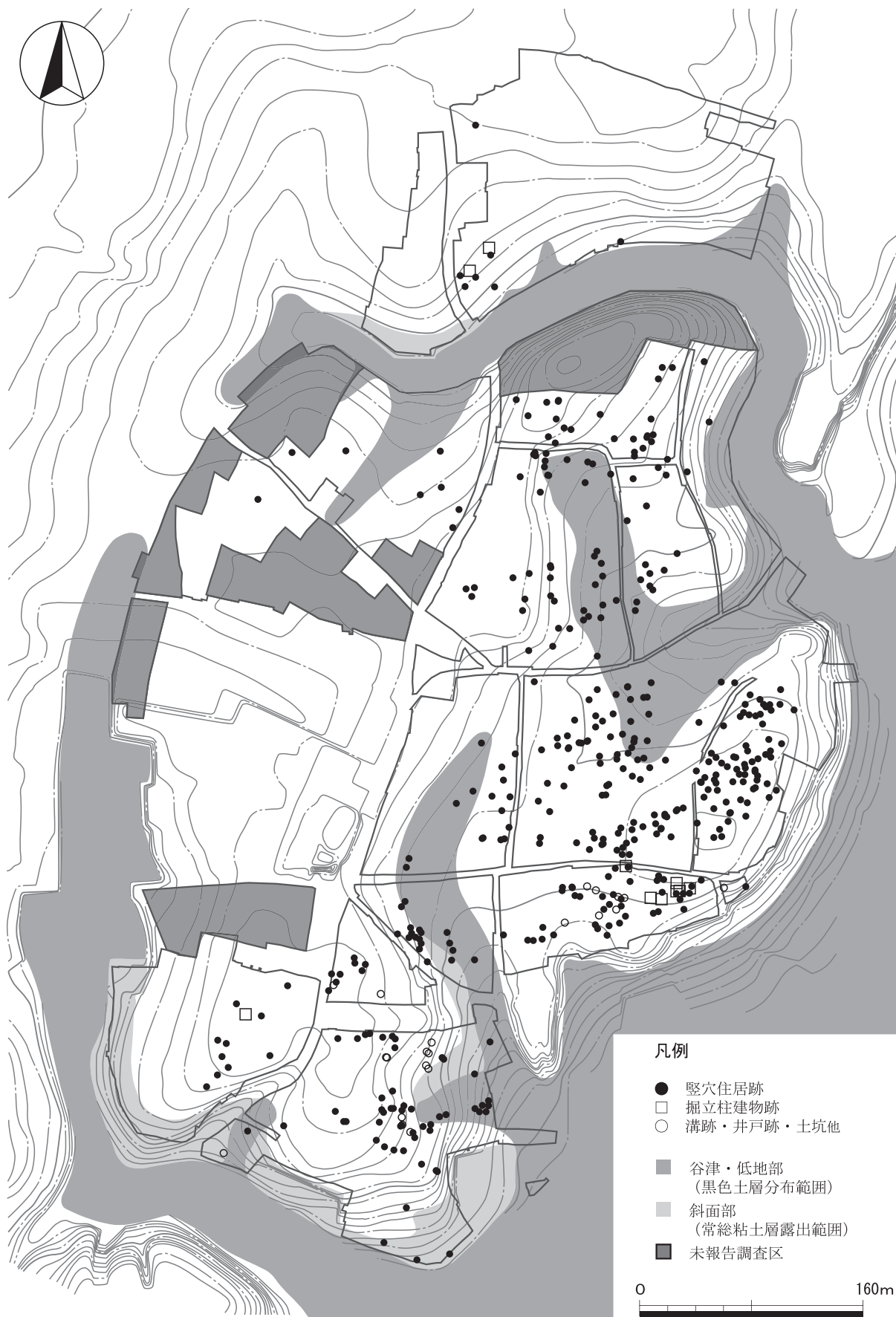
第576図 島名熊の山遺跡遺構分布図(4・5世紀)



第577図 島名熊の山遺跡遺構分布図（6・7世紀）



第578図 島名熊の山遺跡遺構分布図（8・9世紀）



第579図 島名熊の山遺跡遺構分布図 (10・11世紀)

遺構番号が付けられているものの、規模や形状から本来は同一のものであったと考えられる。それらは、1辺70mの方形に巡る区画溝と考えられ、規則的に掘削されたことが想定される。しかし、その区画された内部の性格については、明確に示す資料が検出されていないため明らかではない。第10期になると第35・35A・35B・76号溝跡が確認されるようになる。前期の方形区画溝に加えて、B群南部からD群南部にかけての集落を取り囲むように巡る大溝となる。また、同じ頃A群でも北東部に第123号溝跡が確認され、L字状に東・南方向に延び、集落を囲む様子がうかがえる。また、8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる第114・120号溝跡が確認されており、B群西部に位置する9世紀代と考えられる第37号溝跡も含めて、A群南部に立ち並ぶ掘立柱建物跡群を囲むように東西・南北に延びている様子がうかがえる。いずれも区画としての機能が想定されるが、第76号溝跡は防御的な機能も果たしていたものと想定される。

### 井戸跡

確認された10基のうち、古墳時代は4世紀後半と考えられる第38号井戸跡1基だけで、D群の南部に位置している。また、奈良時代は8世紀後半と考えられる第56号井戸跡1基だけで、A群の北東部に位置している。その他8基は平安時代で、時期はいずれも9・10世紀代と考えられる。それらはA群・C群・E群の台地部に1基ずつ確認されるほか、D群南部の台地縁辺部にまとまって検出されている。

### 大形竪穴状遺構

確認された6基のうち、古墳時代1基、奈良時代2基、平安時代3基であり、いずれもD群の台地部から台地縁辺部にかけて検出されている。第4・5号大形竪穴状遺構は、氷室としての機能が想定されるが、その他の遺構の性格は明らかでない。また、A群南西部の斜面部に位置する第3412号土坑やE群北部の台地部に位置する第1755号土坑も、規模や形状から氷室としての機能が想定される。

### 鍛冶工房跡

C群中央部の台地部に確認されており、9世紀代と考えられる。土師器片や須恵器片のほか、羽口片13点や鉄滓（含椀状滓・鍛造剥片・粒状滓）7436gが出土している。鍛造剥片の長さは2mm以下のものが多く、粒状滓は比較的大きいものが出土している。また、大形の椀状滓も出土していることから、精錬鍛冶から鍛錬鍛冶段階の作業工程を行っていたことが想定される。

### 土坑

確認された119基のうち、時代別には、古墳時代8基、奈良時代13基、平安時代98基である。また、性格別に分類すると粘土採掘坑13基、墓坑13基、焼成遺構11基、廃棄土坑6基、鍛冶関連土坑4基、氷室2基、埋納施設2基、粘土貼土坑1基、溜井1基、性格不明66基である。

粘土採掘坑は、奈良時代に1基確認されているが、その他は平安時代で、9世紀後葉から11世紀前半にかけて主にE群の斜面部中段から下段の常総粘土層が露出している位置に分布している。墓坑はいずれも10世紀代であり、主にD群南部やE群北部の台地縁辺部に分布している。焼成遺構は10・11世紀代であり、主にE群中央部の台地部から台地縁辺部にかけて分布している。鍛冶関連土坑はいずれも9世紀代であり、E群北部の緩斜面部にまとまって確認されている。砂鉄や鉄滓（含椀状滓・鍛造剥片・粒状滓）が多く出土している第4119・4120号土坑は、鍛冶炉としての機能が想定される。



## 5 遺物の様相（古墳時代～平安時代）

ここでは、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡から出土した遺物について、時期別、住居跡群ごとの出土点数を提示するとともに、素材や出土状況などについても若干の検討を行う。

### (1) 玉類

玉類は、勾玉、小玉、土玉、球状土錘、管玉、管状土錘、切子玉、白玉が出土している。

#### 勾玉（表48）

勾玉は65点出土している。時期別では古墳時代の出土数は55点で全体の85%であり、特に6世紀後葉が25点、7世紀前葉が18点と二時期に集中している。他の時期は1～3点程度の出土数であるが、古墳時代以降のものは遺構の重複等による混入の可能性が高い。素材は、土製51点、滑石5点、緑泥片岩・瑪瑙・蛇紋岩各2点、碧玉・粘板岩・花崗岩各1点で、4・5世紀代は滑石・碧玉製のものがみられ、6世紀代は全て土製であり、7世紀以降になって滑石製・緑泥片岩・瑪瑙などの石製のものがみられるようになる。3点以上出土している例は、A群の第2015・2052・2241号住居跡の3例である。各住居跡は複数の土玉や白玉とともに貯蔵穴やコーナー部付近の覆土中から散在した状態で出土している。

表48 島名熊の山遺跡 勾玉 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 計  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |    |
| A群 |     |     |     | 1   | 11  | 7   | 3   | 1   |     | 1    | 1    |      | 1    |      |      |      |      |      | 26 |
| B群 | 1   |     |     | 2   | 2   | 6   |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 11 |
| C群 |     |     |     |     | 4   | 4   |     |     | 2   |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 10 |
| D群 |     | 1   |     |     | 1   | 1   |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 3  |
| E群 |     |     |     |     | 5   |     |     | 1   | 1   | 1    |      |      |      |      |      | 1    |      |      | 9  |
| F群 |     |     |     | 2   | 2   |     |     |     |     |      |      | 1    |      | 1    |      |      |      |      | 6  |
| 計  | 1   | 1   |     | 5   | 25  | 18  | 3   | 2   | 3   | 2    | 1    | 1    | 1    | 1    |      | 1    |      |      | 65 |

#### 丸玉類（表49）

丸玉類は小玉、土玉、球状土錘に分類され、土製のものについては、径1cm未満の小形で丁寧なナデ調整のものを小玉、径1cm以上、2cm未満のものを土玉、径2cm以上の大形で粗いナデ調整のものを球状土錘としている。小玉は装身具や祭祀具、球状土錘は漁撈具としての用途が想定されるが、土玉について双方と共伴しており、明確に区別できない。したがって、ここでは丸玉類として総体で記述する。丸玉類は347点出土している。時期別には、古墳時代が299点で全体の86%を占め、そのうち6世紀後葉が94点、7世紀前葉が151点である。ただし、9世紀後葉の第2466号住居跡から球状土錘3点が出土しているように、混入とは解釈できない事例も認められる。素材の内訳は、土製337点、蛇紋岩5点、頁岩2点、滑石・ガラス各1点で、6世紀代までは土製が中心で、7世紀代に石製・ガラス製の出土例が増加する。主な出土状況としては、第1569号住居跡の竈周辺から土玉39点が鋤先形土製品や土製白玉とともに出土しているほか、第1735・2193号住居跡からは10点前後の土玉が床面からまとまった状態で、第510号住居跡は16点の小玉、土玉が掘り方の構築土から、第2024号住居跡は小玉6点、土玉2点、第2666号住居跡は土玉6点、球状土錘12点がいずれも覆土上層から散在した状態でそれぞれ出土している。

表49 島名熊の山遺跡 丸玉類 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |     |
| A群 |     |     |     | 5   | 38  | 17  | 5   | 2   | 1   |      | 2    | 1    |      | 1    | 1    |      |      |      |      | 73  |
| B群 | 2   |     |     | 2   | 14  | 17  | 3   |     |     | 1    | 2    |      | 1    |      | 1    |      | 1    |      | 2    | 46  |
| C群 |     |     |     | 6   | 16  | 35  | 4   | 2   | 1   | 2    |      | 1    | 3    | 2    |      |      |      |      | 3    | 75  |
| D群 |     | 1   |     |     | 4   | 3   |     |     |     |      |      | 2    |      |      |      | 1    | 1    | 1    |      | 13  |
| E群 |     |     |     | 5   | 19  | 79  | 3   | 9   |     | 2    |      | 3    | 2    | 1    | 1    |      | 1    |      |      | 125 |
| F群 |     |     |     | 5   | 3   |     |     |     |     |      | 2    |      | 1    | 1    | 3    |      |      |      |      | 15  |
| 計  | 2   | 1   |     | 23  | 94  | 151 | 15  | 13  | 2   | 5    | 6    | 7    | 7    | 5    | 6    | 1    | 3    | 1    | 5    | 347 |

管玉類 (表50)

管玉類は管玉、管状土錘、切子玉に分類される。土製のものについては、側面の形状が長方形を呈するものと中央部が膨れて菱形を呈するものがみられる。前者は伴出遺物から3cmを基準に管玉と管状土錘に分類される。後者は形状から切子玉の模造品と考えられるが、粗いナデ調整のものもみられることから用途は明確でない。管玉類は73点出土しており、内訳は管状土錘が37点、土製管玉が15点、石製管玉が7点(碧玉・滑石各2点、チャート・凝灰岩・玢岩各1点)、土製切子玉が10点、水晶製切子玉が4点である。時期別の出土数は、古墳時代が40点、奈良時代が7点、平安時代が26点となっており、7世紀前葉が23点で最も多く、次いで11世紀前葉が17点となっている。また、4世紀代は石製管玉、6世紀代は土製管玉と土製切子玉が中心で、7世紀代には土製や石製の管玉、切子玉が増加し、7世紀後半以降は管状土錘が主体となっている。7世紀代に石製管玉、切子玉が増加する傾向は前述の勾玉、丸玉類にも共通して認められ、7世紀を画期として、当遺跡へもたらされる石製品の数量が増加していることがわかる。主な出土状況は、7世紀前葉の第246・2024・2657号住居跡から、3～7点の土製管玉や管状土錘が出土しており、いずれも土製勾玉や土玉、ガラス製小玉、滑石製白玉などの複数の玉類と共伴していることから、装身具や祭祀具としての利用が考えられる。一方で、10世紀後葉の第205号住居跡は、床面から管状土錘14点がまとまって出土しており、漁撈具としての可能性がうかがえる。また、水晶製切子玉は、7世紀前葉の第49・2027・2262住居跡、8世紀前葉の第1096号住居跡から出土している。

表50 島名熊の山遺跡 管玉類 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 計 |    |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |   |    |
| A群 |     |     |     | 2   | 2   | 12  |     |     |     |      |      | 2    |      |      |      |      |      |      |   | 18 |
| B群 | 2   |     |     |     | 2   | 6   |     |     | 1   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |   | 11 |
| C群 |     |     |     |     | 1   | 2   | 3   |     |     |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      |   | 7  |
| D群 |     |     |     |     |     |     |     |     | 3   |      |      |      |      | 1    | 6    | 16   |      |      |   | 26 |
| E群 |     |     |     |     | 2   | 3   | 1   | 2   |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |   | 8  |
| F群 |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |      | 2    |      |      |      |      |      |      |      |   | 3  |
| 計  | 2   |     |     | 2   | 7   | 23  | 4   | 2   | 5   |      | 2    | 2    |      | 1    | 6    | 17   |      |      |   | 73 |

白玉 (表51)

白玉は85点出土している。時期別には、古墳時代の出土数が72点で全体の約85%を占め、そのうち6世紀後葉が34点、7世紀前葉が22点である。素材は、土製4点、滑石64点、蛇紋岩9点、凝灰岩・粘板岩・

緑泥片岩・珪岩各1点，石材不明3点となっている。出土数では第972・2015・2024・2193号住居跡の3点が最も多く，出土状況は土製の勾玉，小玉，土玉，管玉とともに，壁際の覆土中や床面から散在した状態で出土している例が多い。

表51 島名熊の山遺跡 白玉 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計 |    |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |   |    |
| A群 |     |     |     | 3   | 11  | 8   |     | 2   |     |      | 1    |      |      | 2    |      |      |      |      |      | 2 | 29 |
| B群 |     |     |     | 1   | 9   | 3   | 3   |     | 2   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |   | 18 |
| C群 |     |     |     |     | 9   | 5   | 2   |     | 1   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1 | 18 |
| D群 |     |     |     |     |     |     | 2   |     | 1   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |   | 3  |
| E群 |     | 1   |     |     | 2   | 3   |     | 2   |     | 1    |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |   | 10 |
| F群 |     |     |     | 1   | 3   | 1   |     |     | 1   |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |   | 7  |
| 計  |     | 1   |     | 5   | 34  | 22  | 5   | 5   | 4   | 1    | 2    |      |      | 1    | 2    |      |      |      | 3    |   | 85 |

(2) 鉄器

鉄器は，刀子，鑿，鉋，錐，鉗などの工具類，鎌，鋤先，斧などの農耕・土木具類，鍬，小刀，短刀，劍，責金具，石突，小札などの武器・武具類，轡や辻金具などの馬具の他，楔，釘，鏝，門，火打金などが出土している。ここでは出土数の多い刀子，鍬，鎌，斧，鋤先について取り上げ，鉄器の使用を示す砥石についても検討を行う。また，これらの鉄製品を出土した住居の軒数から，鉄器保有率を算出する。

刀子（表52）

刀子は365点出土している。時期別には古墳時代が83点，奈良時代が99点，平安時代が173点で，7世紀前葉から出土数が急増し，9世紀中葉まで増加傾向を示し，当期には50点が出土している。10世紀前半以降は出土数が減少するものの，11世紀後半まで一定量の出土数が認められる。住居群別には，A・C・D・E群からそれぞれ80点前後が出土している。

表52 島名熊の山遺跡 刀子 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計 |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|-----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |   |     |
| A群 |     |     |     | 1   | 5   | 8   | 4   | 3   | 6   | 8    | 7    | 15   | 11   | 1    |      |      |      |      |      | 8 | 77  |
| B群 |     |     |     |     | 2   | 3   | 1   |     | 1   | 2    | 1    | 1    | 7    | 3    |      | 2    | 4    |      |      |   | 27  |
| C群 |     |     |     | 4   | 2   | 8   | 5   | 3   | 4   | 8    | 4    | 7    | 11   | 15   |      | 2    | 3    | 2    | 3    | 3 | 81  |
| D群 |     |     |     |     | 1   | 3   | 7   | 1   | 8   | 6    | 7    | 4    | 10   | 13   | 5    | 2    | 6    | 3    | 1    |   | 77  |
| E群 |     | 1   |     |     | 3   | 6   | 1   | 6   | 11  | 13   | 3    | 10   | 9    | 4    | 1    | 3    | 2    | 1    |      | 5 | 79  |
| F群 |     |     |     |     |     | 1   | 4   |     | 1   | 3    | 6    | 3    | 2    | 3    | 1    |      |      |      |      |   | 24  |
| 計  |     | 1   |     | 5   | 13  | 29  | 22  | 13  | 31  | 40   | 28   | 40   | 50   | 39   | 7    | 9    | 15   | 6    | 17   |   | 365 |

鍬（表53）

鍬は205点出土している。時期別には，古墳時代が56点，奈良時代が55点，平安時代が92点で，7世紀前葉，8世紀前葉，11世紀前葉の三時期を頂点に緩やかな増減を繰り返している。住居群別にはD・E群が全体の約6割を占め，7世紀後葉以降はこの2群が相互に補完し合う形で出土数が推移している。

表53 島名熊の山遺跡 鎌 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計 |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|-----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |   |     |
| A群 |     |     |     |     |     | 9   |     | 1   |     | 2    | 4    | 12   | 1    |      |      |      |      |      |      |   | 29  |
| B群 |     |     |     | 1   |     | 3   | 1   |     | 2   | 1    |      |      |      | 2    | 2    | 1    | 2    | 4    |      |   | 19  |
| C群 |     |     |     | 3   | 6   | 3   | 2   | 2   | 4   | 1    | 3    | 1    | 3    |      | 2    | 5    | 2    |      |      |   | 37  |
| D群 |     |     |     |     | 1   | 2   | 2   |     | 13  | 8    | 2    |      |      | 3    | 5    | 8    | 8    | 1    | 1    |   | 54  |
| E群 |     |     |     |     | 6   | 1   | 2   | 10  | 2   | 7    | 5    | 4    | 4    | 8    | 1    | 2    | 8    | 2    | 1    |   | 63  |
| F群 |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     | 1    |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |   | 3   |
| 計  |     |     |     | 4   | 13  | 19  | 7   | 13  | 21  | 20   | 14   | 18   | 10   | 13   | 9    | 17   | 22   | 3    | 2    |   | 205 |

鎌 (表54)

鎌は140点出土している。時期別の出土数は、古墳時代が49点、奈良時代が35点、平安時代が54点で、7世紀前葉が21点と最も多く、次いで8世紀後葉から9世紀中葉が16～19点で、その他の時期にも安定した出土傾向を示している。住居群別には群ごとの偏差が少なく、等質な所有状況がうかがえる。

表54 島名熊の山遺跡 鎌 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計 |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|-----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |   |     |
| A群 |     |     |     | 2   |     | 7   | 1   | 3   |     | 1    | 5    | 10   | 6    |      |      |      |      |      |      |   | 35  |
| B群 |     |     |     |     | 1   | 5   |     |     |     | 3    |      | 1    | 2    | 2    |      |      |      |      |      | 1 | 15  |
| C群 |     |     |     | 1   | 3   | 4   | 4   | 1   | 2   |      | 3    |      | 6    | 3    |      | 2    |      |      |      |   | 29  |
| D群 |     |     |     |     |     | 1   | 7   |     | 3   | 2    | 3    | 5    | 2    | 2    | 3    |      | 1    |      | 1    |   | 30  |
| E群 |     |     |     |     |     | 4   | 1   | 2   | 3   | 3    | 3    | 2    | 3    | 2    |      | 1    | 1    |      |      |   | 25  |
| F群 |     |     |     |     | 2   |     |     |     | 2   |      | 2    |      |      |      |      |      |      |      |      |   | 6   |
| 計  |     |     |     | 3   | 6   | 21  | 13  | 6   | 10  | 9    | 16   | 18   | 19   | 9    | 3    | 3    | 2    |      | 2    |   | 140 |

鋤先

鋤先は9点出土しており、時期別、住居跡群別の出土数は、6世紀代はC群で3点、E群で1点、8世紀代にはA・B・D群、9世紀代にはA・E群で各1点ずつ確認されている。

斧

斧は11点出土している。時期別、住居跡群別の出土数は、7世紀代はA群が1点、8世紀代はD群が1点、9世紀代はA群が2点、C～F群が各1点、10世紀代はC群が1点、D群が2点となっている。

砥石 (表55・56)

砥石は257点出土している。時期別には、古墳時代が109点、奈良時代が41点、平安時代が92点で、6世紀後葉が41点と最も多く、次いで7世紀前葉と9世紀後葉が30点となっている。素材は、凝灰岩149点、砂岩23点、雲母片岩・軽石が各8点、粘板岩6点、安山岩5点、ホルンフェルスが2点、玄武岩・石英斑岩・流紋岩・緑泥片岩が各1点、土器転用のものが23点で、研磨用と荒研ぎ用の比率はおおよそ8：2となる。前述の鉄器の出土数が8・9世紀代にピークを迎えるのに対し、砥石の出土数が古墳時代に多いことは、古墳時代には不要となった鉄器が再鍛造され、再利用されていた可能性を示唆している。

表55 島名熊の山遺跡 砥石 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |     |
| A群 | 2   | 1   |     | 2   | 7   | 10  | 3   | 1   | 3   | 2    | 3    | 8    | 5    | 4    |      |      |      | 1    | 4    | 56  |
| B群 | 1   |     | 1   |     | 9   | 4   | 1   | 4   | 1   | 2    | 2    |      | 3    | 2    |      | 2    | 1    |      | 3    | 36  |
| C群 |     |     |     | 1   | 13  | 4   | 9   |     | 4   | 3    | 1    | 3    | 4    | 6    |      | 3    | 3    |      | 1    | 55  |
| D群 | 2   |     | 1   |     | 2   | 3   |     | 1   | 3   | 1    | 3    |      | 4    | 9    | 3    | 7    | 2    | 1    | 2    | 44  |
| E群 |     |     |     |     | 7   | 8   | 5   | 2   | 3   | 5    | 3    | 2    | 4    | 8    | 1    | 4    | 1    | 1    | 2    | 56  |
| F群 |     |     |     | 1   | 3   | 1   |     |     | 2   |      |      |      | 2    | 1    |      |      |      |      |      | 10  |
| 計  | 5   | 1   | 2   | 4   | 41  | 30  | 18  | 8   | 16  | 13   | 12   | 13   | 22   | 30   | 4    | 16   | 7    | 3    | 12   | 257 |

表56 島名熊の山遺跡 砥石 素材・時期別出土数一覧表

|         | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計   |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
|         | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |     |
| 土器転用    |     |     | 1   |     | 6   | 6   | 3   | 3   |     | 1    |      |      | 1    | 1    |      |      |      |      | 1    | 23  |
| 凝灰岩     | 3   |     |     | 2   | 21  | 16  | 8   | 4   | 8   | 10   | 9    | 9    | 16   | 20   | 2    | 7    | 4    | 3    | 7    | 149 |
| 砂岩      | 1   |     |     | 1   | 5   | 1   | 1   | 1   | 4   |      | 1    |      | 1    | 3    | 1    | 3    |      |      |      | 23  |
| 雲母片岩    |     |     |     |     |     | 1   | 1   |     |     |      | 1    | 1    |      | 2    |      | 1    |      |      | 1    | 8   |
| 軽石      |     |     |     | 1   |     | 1   |     |     |     |      |      | 1    |      | 3    |      | 1    | 1    |      |      | 8   |
| 粘板岩     |     | 1   | 1   |     | 2   |     |     |     | 1   |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 6   |
| 安山岩     |     |     |     |     |     | 1   | 2   |     | 1   |      |      |      |      |      |      | 1    |      |      |      | 5   |
| ホルンフェルス |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     |      |      |      |      |      |      | 1    |      |      |      | 2   |
| 玄武岩     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1   |
| 石英斑岩    |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1   |
| 流紋岩     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      | 1   |
| 緑泥片岩    |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1   |
| 石材不明    | 1   |     |     |     | 7   | 3   | 2   |     | 1   | 1    | 1    | 1    | 4    | 1    | 1    | 2    | 2    |      | 2    | 29  |
| 計       | 5   | 1   | 2   | 4   | 41  | 30  | 18  | 8   | 16  | 13   | 12   | 13   | 22   | 30   | 4    | 16   | 7    | 3    | 12   | 257 |

鉄器保有率（表57）

表57は、確認された住居数に占める鉄製品や砥石の出土住居数の比率を示したものである。

金属製品と砥石は、遺跡全体では2221軒中674軒の住居跡から出土しており、鉄製品の保有率は30.3%である。時期別に見ると、4・5世紀代は10%以下、6世紀代は20%代で集団内で集中的に管理されていたことが予想される。7～8世紀代は30%代で、集落内への鉄製品の浸透をうかがうことができ、9世紀代は30～50%代の高い普及率を示している。10～11世紀代は20～30%前後に減少している。

表57 島名熊の山遺跡 鉄器保有率（%） 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期  | 第2期  | 第3期  | 第4期  | 第5期  | 第6期  | 第7期  | 第8期  | 第9期  | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 計    |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|    | 4C   | 5C   | 6C前  | 6C中  | 6C後  | 7C前  | 7C中  | 7C後  | 8C前  | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |
| A群 | 40.0 | 16.7 | —    | 30.0 | 22.2 | 38.0 | 44.4 | 42.9 | 41.7 | 52.6 | 35.7 | 53.3 | 68.2 | 31.3 | 0    | 0    | —    | 100  | 36.3 |
| B群 | 3.2  | 0    | 33.3 | 10.0 | 19.1 | 31.8 | 20.0 | —    | 23.5 | 22.2 | 22.2 | 18.2 | 58.8 | 33.3 | 7.7  | 23.5 | 31.3 | —    | 21.3 |
| C群 | 0    | —    | —    | 27.3 | 34.4 | 29.6 | 41.7 | 35.3 | 25.6 | 22.9 | 25.0 | 39.3 | 59.1 | 43.8 | 7.7  | 19.5 | 22.0 | 21.1 | 28.6 |
| D群 | 10.0 | 0    | 100  | 0    | 26.3 | 25.0 | 50.0 | 15.4 | 45.7 | 44.4 | 38.7 | 25.0 | 36.1 | 50.0 | 25.0 | 20.5 | 34.9 | 19.0 | 29.6 |
| E群 | —    | 20.0 | —    | 0    | 12.5 | 26.4 | 25.9 | 57.1 | 32.1 | 56.0 | 63.2 | 40.0 | 42.6 | 34.3 | 15.0 | 28.1 | 40.0 | 35.7 | 34.9 |
| F群 | 0    | —    | —    | 20.0 | 22.2 | 14.3 | 28.6 | —    | 28.6 | 60.0 | 83.3 | 40.0 | 58.3 | 100  | 33.3 | —    | —    | —    | 30.3 |
| 計  | 8.5  | 8.7  | 50   | 20.4 | 26.8 | 29.6 | 35.9 | 39.7 | 33.3 | 33.3 | 38.1 | 37.8 | 50.4 | 41.8 | 16.9 | 22.2 | 31.2 | 25.5 | 30.3 |

次に、住居群ごとの様相についてみていきたい。A群の総軒数に占める鉄製品出土住居数は36.3%で、出現当初から高い鉄製品の保有率を示している。B群は21.3%で、9世紀中葉に6割近い数値を示す以外は、各期を通じて最も保有率の低い一群である。C群は28.6%で、6・7世紀代と9世紀代に増加傾向がみられる。D群は29.6%で、8世紀代を中心とし、10世紀代以降も大きく減少することなく推移する。E群は34.9%で、7世紀後葉以降、11世紀後葉まで高い保有率を維持している。F群は36.4%で、限られた調査区域でのデータであるが、8世紀中葉以降に高い保有率を示している。

(3) 紡錘車 (表58・59 グラフ5)

紡錘車は183点出土している。時期別の出土数は住居軒数の増減と呼応し、各期とも安定した出土数を保持している。素材は、土製63点、土器転用6点、粘板岩25点、滑石18点、蛇紋岩16点、凝灰岩10点、泥岩7点、砂岩3点、ホルンフェルス2点、頁岩・緑泥片岩各1点、石材不明3、鉄製28点である。素材別の変遷を見ると、7世紀前葉までは土製と石製が同率か土製のものがやや多い傾向にあり、7世紀後葉以降になると石製のものが主体的に使用されるようになる。8世紀後葉以降は土器転用のものや鉄製の車輪部を持つもの出現し、10世紀後葉以降は、鉄製のものが主体となっている。なお、当遺跡では、鉄製の車輪部を持つ紡錘車は、8世紀後葉の第1030号住居跡から出土したものが最も古い例であり、以前の鉄製紡錘車は軸部のみが出土したものである。

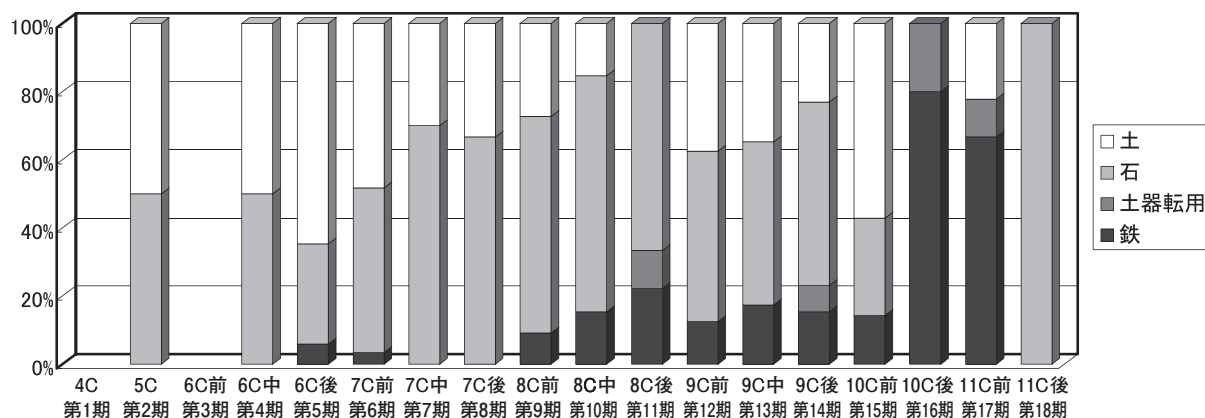
表58 島名熊の山遺跡 紡錘車 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |     |
| A群 |     |     |     | 1   | 3   | 8   | 2   |     |     | 2    | 2    | 7    | 7    | 1    |      |      |      |      | 1    | 34  |
| B群 |     |     |     |     | 2   | 4   |     |     | 1   | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 2    | 1    | 3    |      | 2    | 20  |
| C群 |     |     |     | 1   | 7   | 9   | 6   | 1   | 2   | 2    | 2    | 5    | 5    | 4    |      | 2    | 4    |      | 1    | 51  |
| D群 |     | 2   |     | 1   |     |     |     |     | 3   | 2    | 3    | 1    | 4    | 4    | 2    | 2    |      |      | 2    | 26  |
| E群 |     |     |     |     | 4   | 8   | 1   | 5   | 4   | 5    | 1    | 2    | 6    | 3    | 2    |      | 2    | 1    | 2    | 46  |
| F群 |     |     |     | 1   | 1   |     | 1   |     | 1   | 1    |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      | 6   |
| 計  |     | 2   |     | 4   | 17  | 29  | 10  | 6   | 11  | 13   | 9    | 16   | 23   | 13   | 7    | 5    | 9    | 1    | 8    | 183 |

表59 島名熊の山遺跡 紡錘車 素材・時期別出土数一覧表

|         | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計   |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
|         | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |     |
| 土       |     | 1   |     | 2   | 11  | 14  | 3   | 2   | 3   | 2    |      | 6    | 8    | 3    | 4    |      | 2    |      | 2    | 63  |
| 土器転用    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      | 1    |      |      | 1    |      | 1    | 1    |      | 2    | 6   |
| 粘板岩     |     |     |     |     | 2   | 2   | 2   | 2   | 4   | 4    | 2    | 1    | 4    | 2    |      |      |      |      |      | 25  |
| 滑石      |     |     |     |     | 1   | 6   | 1   |     | 1   | 2    | 1    | 1    | 2    |      | 1    |      |      | 1    | 1    | 18  |
| 蛇紋岩     |     |     |     | 2   | 1   | 4   | 1   | 1   | 1   | 1    | 1    |      | 2    | 1    | 1    |      |      |      |      | 16  |
| 凝灰岩     |     |     |     |     | 1   | 1   |     |     |     | 1    |      | 2    | 3    | 2    |      |      |      |      |      | 10  |
| 泥岩      |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 1    | 1    | 3    |      | 1    |      |      |      |      |      | 7   |
| 砂岩      |     | 1   |     |     |     |     | 1   |     |     |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 3   |
| ホルンフェルス |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      | 2   |
| 頁岩      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      | 1   |
| 緑泥片岩    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 1   |
| 石材不明    |     |     |     |     |     |     | 2   |     | 1   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 3   |
| 鉄       |     |     |     |     | 1   | 1   |     |     | 1   | 2    | 2    | 2    | 4    | 2    | 1    | 4    | 6    |      | 2    | 28  |
| 総計      |     | 2   |     | 4   | 17  | 29  | 10  | 6   | 11  | 13   | 9    | 16   | 23   | 13   | 7    | 5    | 9    | 1    | 8    | 183 |

グラフ5 島名熊の山遺跡 紡錘車 素材の変化



#### (4) 製鉄・鑄造関連遺物 (第580図)

当遺跡における製鉄関連遺物としては、鉄滓665点、羽口71点が出土している。竪穴住居跡から出土する鉄滓は、集落内における小鍛冶の存在をうかがわせる資料として取り上げられることが多いものの、実際に当遺跡で確認されている鍛冶関連遺構は、第1号鍛冶工房跡、第4119・4120・4125・4127号土坑の5例にすぎない。また、出土状況から投棄遺物であるという資料的な制約から、詳細な検討が行われていないのが現状である。ここでは、当遺跡全体からみた鉄滓の分布状況について検討を試みる。

第580図は、鉄滓が出土した住居跡の位置に出土点数をドットで示したものである。第580図によると、鉄滓の分布には、ある程度、同時期のまとまりが認められるとともに、時期ごとに偏在する傾向が見受けられる。以下、住居跡群ごとに、鉄滓が分布する範囲の時期的なまとまりについて解説する。

A群は北部、南部、南東部に出土地点が集中している。北部は7世紀前葉、8世紀後葉、9世紀前・中葉の住居跡から、南部は7世紀前・中葉、8世紀後葉、9世紀前・中葉、南東部では9世紀後葉の住居跡からまとまって出土している。

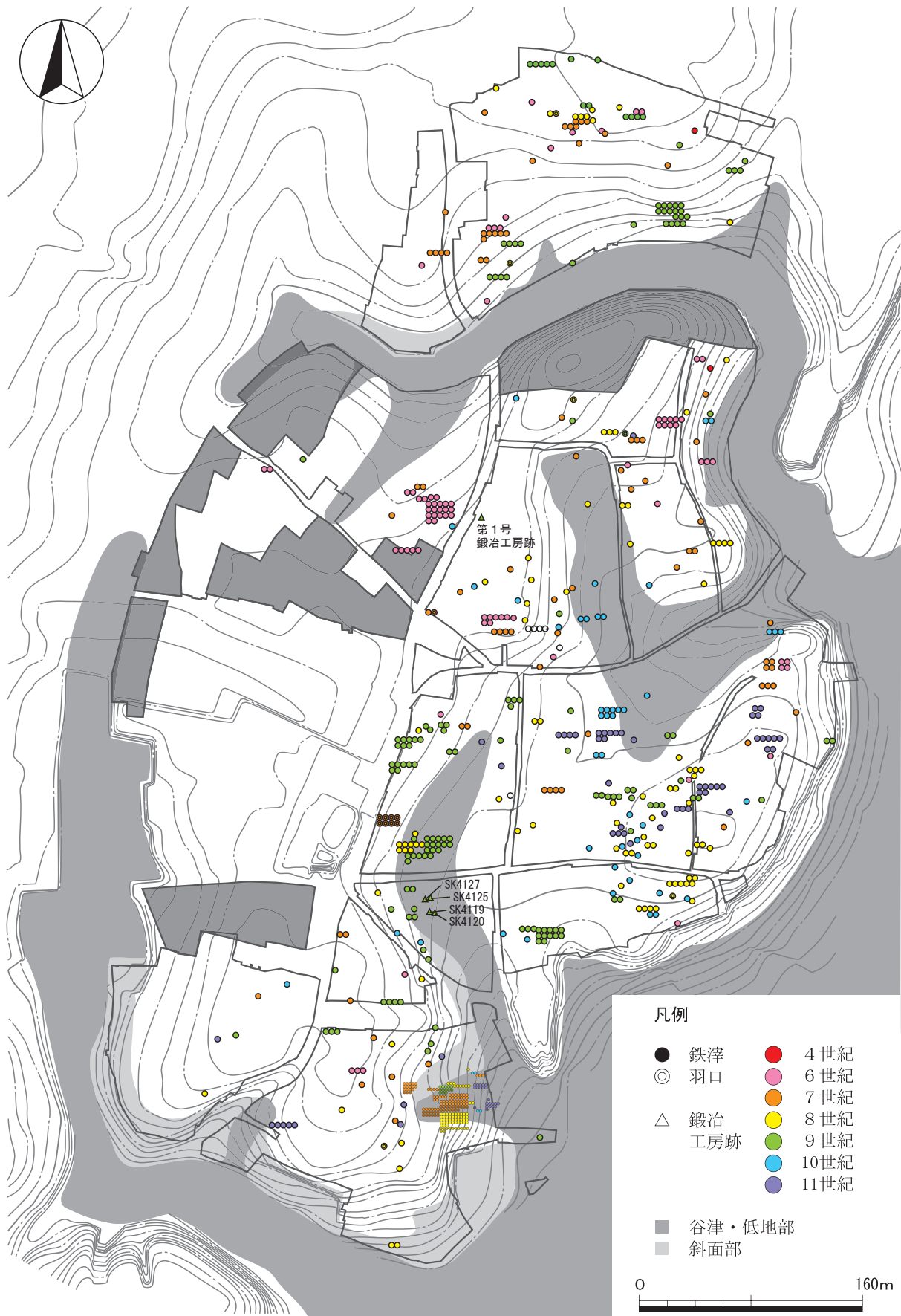
B群は、中央部の台地上では6世紀後葉から7世紀中葉、南側の縁辺部では7世紀前葉と8世紀前葉の住居跡から出土している。

C群は北西部で6世紀後葉、谷Bの谷頭付近の中央部で6世紀後葉から7世紀前葉、8世紀前葉、10世紀後葉、同じく南部で10世紀後葉から11世紀前葉、南部の谷C周辺で7世紀中葉、8世紀中葉、9世紀後葉の住居跡から出土している。また、当群の北側には9世紀代の第1号鍛冶工房跡が位置している。

D群は、中央部の台地上に8世紀代、9世紀中葉、10世紀前葉、11世紀前葉の各時期の分布域が重複しているほか、北東端の台地縁辺部で7世紀後葉、10世紀前葉、北東部の台地上に11世紀前葉、南西部の台地縁辺部では9世紀後葉の住居跡からまとまって出土している。

E群は、谷Cの谷頭付近から鉄滓128点、羽口56点が出土しており、当遺跡内で最も集中した出土状況が認められる。出土住居は7世紀前葉から8世紀中葉と10世紀前葉から11世紀前葉の複数時期にわたり、相互に重複関係が認められる。7世紀前半代に操業された鉄生産によって谷部に廃棄された多量の鉄滓が、後世に混入した可能性と同位置で各時期に操業された可能性が考えられる。C群から連続する谷C付近には、9世紀後葉の鍛冶関連遺構と考えられる第4119・4120・4125・4127号土坑が位置し、周辺の台地縁辺部の9世紀中・後葉の住居跡からもまとまった分布状況がみられる。

F群は顕著な集中地点が確認されていない。



第580図 製鉄関連遺物分布図



(5) 文字関連遺物

文字資料 (表60・61)

掘立柱建物跡8棟から12点, 溝跡1条から1点, 井戸跡2基から2点, 大形竪穴遺構2基から4点, 土坑12基から14点, 遺構外で19点である。種別の内訳は, 墨書206点, 朱書4点, 刻書28点, 篋書23点(1点は墨書と重複)で, 文字の判読が可能なものは204点である。材質の内訳は, 土師器177点(坏115, 高台付椀38, 皿4, 小皿1, 高台付皿14, 鉢2, 小形鉢1, 甕2), 須恵器80点(坏62, 高台付坏7, 皿1, 盤3, 蓋3, 甕3, 円面硯1), 紡錘車3点(土製1, 石製2)となっている。

表60 島名熊の山遺跡 文字点数 住居群別出土数一覧表

| 文字                 | A群  | B群                  | C群                            | D群  | E群                    | F群  | 計(重複分) |
|--------------------|-----|---------------------|-------------------------------|---|-----------------------|-----|--------|
| 大土 大土              |     |                     | 7                             | 3   | 9                     | 1   | 20     |
| 大 十大               |     | 3                   | 7                             | 7   | 2                     | 1   | 20     |
| ナ                  |     |                     | 6                             | 10  | 2                     | 1   | 19     |
| 十 ×                |     | 1                   | 4                             | 9   |                       |     | 14     |
| 井<br>大井 穴井<br>大井新家 | 5   |                     | 3                             | 1   |                       |     | 9      |
| 万 十万               | 1   |                     |                               | 6   |                       | 1   | 8      |
| 城 城内<br>城内丕        |     | 2                   | 2                             | 3   | 1                     |     | 8      |
| 育                  |     |                     |                               | 7   |                       |     | 7      |
| 川                  |     | 1                   |                               | 6   |                       |     | 7      |
| 石                  |     |                     |                               | 1   | 6                     |     | 7      |
| 田前<br>田部 地田        | 1   |                     | 1                             | 3   | 2                     |     | 7      |
| 子<br>子鼻門<br>子淡□    |     |                     | 2                             | 2   | 3                     |     | 7      |
| 上山<br>上            | 1   | 4                   |                               |   |                       |     | 5      |
| 丕<br>(城内丕)         |     | (1)                 | 1                             | (1)   | 1                     | 1   | 5 (2)  |
| 区                  |     |                     |                               |   | 4                     |     | 4      |
| 家<br>(大井新家)        | (1) |                     | 2                             |   |                       | 1   | 4 (1)  |
| 天福 智福<br>福集 福□     |     |                     |                               | 3   | 1                     |     | 4      |
| 天(天福)              |     |                     |                               |   | 3 (1)                 |     | 3 (1)  |
| 得                  |     |                     |                               | 2   |                       | 1   | 3      |
| 主                  |     |                     |                               | 2   | 1                     |     | 3      |
| 小 小栗               |     |                     |                               |   | 1                     | 2   | 3      |
| 宅                  |     |                     |                               | 1   | 1                     |     | 2      |
| 在                  | 1   |                     |                               | 1   |                       |     | 2      |
| 門<br>門カ太<br>(子鼻門)  |     |                     | 3 (1)                         |   |                       |     | 3 (1)  |
| 穴(穴井)              | (1) | 1                   |                               |   |                       |     | 2 (1)  |
| その他                | 村カ  | 大殿墨カ研<br>水木大カ<br>至カ | 篠丁太盃原<br>反飯明有<br>悔カ元カ<br>則天文字 | □九八十一八九七十二□三<br>未成部□片□<br>栄嶋酒秋申<br>岩カ工カ虫カ丁カ土カ | 高(紡錘車)<br>サ<br>坐カ山カ丈カ | □達丸 | 34     |
|                    | 1   | 3                   | 10                            | 14  | 5                     | 1   |        |
| 計                  | 10  | 15                  | 48                            | 81  | 41                    | 10  | 204    |

時期別にみると8世紀代が27点、9世紀代が157点、10世紀代が42点、11世紀代が4点である。当遺跡では8世紀前葉の鏡書「×カ」2点、刻書「大」1点が初例であり、8世紀中葉には各群で確認されるようになる。全体的には9世紀後葉まで増加傾向を示し、特に9世紀中葉は63点、9世紀後葉は77点で、半数以上がこの二時期に集中している。以後、10世紀以降は急速に減少し、11世紀後半には確認されなくなる。住居跡群別ではD群からの出土数が102点と突出しており、出土総数の38.9%、次いでC群が68点で26.0%、E群が52点で19.8%となっており、3群で全体の約85%を占めている。判読可能な文字資料は204点が確認されており、表61は住居跡群ごとの出土文字と点数を示したものである。当遺跡では、「大士・大土」(20点)、「大・十大」(20点)、「ナ」(19点)、「万・十万」(8点)、「丕」(5点)、「得」(3点)、「天」(2点)、「天福」(1点)、「福集」(1点)、「智福」(1点)、「福□」(1点)のように吉祥句が多く用いられている。また、A群の「大井・大井新家」(4点)、B群の「上・上山」(5点中4点)、C群の「門・門カ太・子鼻門」(3点)、D群の「万」(8点中6点)、「育」(7点)、「川」(7点中6点)、E群の「石」(7点中6点)、「匠」(4点)など、特定の区域から出土する文字については、集団の標識文字と考えられている。

表61 島名熊の山遺跡 文字資料 住居跡群・時期別出土点数一覧表

|    | 9期  | 10期 | 11期 | 12期 | 13期 | 14期 | 15期  | 16期  | 17期  | 時期不明 | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|-----|
|    | 8C前 | 8C中 | 8C後 | 9C前 | 9C中 | 9C後 | 10C前 | 10C後 | 11C前 |      |     |
| A群 |     | 1   | 3   | 3   | 3   | 1   |      |      |      | 2    | 13  |
| B群 |     | 1   |     | 3   | 4   | 2   | 4    |      |      | 1    | 15  |
| C群 |     | 1   | 3   |     | 14  | 25  | 9    | 3    |      | 12   | 67  |
| D群 | 3   | 8   | 3   | 4   | 29  | 29  | 11   | 4    | 1    | 10   | 102 |
| E群 |     | 1   | 1   | 7   | 7   | 17  | 4    | 6    | 3    | 5    | 51  |
| F群 |     |     | 2   |     | 6   | 3   | 1    |      |      |      | 12  |
| 計  | 3   | 12  | 12  | 17  | 63  | 77  | 29   | 13   | 4    | 30   | 260 |

硯 (表62・63)

硯は34点出土しており、15点が円面硯、19点が転用硯である。転用硯の材質は、土師器1点(高台付椀)、須恵器坏2点、高台付坏3点、盤8点、蓋2点、甕体部片1点、灰釉陶器椀・皿各1点となっている。また、朱墨痕が残っているものは4点である。時期別・住居群別には出土数が最も多いのは8世紀中葉で8点、次いで9世紀中葉が7点となっている。住居群別ではD群が10点、E群が13点で、墨書土器等と同様にこの二群から集中して出土している。また、A～C群からはそれぞれ3～4点が出土し、B群の第871号住居跡から出土した円面硯は、背面に「大殿墨カ研」と墨書されている。

表62 島名熊の山遺跡 硯 住居群・時期別出土数一覧表

|     | 第8期 | 第9期    | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 計  |
|-----|-----|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 住居群 | 7C後 | 8C前    | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |    |
| A群  |     |        |      | 2    | 1    | 1    |      |      |      |      |      | 4  |
| B群  |     |        | 3    | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 4  |
| C群  |     | 2 (1?) |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      | 3  |
| D群  |     |        | 1    | 1    | 2    | 2    | 3    | 1    |      |      |      | 10 |
| E群  | 1   |        | 4    | 1    | 1?   | 4    |      |      |      | 1    | 1    | 13 |
| F群  |     |        |      |      |      |      |      |      |      |      |      |    |
| 計   | 1   | 2      | 8    | 5    | 4    | 7    | 4    | 1    |      | 1    | 1    | 34 |

表63 島名熊の山遺跡 硯 素材・時期別出土数一覧表

| 種類  | 素材     | 8期  | 9期  | 10期 | 11期    | 12期 | 13期 | 14期 | 15期  | 17期  | 18期  | 計       |
|-----|--------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|------|------|------|---------|
|     |        | 7C後 | 8C前 | 8C中 | 8C後    | 9C前 | 9C中 | 9C後 | 10C前 | 11C前 | 11C後 |         |
| 円面硯 |        | 1?  | 1   | 4   | 2 (1?) | 1   | 2   | 3   |      |      | 1?   | 15 (3?) |
| 転用硯 | S 坏    |     | 1   |     | 1      |     |     |     |      |      |      | 2       |
| 転用硯 | S 高台付坏 |     |     | 3   |        |     |     |     |      |      |      | 3       |
| 転用硯 | S 盤    |     |     |     | 2      | 3   | 2   | 1   |      |      |      | 8       |
| 転用硯 | S 蓋    |     |     |     |        |     | 1   |     |      |      |      | 1       |
| 転用硯 | S 甕    |     |     |     |        |     | 1   |     |      | 1    |      | 2       |
| 転用硯 | 灰釉椀    |     |     | 1   |        |     |     |     |      |      |      | 1       |
| 転用硯 | 灰釉皿    |     |     |     |        |     | 1   |     |      |      |      | 1       |
| 転用硯 | H 高台付椀 |     |     |     |        |     |     |     | 1    |      |      | 1       |
| 計   |        | 1?  | 2   | 8   | 5 (1?) | 4   | 7   | 4   | 1    | 1    | 1?   | 34 (3?) |

(6) 特殊遺物

ここでは須恵器（古墳時代）、手捏土器、ミニチュア土器、鋤先形土製品、石製模造品、耳環、腰帯具、皇朝十二銭の時期別、住居跡群別の出土数について述べる。

須恵器（表64）

古墳時代の須恵器は109点出土している。器種の内訳は、坏17点、蓋18点、盥1点、高坏5点、捏鉢1点、甕13点、提瓶13点、平瓶11点、横瓶3点、フラスコ瓶9点、壺5点、長頸壺1点、短頸壺5点、脚付壺1点、特殊扁壺1点、壺蓋1点、甕4点である。また、奈良時代の第16号溝跡から出土した子持器台1点も古墳時代の所産と考えられている。時期別では6世紀代が23点、7世紀代が79点で、7世紀前葉には40点が出土している。住居群別にはC・E群からそれぞれ33点が出土しており、C群は6世紀後葉から7世紀前葉、E群は7世紀前葉から後葉の時期に集中的な所有状況を示している。

表64 須恵器（古墳時代）住居群・時期別出土数一覧表

|    | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 時期不明 | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
|    | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 |      |     |
| A群 |     |     | 5   | 2   | 1   | 2    | 10  |
| B群 | 2   | 5   | 6   | 2   |     | 1    | 16  |
| C群 |     | 9   | 12  | 6   | 2   | 4    | 33  |
| D群 |     | 3   | 6   | 4   | 2   |      | 15  |
| E群 |     | 4   | 10  | 11  | 8   |      | 33  |
| F群 |     |     | 1   | 1   |     |      | 2   |
| 計  | 2   | 21  | 40  | 26  | 13  | 7    | 109 |

手捏土器（表65）

手捏土器は54点が出土している。時期別には5世紀代が3点、6世紀代が33点、7世紀代が15点、8世紀代が3点で、特に6世紀後葉には半数以上の28点が出土している。住居群別にはA群が11点、B群が1点、C群が18点、D群が4点、E群が15点、F群が5点、計54点である。

表65 島名熊の山遺跡 手捏土器 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 計  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  |    |
| A群 |     | 3   |     | 2   | 3   | 2   |     |     |     | 1    | 11 |
| B群 |     |     |     |     | 1   |     |     |     |     |      | 1  |
| C群 |     |     |     | 2   | 9   | 5   |     | 2   |     |      | 18 |
| D群 |     |     |     |     | 1   |     | 3   |     |     |      | 4  |
| E群 |     |     |     |     | 12  | 1   |     |     | 2   |      | 15 |
| F群 |     |     |     | 1   | 2   | 2   |     |     |     |      | 5  |
| 計  |     | 3   |     | 5   | 28  | 10  | 3   | 2   | 2   | 1    | 54 |

群が15点、F群が5点となっている。主な出土状況としては、E群の第2606号住居跡から6点が出土しており、竈焚口部付近の両袖際の床面から正位で据え置かれた状態で出土している。

### ミニチュア土器（表66）

ミニチュア土器は41点出土している。時期別には4世紀代から6世紀前葉が各1点、6世紀中葉が2点、6世紀後葉が18点、7世紀前葉が13点、11世紀代にも3点が出土している。住居群別に見るとA群が6点、B群が18点、C群が11点、D群が3点、E群が2点、F群が1点である。

表66 島名熊の山遺跡 ミニチュア土器 住居跡群・時期別出土数一覧表

|    | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 第18期 | 時期不明 | 計  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
|    | 4C  | 5C  | 6C前 | 6C中 | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 | 11C後 |      |    |
| A群 |     |     |     |     | 5   | 1   |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 6  |
| B群 | 1   |     | 1   | 2   | 8   | 3   |     |     |     |      | 1    |      |      |      |      |      | 1    |      | 1    | 18 |
| C群 |     |     |     |     | 3   | 6   |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 1    |      | 11 |
| D群 |     |     |     |     | 1   | 2   |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 3  |
| E群 |     | 1   |     |     | 1   |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 2  |
| F群 |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1  |
| 計  | 1   | 1   | 1   | 2   | 18  | 13  |     |     |     |      | 1    |      |      |      |      |      | 2    | 1    | 1    | 41 |

### 鋤先形土製品

鋤先形土製品は19点出土している。時期別には6世紀後葉が2点、7世紀前葉が15点、7世紀後葉が2点である。出土した住居跡は第510・1426・1596・1620・2569号住居跡の5軒で、第510・1426号住居跡はC群、第1569・1620・2569号住居跡はE群に属している。出土状況は以下の通りである。

- ・第510号住居跡（一辺8.4m 7世紀前葉）は4点、竈左袖際の覆土中層、竈北西側の壁際の覆土上層、竈覆土中から、小玉11点、土玉5点、滑石製白玉1点とともに出土している。
- ・第1426号住居跡（一辺5.3m 7世紀後葉）は、竈前面の掘り方構築土から2点出土している。
- ・第1596号住居跡（一辺6.1m 7世紀前葉）は7点、竈両側の壁際の覆土下層から床面にかけて、土玉39点、土製白玉2点とともに出土している。
- ・第1620号住居跡（一辺6.3m 6世紀後葉）は、竈左袖際の覆土下層と竈の覆土中から2点出土している。
- ・第2569号住居跡（一辺7.7m 7世紀前葉）は、竈の覆土下層から4点まとめて出土している。

第1426号住居跡例は竈構築以前、それ以外の住居跡は竈及び住居の廃絶後間も無い段階で竈周辺に廃棄された出土状況を示しており、第510・1569号住居跡例のように他の玉類を伴う例も確認されていることから、いずれも竈の構築や廃絶に関連する呪具として用いられた可能性が高い。

### 石製模造品

石製模造品は26点出土している。種別の内訳は有孔円板21点、剣形品4点（未製品1点を含む）、不明模造品1点、素材は滑石21点、凝灰岩2点、泥岩・粘板岩各1点である。時期別では5世紀代が4点、6世紀代が6点、7世紀代が4点である。8世紀以降も12点が出土しているが、混入の可能性が高い。住居群別ではA群が1点、B群が5点、C群が5点、D群が1点、E群は14点と最も多く、F群からは出土していない。

耳環 (表67)

耳環は22点出土している。時期別では、古墳時代が17点で、6世紀後葉が9点と最も多く、次いで7世紀前葉が4点、7世紀中葉が3点、7世紀後葉が1点となっている。奈良時代以降も5点出土しているが、いずれも覆土中から出土しており、混入の可能性が高い。古墳時代の出土数について住居跡群別に見ると、C群が5点、A・E群が4点、D・F群が各2点である。

表67 島名熊の山遺跡 耳環 住居跡群・時期別出土数

|    | 第5期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 計  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|----|
|    | 6C後 | 7C前 | 7C中 | 7C後 | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  |    |
| A群 | 1   | 2   |     | 1   |     | 1    |      | 1    |      | 1    | 7  |
| B群 |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |    |
| C群 | 4   |     | 1   |     |     |      |      |      |      |      | 5  |
| D群 | 2   |     |     |     |     |      |      |      |      |      | 2  |
| E群 | 2   | 1   | 1   |     |     |      |      |      |      | 1    | 5  |
| F群 |     | 1   | 1   |     |     |      | 1    |      |      |      | 3  |
| 計  | 9   | 4   | 3   | 1   |     | 1    | 1    | 1    |      | 2    | 22 |

腰帯具 (表68・69)

腰帯具は18点出土しており、種類別には鉸具3点(鉄)、蛇尾3点(鉄地金銅貼1, 銅2)、巡方7点(鉄1, 銅5, 斑糲岩1)、丸鞆5点(鉄4, 石材不明1)である。8世紀前葉から11世紀前葉まで出土例があり、時期別には8世紀代が7点、9世紀代が8点、10世紀代が2点、11世紀代が1点となっている。住居跡群別に見るとD群が9点で半数を占め、各時期を通じて出土している。そのほか、A群が1点、C・E群が各4点である。

表68 島名熊の山遺跡 腰帯具 住居群・時期別出土数一覧表

|    | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 計  |
|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
|    | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 |    |
| A群 |     | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 1  |
| B群 |     |      |      |      |      |      |      |      |      |    |
| C群 |     |      | 1    |      | 2    |      |      |      | 1    | 4  |
| D群 | 2   | 1    | 1    | 1    | 1    | 2    |      | 1    |      | 9  |
| E群 |     | 1    |      | 1    |      | 1    | 1    |      |      | 4  |
| F群 |     |      |      |      |      |      |      |      |      |    |
| 計  | 2   | 3    | 2    | 2    | 3    | 3    | 1    | 1    | 1    | 18 |

表69 島名熊の山遺跡 腰帯具 素材・時期別出土数一覧表

| 種類 | 素材  | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 | 第13期 | 第14期 | 第15期 | 第16期 | 第17期 | 計  |
|----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
|    |     | 8C前 | 8C中  | 8C後  | 9C前  | 9C中  | 9C後  | 10C前 | 10C後 | 11C前 |    |
| 鉸具 | 鉄   |     |      |      |      | 1    | 1    |      | 1    |      | 3  |
| 蛇尾 | 金属製 | 1   |      |      | 1    |      |      |      |      | 1    | 3  |
| 巡方 | 鉄   |     | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 1  |
| 巡方 | 銅   |     | 1    | 1    |      | 1    | 1    | 1    |      |      | 5  |
| 巡方 | 斑糲岩 |     |      |      |      | 1    |      |      |      |      | 1  |
| 丸鞆 | 金属製 | 1   | 1    | 1    | 1    |      |      |      |      |      | 4  |
| 丸鞆 | 石製  |     |      |      |      |      | 1    |      |      |      | 1  |
| 計  |     | 2   | 3    | 2    | 2    | 3    | 3    | 1    | 1    | 1    | 18 |

## 皇朝十二銭

皇朝十二銭は2点確認されている。饒益神寶（初鑄 859（貞観元）年）は第1324号住居跡（D群 9世紀後葉）の南西コーナー部の床面から出土している。長年大寶（初鑄 848（嘉祥元）年）は遺構外（C群）からの出土である。

## 6 おわりに

以上、鳥名熊の山遺跡で確認された古墳時代から平安時代の遺構・遺物について、数量的なデータの集成を行い、そのなかで地形の特徴に基づいて区分される住居跡群ごとの検討を試みた。その結果、各住居跡群の様相は、遺構数の増減や分布域の変遷が異なり、遺物の出土点数や内容にも偏りが認められることが判明した。遺構・遺物及び住居跡群に見られるこれらの様相は、集落を構成する諸集団の性格の差異を反映していると考えられる。今後は、今回のデータを基に各住居跡群の具体的な検証を行い、鳥名熊の山遺跡の全容を明らかにしていきたい。

## 註

- 1) 新井聡・川村満博「熊の山遺跡（仮称）鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集 1997年3月  
小島敏・眞崎紀雄・白田正子・野田良直「熊の山遺跡（仮称）鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集 1998年3月  
吉原作平・原信田正夫「熊の山遺跡（仮称）鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集 1999年3月  
矢ノ倉正男・小林孝・川上直登「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集 2000年3月  
藤田哲也・三谷正・原信田正夫・川上直登・稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集 2001年3月  
稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月  
稲田義弘・飯泉達司「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集 2004年3月  
松本直人「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第236集 2005年3月  
田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅡ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 2006年3月  
酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- 2) 調査面積及び竪穴住居跡・掘立柱建物跡は実数、その他の遺構は抄録に掲載されたものの延べ総数である。
- 3) 稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 4) 清水哲「鳥名熊の山遺跡の集落研究のための前提作業」『年報26 平成18年度』財団法人茨城県教育財団 2007年3月

# 付 章

## 鳥名熊の山遺跡（12区）の植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### 1 はじめに

鳥名熊の山遺跡は、東谷田川右岸の標高19～23mの台地上を中心に位置している。これまでの発掘調査により、旧石器時代から近世にかけての遺構や遺物が数多く確認されている。特に、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡は膨大な数にのぼり、県内最大級の集落跡であったことが明らかになっている。さらに、当遺跡の位置する谷田部地区は、律令期の「河内郡嶋名郷」にあたとされ、当遺跡はその中心的な集落と考えられている。

今回、遺跡南東部に位置する12区で、中世後半（16世紀前半）と考えられる水田に関連した遺構が確認された。そこで、水田耕作土などの土地利用に関する情報を得るために、植物珪酸体分析を実施する。

### 2 試料（表70）

水田に関連する遺構（第1・2号水田跡）は、12区の東部と南東部で確認された。

12区東部のうち、調査区東壁では北側に中世段階の水田耕作土または鋤床とされる土層が4層（第1号水田跡第14～17層）認められる。また、南側には、北側よりも後代のものも含めて、水田耕作土または鋤床とされる土層が4層（第1号水田跡第11～14）認められる。これらの土層の上位には近世から近代の耕作土とされる土層が堆積している。試料は、南側で5点（試料番号1～5）、北側で5点（試料番号6～10）が採取されている。12区東部の調査区北壁では、3層に分層された谷埋積土の上位に近世から近代の耕作土が認められる。また、谷埋積土の上位には古墳時代後期の遺物包含層が認められる。試料はこれらの土層から4点（試料番号11～14）が採取されている。

12区南東部の堆積物は、12区東部よりも砂質である。土層は河川堆積層を基盤層とし、上位に中世段階の鋤床、水田耕作土、流入土、近・現代の耕作土とされる土層が認められる。試料は9点（試料番号15～23）が採取されている。

表70 分析試料一覧

| 地区・位置         | 試料 | 層位                                |
|---------------|----|-----------------------------------|
| 12区東部<br>東壁南側 | 1  | 第1号水田跡 第7層 近世・近代耕作土               |
|               | 2  | 第1号水田跡 第11層 中世水田耕作土               |
|               | 3  | 第1号水田跡 第12層 中世水田鋤床                |
|               | 4  | 第1号水田跡 第13層 中世水田耕作土               |
|               | 5  | 第1号水田跡 第14層 中世水田耕作土               |
| 12区東部<br>東壁北側 | 6  | 第1号水田跡 第7層 近世・近代耕作土               |
|               | 7  | 第1号水田跡 第14層 中世水田耕作土               |
|               | 8  | 第1号水田跡 第15層 中世水田耕作土               |
|               | 9  | 第1号水田跡 第16層 中世水田鋤床                |
|               | 10 | 第1号水田跡 第17層 中世水田鋤床                |
| 12区東部<br>北壁   | 11 | 第1号水田跡 第7層 近世・近代耕作土               |
|               | 12 | 第1号水田跡 第19層 谷埋積土<br>(古墳時代後期遺物包含層) |
|               | 13 | 第1号水田跡 第20層 谷埋積土<br>(古墳時代後期遺物包含層) |
|               | 14 | 第1号水田跡 第23層 谷埋積土                  |
| 12区南東部<br>北壁  | 15 | 第2号水田跡 第2層 近現代耕作土                 |
|               | 16 | 第2号水田跡 第3層 近現代耕作土                 |
|               | 17 | 第2号水田跡 第4層 近現代耕作土                 |
|               | 18 | 第2号水田跡 第5層 近現代耕作土                 |
|               | 19 | 第2号水田跡 第6層 流入土                    |
|               | 20 | 第2号水田跡 第9層 流入土                    |
|               | 21 | 第2号水田跡 第17層 中世水田耕作土               |
|               | 22 | 第2号水田跡 第20層 中世水田耕作土               |
|               | 23 | 第2号水田跡 第31層 河川堆積層                 |

分析には、以上の23点を用いた。分析試料の詳細は表70に示している。

### 3 分析方法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス状に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作成する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数している。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1 gあたりの植物珪酸体含量（固定した数を堆積物1 gあたりの個数に換算）を求めている。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。また、各種類の植物珪酸体含量とその層位的変化から稲作の様態や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示している。

### 4 結果（第581図 表71）

結果を第581図、表71に示す。

各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、地点ごとの産状を述べる。

#### 12区東部東壁の南側（試料番号1～5）

試料番号1～5では、植物珪酸体含量が層位的に変化する。すなわち、試料番号5から試料番号2にかけて植物珪酸体含量は約40万個/gから約1.8万個/gに減少し、試料番号1で約15万個/gに増加する。

各試料からは、栽培植物であるイネ属の葉部に形成される短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体、初穀に形成される穎珪酸体が検出されている。このうち、短細胞珪酸体は検出される分類群の中で産出が最も目立ち、その含量にも同様な層位的な変化が見られる。下位の試料番号5と4では短細胞珪酸体が3.8万個/g前後、機動細胞珪酸体が1.1万個/g前後、穎珪酸体が3,000～7,800個/gである。上位の試料番号3と2では含量が減少し、短細胞珪酸体が約1.5万個/gから約1,300個/g、機動細胞珪酸体が約3,000個/gから1,000個/g、穎珪酸体が約1,400個/gから約200個/gとなる。試料番号1では含量が増加し、短細胞珪酸体が約1.5万個/g、機動細胞珪酸体が約1万個/g、穎珪酸体が約1,900個/gとなる。

また、栽培植物を含む分類群としてキビ属の短細胞珪酸体とキビ族の機動細胞珪酸体、オオムギ族の短細胞珪酸体とムギ類の穎珪酸体が検出されている。その含量は、キビ族の短細胞珪酸体が270～1.1万個/g、キビ族の機動細胞珪酸体が50～2,100個/g、オオムギ族の短細胞珪酸体が100～1.1万個/g、ムギ族の穎珪酸体が340～2,100個/gであり、試料番号4で多い傾向が見られる。

この他には、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められ、ネザサ節の産出が目立つ。

#### 12区東部東壁の北側（試料番号6～10）

試料番号10から試料番号7では、植物珪酸体含量が20万～33万個/gである。

各試料からは、イネ属の短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体、穎珪酸体が検出されている。その含量は短細胞珪酸体が1.5万～3.2万個/g、機動細胞珪酸体が3,000～1.1万個/gであり、試料番号10で多い。穎珪酸体は2,500～5,500個/gであり、試料番号9と8で多い。



また、栽培植物を含む分類群として、キビ属の短細胞珪酸体とキビ族の機動細胞珪酸体、オオムギ族の短細胞珪酸体とムギ類の穎珪酸体が検出されている。その含量は、キビ属の短細胞珪酸体が2,500～5,500個/g、キビ族の機動細胞珪酸体が500～3,000個/g、オオムギ族の短細胞珪酸体が3,000～4,000個/g、ムギ類の穎珪酸体が340～1,200個/gである。

この他には、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められ、概してネザサ節の産出が目立つ。

試料番号6では、植物珪酸体含量が前述の試料番号2に次いで少ない。イネ属は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が検出されている。その含量は試料番号2に次いで少なく、短細胞珪酸体が約6,700個/g、機動細胞珪酸体が約1,900個/gである。また、オオムギ族の短細胞珪酸体とムギ類の穎珪酸体も検出されている。その含量は、キビ属の短細胞珪酸体が約1,300個/g、キビ族の機動細胞珪酸体が370個/g、オオムギ族の短細胞珪酸体が約900個/g、ムギ類の穎珪酸体が約190個/gである。この他には、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められ、概してネザサ節の産出が目立つ。

#### 12区東部北壁（試料番号11～14）

北壁の試料の植物珪酸体含量は、試料番号13～11が32万～40万個/gで、試料番号14はこれらの試料よりも少なく、約1.2万個/gである。

試料番号14と13では、イネ属など栽培植物を含む分類群が検出されていない。クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ属、イチゴツナギ亜科などが認められ、概してネザサ科の産出が目立つ。

試料番号12と11ではイネ属の短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体、穎珪酸体が検出されている。その含量は短細胞珪酸体が1.5万～3.3万個/g、機動細胞珪酸体が3,000～8,000個/g、穎珪酸体が2,000～5,000個/gである。

また、キビ属の短細胞珪酸体とキビ族の機動細胞珪酸体、オオムギ族の短細胞珪酸体が2,000～3,700個/g、キビ族の機動細胞珪酸体が約1,200個/g、オオムギ族の短細胞珪酸体が1,500～3,000個/g、ムギ類の穎珪酸体が3,000個/gである。

この他には、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められ、概してネザサ節の産出が目立つ。

#### 12区南東部の南壁（試料番号15～23）

試料番号15～23の植物珪酸体含量は、200個/gから36万個/gの範囲で、層位的に増減を繰り返している。最も少ない試料は試料番号20で240個/g、最も多い試料は試料番号1で約36.4万個/gである。

イネ属は、試料番号23と20を除いた各試料から検出されている。試料番号22から試料番号17では短細胞珪酸体が400～9,000個/g、機動細胞珪酸体が400～4,000個/g、穎珪酸体が80～2,700個/gの範囲で増減する。試料番号16と15では含量が多くなり、短細胞珪酸体が2.6万～5.1万個/g、機動細胞珪酸体が8,000個/g前後となり、ネザサ節とともに産出が目立つ。穎珪酸体は、4,600個/g前後である。

また、キビ属の短細胞珪酸体とキビ族の機動細胞珪酸体、オオムギ族の短細胞珪酸体とムギ類の穎珪酸体も検出されている。その含量は、上位の試料で増加する傾向が見られる。

この他には、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められ、概してネザサ節の産出が目立つ。

## 5 考察

今回調査した12区東部と12区南東部の土層では、谷埋積土や流入土、河川堆積層を除いて、ほとんどの水田耕作土や鋤床、耕作土から栽培植物のイネ属が検出された。その含量は、多くの層位で数千～数万個/gの範囲にある。稲作が行われた水田跡の土壌では、イネ属の機動細胞珪酸体が5,000個/g程度検出されることが多い(杉山 2000)。これらの調査例と比較すれば、今回の水田耕作土や鋤床、耕作土とされる層位で稲作が行われていた可能性が高い。

一方、試料番号2の水田耕作土とされる層位は植物珪酸体含量が少なく、土壌中に植物珪酸体が蓄積しにくかったことがうかがえる。群馬県内の調査では、畦畔など水田に関連する遺構が検出されている場合でも機動細胞珪酸体含量が1,000個/g程度の事例もある(パリノ・サーヴェイ株式会社 2001, 2002など)。また、長野県の川田条里遺跡において、弥生時代の水田面を平面的に分析した結果、その値が大きくばらついている(辻本・田中 2000)。今回の例とは分析方法が異なるため、単純に比較できないが、水田土壌における植物珪酸体の分布は、一様ではないことが分かる。これは耕作による攪乱や流水による運搬などにより、偏りがでるものと思われるが、詳細については分かっていない。一般的に自然状態においては、均質になるほうが物理・化学的に安定であることを考慮すると、このような不均一になる要因の一つとして、耕作などの行為が関わっているようにも考えられる。

12区東部北壁の谷埋積土(試料番号12)ではイネ属が検出されているが、直上の耕作土(試料番号11)でイネ属の含量が多いことから、稲作の過程で下位層へイネ属が落ち込んだ可能性がある。

12区南東部南壁では、河川体積増が堆積した後に稲作が行われたが、試料番号21の水田耕作土や試料番号20の耕作土、試料番号18の耕作土ではイネ属が少ないあるいは検出されなかった。これらの層位についても、土壌中に植物珪酸体が蓄積しにくかったことが考えられる。はっきりした要因は不明だが、稲作の期間が短かったことや堆積速度が速かったなどのほか、先に述べた耕作による組成にばらつきなどが関わっていると思われる。

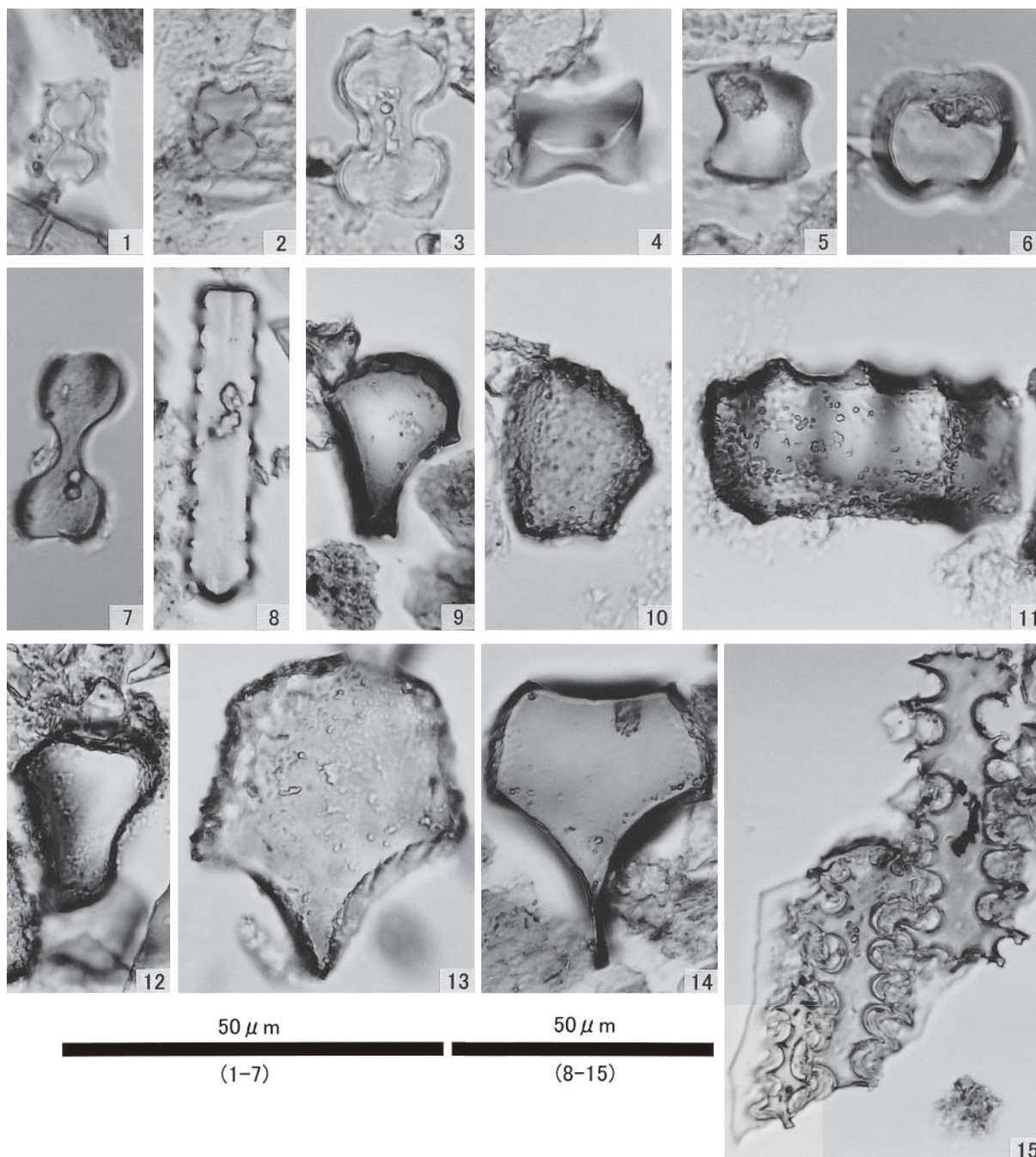
なお、栽培植物を含む分類群として、キビ属やオオムギ族の植物珪酸体も検出された。これらは、形態的に近縁の野生種との区別がつかない。このため断定は出来ないが、仮に栽培植物に由来するものであれば、キビ類やムギ類の栽培も考えられる。これらの多くは乾いた畑作地で栽培されることを考慮すれば、これらの生産地として、台地上を想定する必要がある。一方、水田を利用した二毛作や輪作なども考えられるが、これらの起源については不明な点が多く、異なる作物を栽培するための水利施設等の発達史などを検討する必要があるため、ここでは可能性を指摘するに留めておく。今後、付近の台地上の遺跡において、植物珪酸体分析によるキビ類やムギ類の消長に関する検討や、焼土内の灰層や炭化種実等を対象とした調査、低地部の花粉分析を実施することで、畑作物の種類についての情報を得ることが望まれる。

ところで、調査した各層ではネザサ節をはじめとして、ヨシ属、コブナグサ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたと考えられる。ヨシ属やコブナグサ属は湿潤な場所に生育することから、耕作地周辺の低地部にはヨシ属やコブナグサ属などが生育していたと思われる。また、産出の目立ったネザサ節は比較的乾いた場所に生育することの多い種類を含む。そのため、検出されたネザサ節は台地上に生育したものに由来し、台地上からネザサ節の植物珪酸体が低地部に混入したと思われる。



表71 各地点の植物珪酸体含量

| 種 類           | 12区東部   |        |         |         |         |        |         |         |         |         |         |         |         |        | (個/g)   |         |         |       |         |      |        |        |        |
|---------------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|-------|---------|------|--------|--------|--------|
|               | 東壁南側    |        |         |         | 東壁北側    |        |         |         | 北壁      |         |         |         | 南壁      |        |         |         |         |       |         |      |        |        |        |
| 試料番号          | 1       | 2      | 3       | 4       | 5       | 6      | 7       | 8       | 9       | 10      | 11      | 12      | 13      | 14     | 1       | 2       | 3       | 4     | 5       | 6    | 7      | 8      | 9      |
| イネ科葉部細胞珪酸体    |         |        |         |         |         |        |         |         |         |         |         |         |         |        |         |         |         |       |         |      |        |        |        |
| イネ族イネ属        | 14,900  | 1,300  | 15,200  | 37,800  | 38,200  | 6,700  | 24,800  | 15,600  | 15,700  | 32,100  | 33,200  | 15,600  | -       | -      | 51,200  | 25,600  | 500     | 400   | 8,900   | -    | 700    | 3,900  | -      |
| キビ族キビ属        | 1,700   | 300    | 2,400   | 10,500  | 5,900   | 1,300  | 5,700   | 6,500   | 2,500   | 3,700   | 3,700   | 2,000   | -       | -      | 5,700   | 2,700   | 1,600   | <100  | 700     | -    | -      | 500    | -      |
| キビ族チゴザサ属      | 300     | 100    | -       | 1,400   | -       | -      | -       | -       | 500     | -       | 600     | 1,000   | -       | -      | 500     | -       | -       | -     | 300     | -    | -      | -      | -      |
| タケ亜科クマガザサ属    | 1,400   | 200    | -       | 4,200   | 7,200   | 1,500  | 7,600   | 7,100   | 5,100   | 4,300   | 4,900   | 4,500   | 6,400   | 500    | 1,400   | 2,300   | 4,300   | 200   | 1,300   | -    | 400    | 2,200  | 500    |
| タケ亜科ネザサ属      | 23,500  | 1,900  | 30,100  | 48,300  | 63,200  | 11,100 | 57,900  | 53,900  | 35,000  | 56,800  | 67,000  | 62,500  | 73,500  | 300    | 78,100  | 53,000  | 72,100  | 400   | 23,100  | -    | 4,700  | 19,200 | 13,400 |
| タケ亜科          | 3,300   | 400    | 1,000   | 9,100   | 9,200   | 700    | 7,600   | 5,500   | 2,500   | 3,700   | 4,300   | 8,600   | 4,000   | 300    | 3,400   | 4,100   | 2,200   | 200   | 1,300   | -    | 600    | 1,700  | 1,400  |
| ヨシ属           | 1,700   | 200    | 1,000   | 4,200   | 9,900   | 1,100  | 5,100   | 4,000   | 2,000   | 4,900   | 8,000   | 6,000   | 17,600  | 500    | 5,300   | 2,700   | 3,800   | -     | 1,300   | -    | 400    | 1,000  | 700    |
| ウシクサ族コブナグサ属   | 600     | <100   | -       | 2,100   | 2,600   | 600    | 1,300   | 1,000   | 500     | 1,900   | 1,800   | 1,500   | 1,600   | -      | 1,400   | -       | 1,100   | <100  | 300     | -    | -      | -      | -      |
| ウシクサ族スキ属      | 8,600   | 300    | 5,700   | 9,800   | 28,300  | 1,100  | 25,400  | 17,100  | 16,200  | 24,100  | 29,500  | 24,700  | 24,000  | 800    | 20,600  | 10,500  | 8,100   | <100  | 7,300   | -    | 1,000  | 3,900  | 1,200  |
| イチゴツナギ亜科オオムギ族 | 4,400   | 100    | 2,700   | 11,200  | 5,300   | 900    | 3,200   | 4,000   | 3,000   | 3,700   | 3,100   | 1,500   | -       | -      | 5,700   | 3,700   | 2,200   | -     | 1,300   | -    | -      | 500    | -      |
| イチゴツナギ亜科      | 5,500   | 800    | 5,100   | 9,800   | 13,200  | 3,500  | 12,100  | 24,700  | 10,200  | 19,800  | 18,400  | 7,100   | 4,000   | 300    | 19,200  | 13,300  | 19,500  | 100   | 3,300   | -    | 100    | 2,200  | -      |
| 不明キビ型         | 10,200  | 1,700  | 18,900  | 53,900  | 50,700  | 7,600  | 42,000  | 51,400  | 28,400  | 37,700  | 41,200  | 49,400  | 57,500  | 2,300  | 34,500  | 22,800  | 33,100  | 300   | 11,200  | <100 | 1,900  | 10,400 | 4,500  |
| 不明ヒゲシバ型       | 4,200   | 500    | 10,100  | 14,700  | 12,500  | 3,100  | 22,900  | 15,600  | 10,700  | 17,900  | 23,400  | 21,700  | 25,600  | 1,000  | 15,300  | 8,200   | 16,800  | 100   | 3,300   | -    | 400    | 3,700  | 200    |
| 不明ダンク型        | 10,000  | 1,000  | 11,800  | 18,200  | 22,400  | 5,600  | 29,200  | 25,200  | 18,300  | 25,900  | 31,300  | 29,700  | 28,000  | 500    | 23,900  | 14,600  | 20,600  | 200   | 7,600   | <100 | 2,200  | 7,200  | 1,200  |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体  |         |        |         |         |         |        |         |         |         |         |         |         |         |        |         |         |         |       |         |      |        |        |        |
| イネ族イネ属        | 10,200  | 1,000  | 3,000   | 10,500  | 12,500  | 1,900  | 3,200   | 6,500   | 6,100   | 11,100  | 8,000   | 3,000   | -       | -      | 7,700   | 8,700   | 3,800   | 800   | 4,000   | -    | 400    | 1,500  | -      |
| キビ族           | 600     | <100   | 700     | 2,100   | 2,000   | 400    | 1,300   | 2,000   | 500     | 3,100   | 1,200   | -       | -       | -      | 1,400   | 1,100   | -       | -     | 700     | -    | -      | -      | -      |
| タケ亜科クマガザサ属    | 2,800   | 400    | -       | 4,200   | 7,900   | 1,100  | 5,100   | 1,500   | 1,500   | 2,500   | 9,200   | 11,100  | 3,200   | 300    | 2,400   | 5,900   | 4,300   | -     | 1,300   | -    | 300    | 700    | 900    |
| タケ亜科ネザサ属      | 16,300  | 2,400  | 15,900  | 27,300  | 36,900  | 4,600  | 13,400  | 23,700  | 17,300  | 35,200  | 48,600  | 29,700  | 29,500  | 500    | 36,400  | 22,400  | 27,600  | 1,300 | 10,600  | <100 | 1,700  | 6,200  | 1,400  |
| タケ亜科          | 600     | 200    | 1,000   | 2,100   | 3,300   | 200    | 600     | 500     | 1,500   | 600     | 1,200   | 500     | 1,600   | -      | 1,900   | 1,400   | 2,700   | -     | 300     | -    | 300    | 700    | 700    |
| ヨシ属           | 3,900   | 600    | 1,700   | 1,400   | 5,900   | 700    | 1,300   | 1,500   | 1,500   | 3,100   | 2,500   | 5,500   | 9,600   | 500    | 1,900   | 4,600   | 500     | -     | 1,300   | -    | 100    | 2,200  | 700    |
| ウシクサ族         | 8,300   | 1,600  | 9,100   | 10,500  | 25,700  | 4,400  | 15,900  | 9,600   | 7,600   | 19,800  | 22,700  | 20,700  | 20,000  | 2,500  | 17,700  | 16,500  | 16,800  | 500   | 5,600   | -    | 100    | 1,700  | 700    |
| シバ属           | 2,500   | 400    | 1,700   | 7,000   | 4,000   | 700    | 1,900   | 4,500   | 3,000   | 3,700   | 1,800   | 1,000   | -       | -      | 6,200   | 1,800   | 3,800   | 100   | 2,000   | -    | -      | 500    | -      |
| 不明            | 8,900   | 2,000  | 15,200  | 17,500  | 25,000  | 4,800  | 12,700  | 12,100  | 12,200  | 19,800  | 24,000  | 22,200  | 17,600  | 1,500  | 17,200  | 16,900  | 24,900  | 800   | 10,900  | -    | 2,200  | 6,200  | 1,600  |
| 珪化組織片         |         |        |         |         |         |        |         |         |         |         |         |         |         |        |         |         |         |       |         |      |        |        |        |
| イネ属親珪酸体       | 1,900   | 200    | 1,400   | 7,700   | 3,300   | -      | 2,500   | 5,500   | 4,600   | 2,500   | 4,900   | 2,000   | -       | -      | 4,800   | 4,600   | 2,700   | <100  | -       | -    | -      | 700    | -      |
| ムギ属親珪酸体       | 1,100   | 400    | 300     | 2,100   | 1,300   | 200    | 1,300   | 500     | 1,000   | -       | 3,100   | -       | -       | -      | 1,400   | 1,400   | 500     | -     | 300     | -    | -      | -      | -      |
| 合 計           | 93,300  | 9,400  | 104,100 | 235,300 | 268,700 | 44,800 | 244,800 | 231,700 | 150,800 | 236,400 | 270,400 | 235,700 | 242,000 | 6,400  | 266,200 | 163,600 | 185,900 | 2,100 | 71,400  | 100  | 12,400 | 56,500 | 23,200 |
| イネ科葉部細胞珪酸体    | 54,000  | 8,600  | 48,300  | 82,600  | 123,100 | 18,900 | 55,300  | 61,900  | 51,300  | 98,800  | 119,200 | 93,700  | 81,500  | 5,300  | 91,500  | 79,500  | 85,600  | 3,500 | 36,700  | <100 | 5,100  | 19,700 | 5,900  |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体  | 3,000   | 600    | 1,700   | 9,800   | 4,600   | 200    | 3,800   | 6,000   | 5,600   | 2,500   | 8,000   | 2,000   | -       | -      | 6,200   | 5,900   | 3,300   | <100  | 300     | -    | -      | 700    | -      |
| 珪化組織片         | 147,300 | 17,900 | 154,100 | 327,700 | 396,400 | 63,900 | 303,900 | 298,700 | 207,700 | 337,700 | 397,700 | 331,400 | 323,400 | 11,700 | 363,900 | 249,000 | 274,800 | 5,700 | 108,400 | 200  | 17,500 | 77,000 | 29,100 |
| 総 計           |         |        |         |         |         |        |         |         |         |         |         |         |         |        |         |         |         |       |         |      |        |        |        |



- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(D地点;1)    | 2. イネ属短細胞珪酸体(E地点;8)      |
| 3. キビ属短細胞珪酸体(D地点;3)    | 4. クマザサ属短細胞珪酸体(D地点;5)    |
| 5. ネザサ節短細胞珪酸体(D地点;5)   | 6. ヨシ属短細胞珪酸体(D地点;13)     |
| 7. ススキ属短細胞珪酸体(D地点;13)  | 8. オオムギ族短細胞珪酸体(D地点;1)    |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体(D地点;1)   | 10. クマザサ属機動細胞珪酸体(D地点;5)  |
| 11. ネザサ節機動細胞珪酸体(D地点;5) | 12. ウシクサ族機動細胞珪酸体(D地点;12) |
| 13. ヨシ属機動細胞珪酸体(D地点;12) | 14. シバ属機動細胞珪酸体(D地点;1)    |
| 15. ムギ類穎珪酸体(D地点;1)     |                          |

第582図 植物珪酸体



写 真 图 版



9 区 西 部  
完 掘 状 况



9 区 東 部  
完 掘 状 况



第 2961 号 住 居 跡  
完 掘 状 况





第2951号住居跡  
完掘状況



第2951号住居跡竈  
完掘状況



第2952号住居跡  
完掘状況

第2952号住居跡竈  
完掘状況

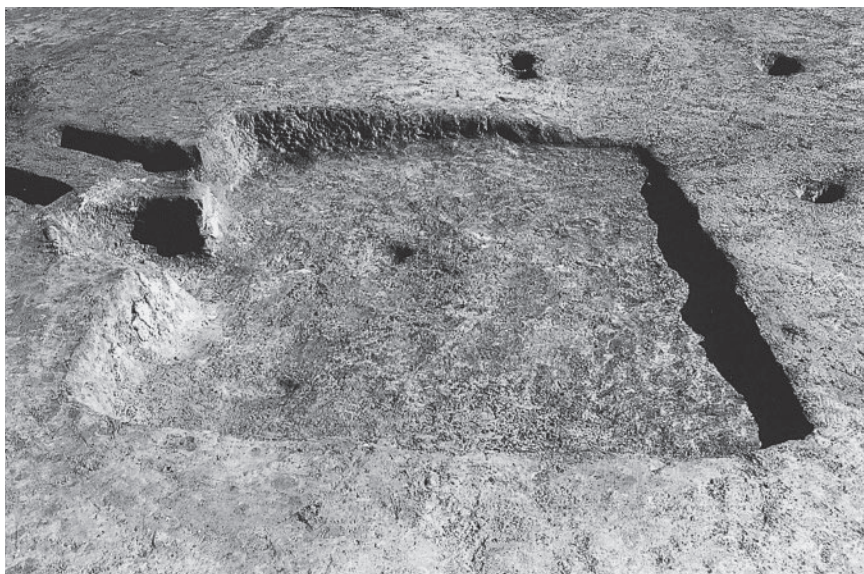


第2953号住居跡  
完掘状況

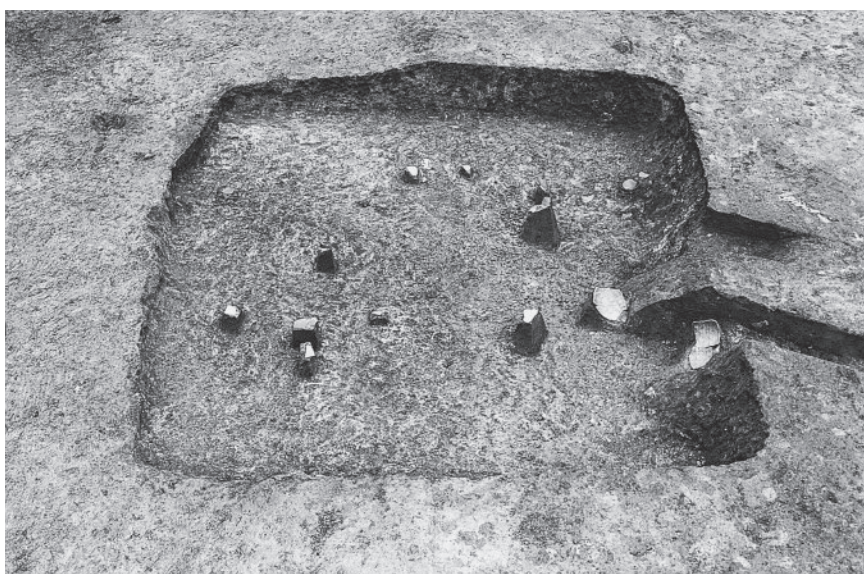


第2953号住居跡竈  
遺物出土状況





第2960号住居跡  
完掘狀況



第2960号住居跡  
遺物出土狀況



第2960号住居跡  
遺物出土狀況

第2960号住居跡  
遺物出土狀況



第2960号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2967号住居跡  
遺物出土狀況





第2954号住居跡  
遺物出土状況

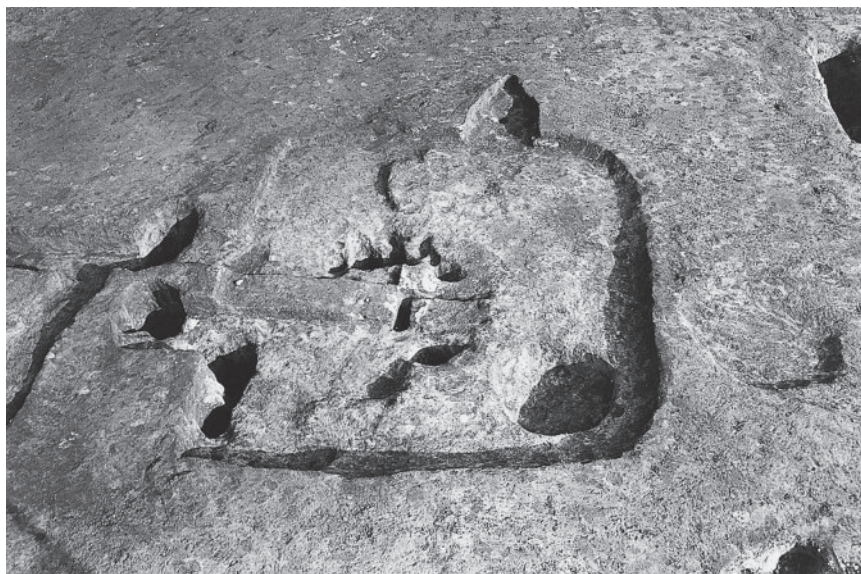


第2954号住居跡  
遺物出土状況

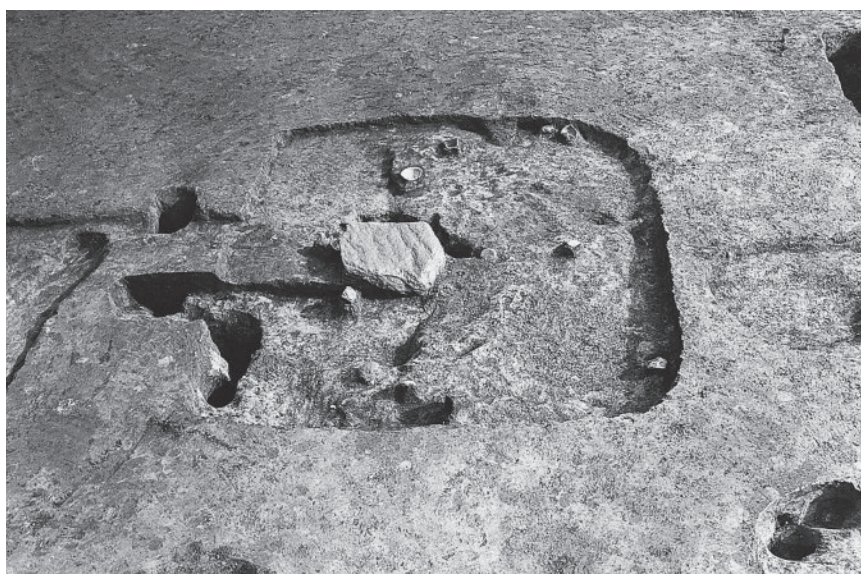


第2954号住居跡竈  
完掘状況

第2966号住居跡  
完掘狀況

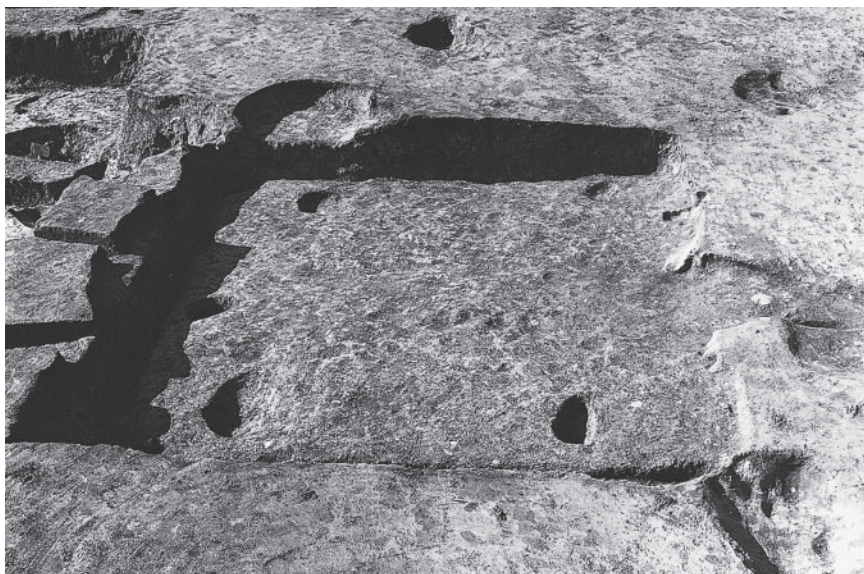


第2966号住居跡  
遺物出土狀況



第2966号住居跡竈  
遺物出土狀況





第2963号住居跡  
完掘狀況



第2963号住居跡  
遺物出土狀況



第2963号住居跡  
遺物出土狀況

第2963号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2965号住居跡  
遺物出土狀況



第2965号住居跡竈  
遺物出土狀況



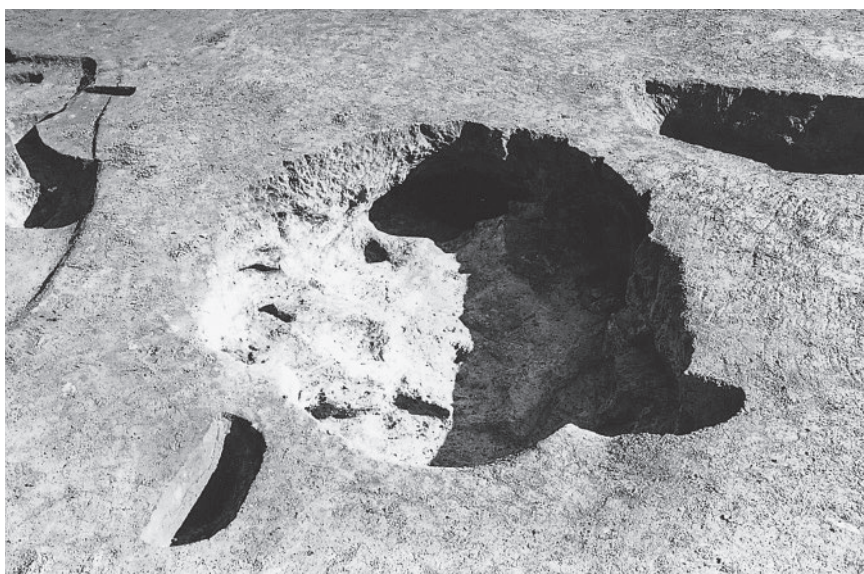




第523号掘立柱建物跡  
完掘狀況



第5804号土坑  
完掘狀況



第5805号土坑  
完掘狀況

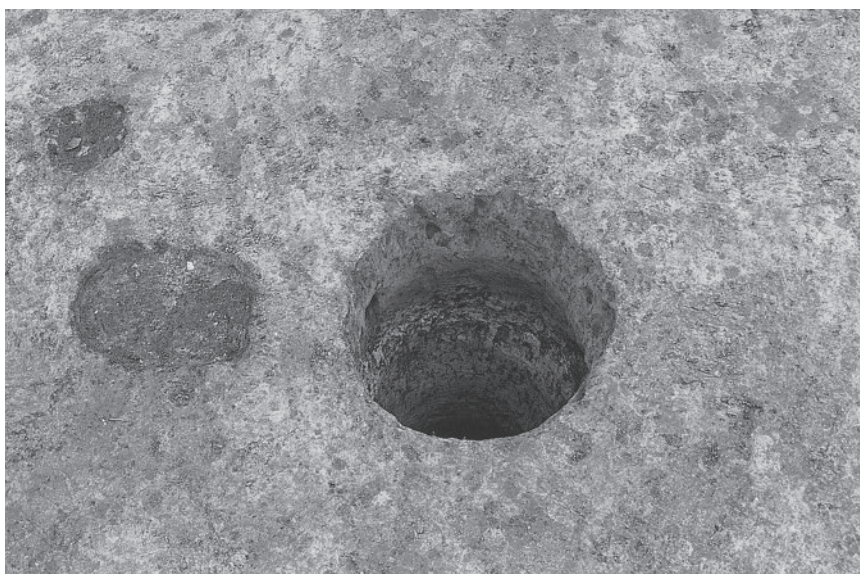
第 5800 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况

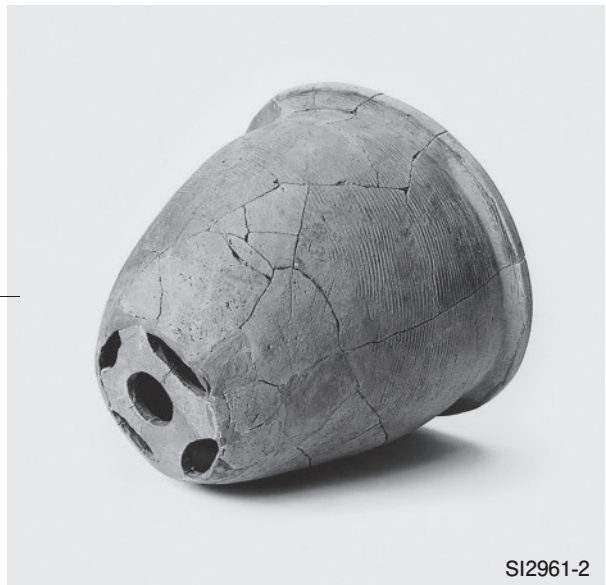


第 125 号 井 戸 跡  
完 掘 状 况



第 126 号 井 戸 跡  
完 掘 状 况







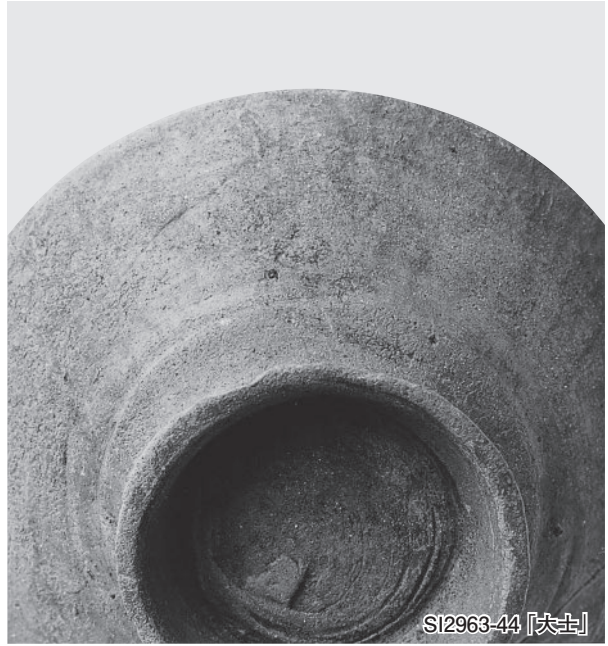
第2955・2958・2960・2962・2964号住居跡出土土器



第2963・2967・2993号住居跡，第5800号土坑，遺構外出土土器



SI2963-37 「天福」



SI2963-44 「大土」



遺構外-74 「天」



SI2993-57 「天」



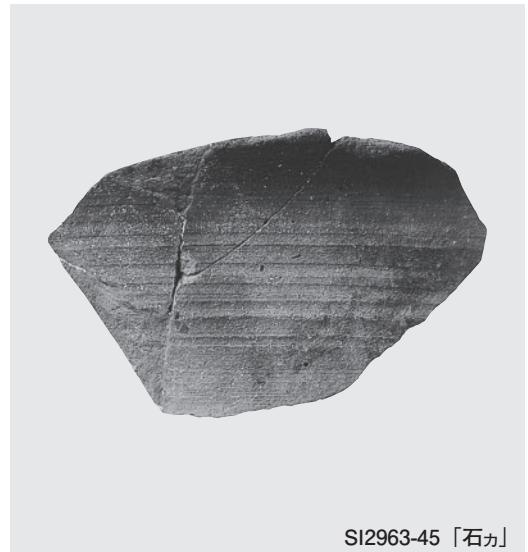
SI2952-10 「大土」



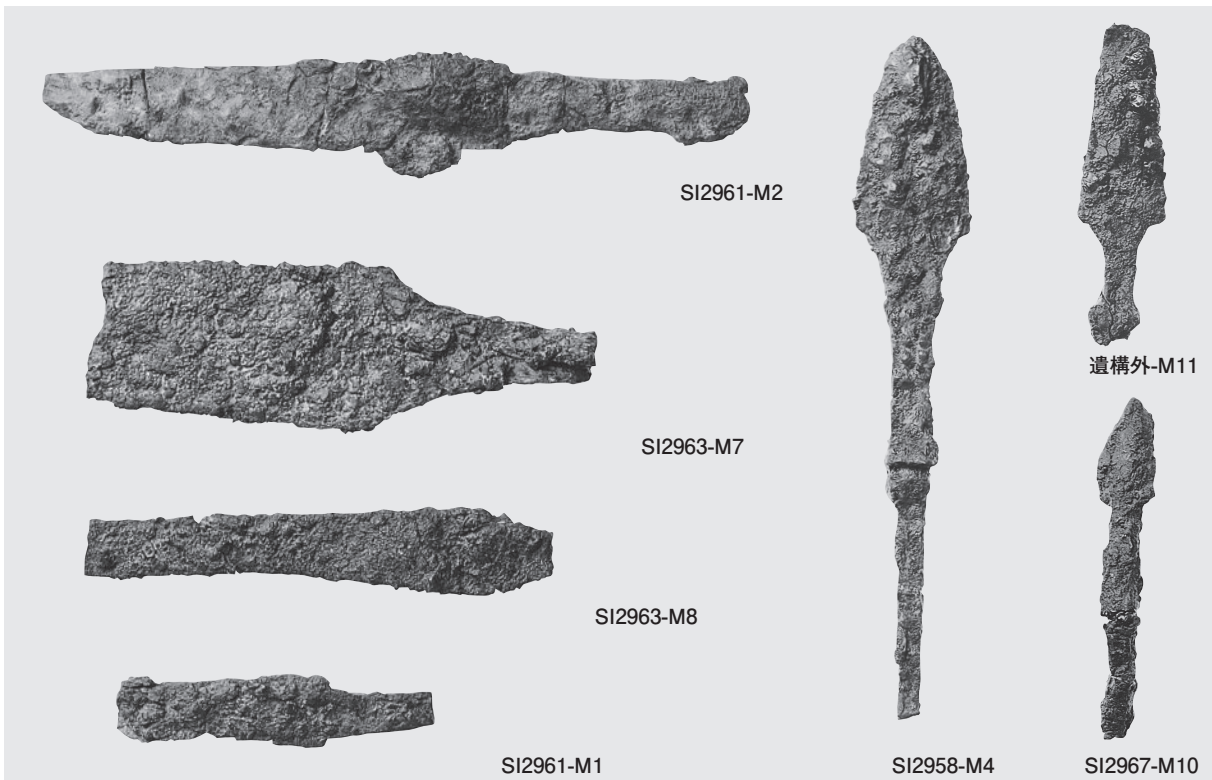
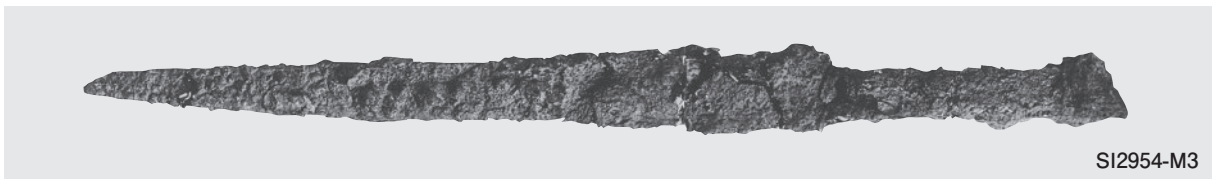
SI2952-9 「大土」



2963-39 「大」



SI2963-45 「石カ」





12区全景



12区東部完掘状況



第2号水田跡





第 12 区 北 部  
完 掘 状 况



第 2568 号 住 居 跡  
完 掘 状 况



第 2568 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 况

第2564号住居跡  
完掘狀況



第2564号住居跡  
遺物出土狀況



第2564号住居跡竈  
完掘狀況





第2569号住居跡  
完掘狀況



第2569号住居跡  
遺物出土狀況

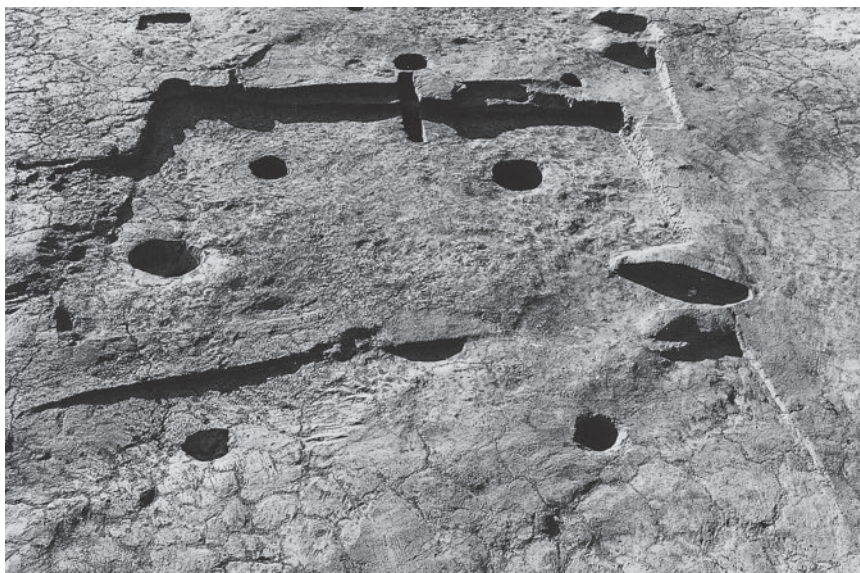


第2569号住居跡  
遺物出土狀況

第2569号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2745号住居跡  
完掘狀況



第2745号住居跡竈  
完掘狀況





第2579号住居跡  
完掘狀況



第2579号住居跡  
遺物出土狀況



第2579号住居跡  
遺物出土狀況

第2579号住居跡竈  
完掘状況



第2757号住居跡  
完掘状況



第2757号住居跡竈  
完掘状況





第2765号住居跡  
完掘状況



第2765号住居跡  
遺物出土状況

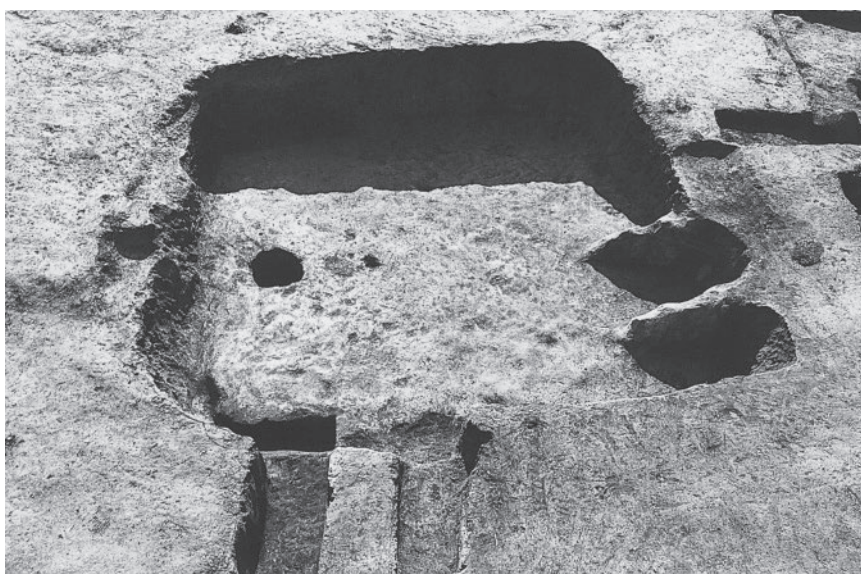


第2765号住居跡  
遺物出土状況

第2765号住居跡竈  
完掘状況



第2788号住居跡  
完掘状況



第2788号住居跡竈  
完掘状況







第2567号住居跡  
完掘状況



第2567号住居跡  
遺物出土状況



第2567号住居跡  
遺物出土状況

第2567号住居跡竈  
完掘状況



第2817号住居跡  
完掘状況

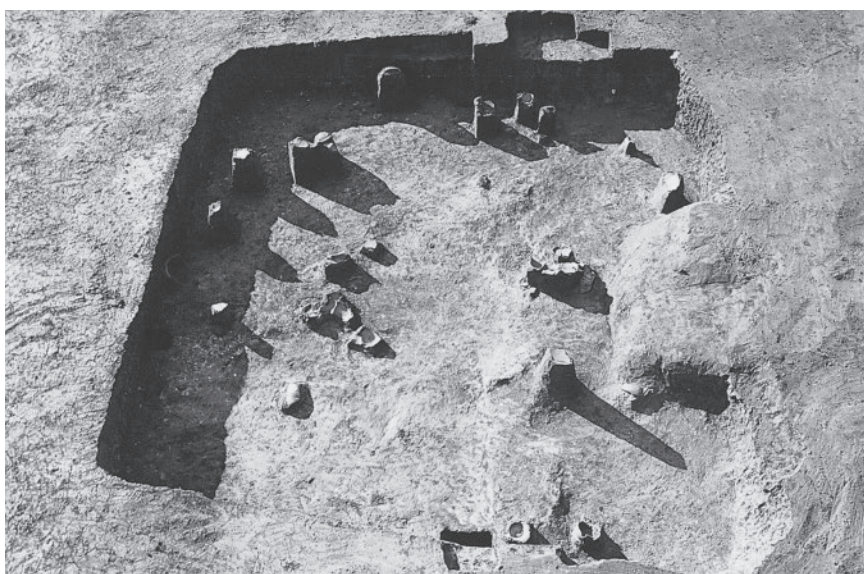


第2817号住居跡竈  
完掘状況





第2571号住居跡  
完掘狀況

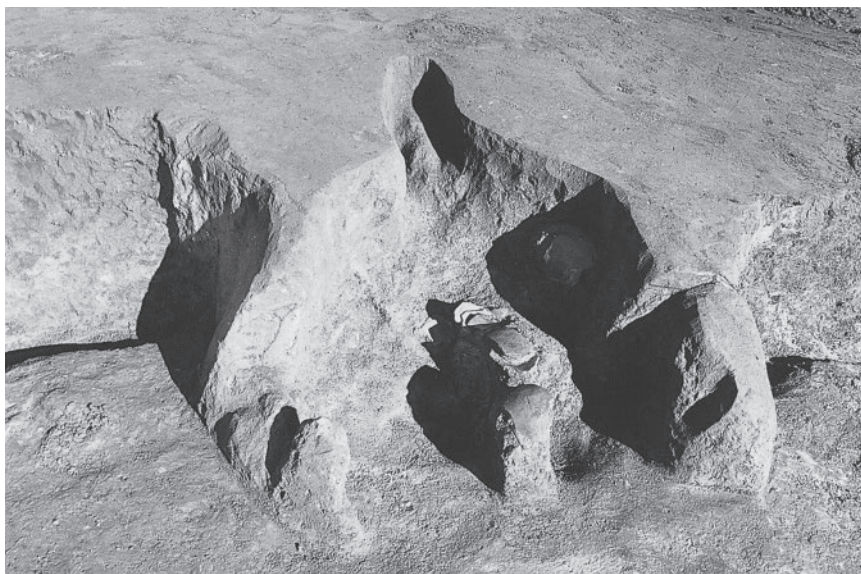


第2571号住居跡  
遺物出土狀況



第2571号住居跡  
遺物出土狀況

第2571号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2743号住居跡  
完掘狀況



第2743号住居跡竈  
完掘狀況





第2774号住居跡  
完掘状況



第2774号住居跡竈  
遺物出土状況



第2783号住居跡  
完掘状況

第2783号住居跡竈  
完掘状況



第2815号住居跡  
完掘状況



第2815号住居跡竈  
完掘状況





第2570号住居跡  
完掘状況



第2570号住居跡  
遺物出土状況



第2570号住居跡竈  
完掘状況

第2747号住居跡  
完掘狀況



第2747号住居跡  
遺物出土狀況



第2747号住居跡竈  
遺物出土狀況







第2744号住居跡  
完掘状況



第2744号住居跡竈  
遺物出土状況



第2751号住居跡  
遺物出土状況

第2751号住居跡  
遺物出土狀況



第2754号住居跡  
遺物出土狀況



第2754号住居跡竈  
完掘狀況





第2762号住居跡  
完掘状況



第2762号住居跡竈  
完掘状況



第2769号住居跡  
完掘状況

第2769号住居跡竈  
完掘状況



第2780号住居跡  
完掘状況



第2780号住居跡竈  
遺物出土状況





第2779号住居跡  
完掘状況



第2779号住居跡竈  
遺物出土状況



第2779号住居跡竈  
遺物出土状況

第2786号住居跡  
完掘状況

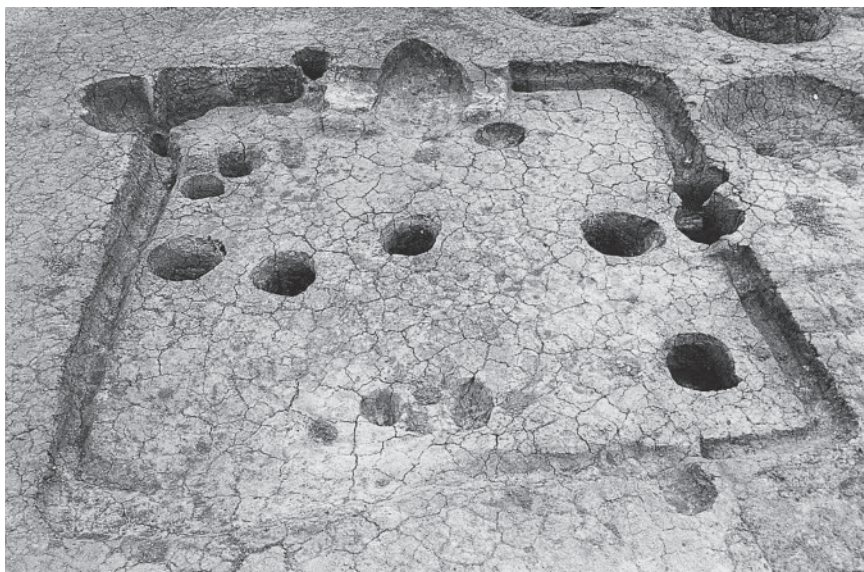


第2786号住居跡竈  
遺物出土状況



第2786号住居跡竈  
完掘状況





第2782号住居跡  
完掘状況



第2782号住居跡竈  
完掘状況

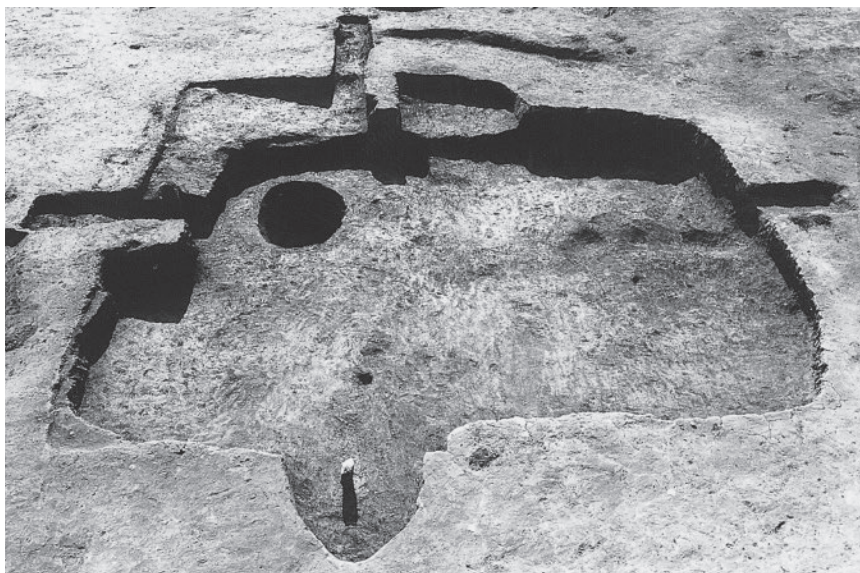


第2785号住居跡  
完掘状況

第2785号住居跡貯藏穴  
遺物出土狀況



第2787号住居跡  
完掘狀況



第2787号住居跡竈  
遺物出土狀況







第2792号住居跡  
完掘状況



第2792号住居跡  
遺物出土状況



第2792号住居跡  
遺物出土状況

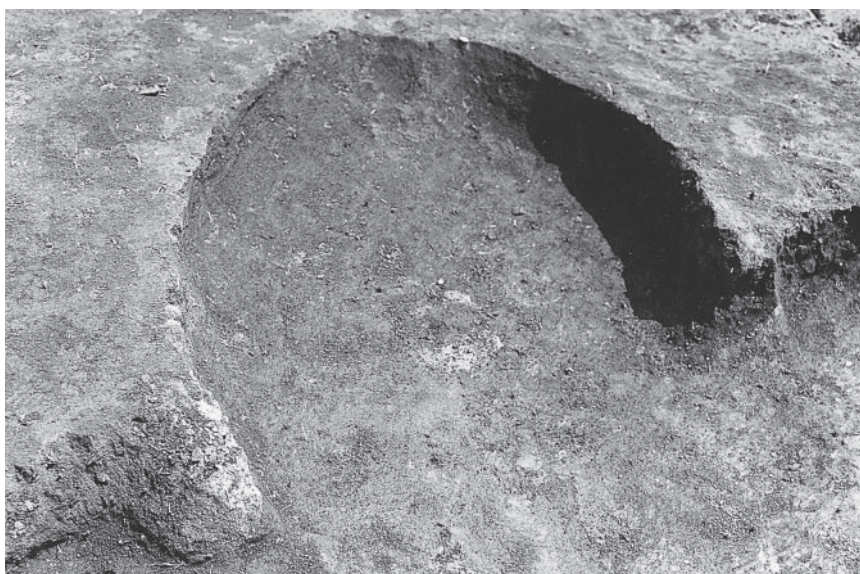
第2792号住居跡  
遺物出土狀況



第2800号住居跡  
遺物出土狀況



第2800号住居跡竈  
完掘狀況





第2795号住居跡  
完掘状況



第2795号住居跡  
遺物出土状況



第2795号住居跡  
遺物出土状況

第2795号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2810号住居跡  
完掘狀況

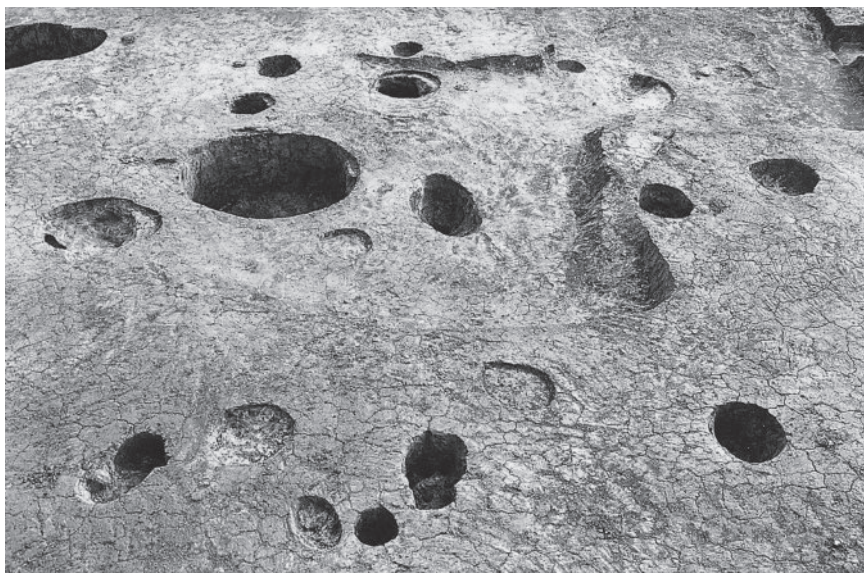


第2810号住居跡竈  
遺物出土狀況





第 1 号 古 墳  
完 掘 状 況



第320号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第501号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第503~506号掘立柱建物跡  
完掘状況



第30号柵跡  
完掘状況



第1号土坑群  
完掘状況



第67号地下式坑完掘状況



第69号地下式坑完掘状況



第91号堀跡完掘状況



第104A号溝跡完掘状況

第 91 号 堀 跡  
遺物出土狀況



第 104A 号 溝 跡  
遺物出土狀況



第 102 号 溝 跡  
遺物出土狀況



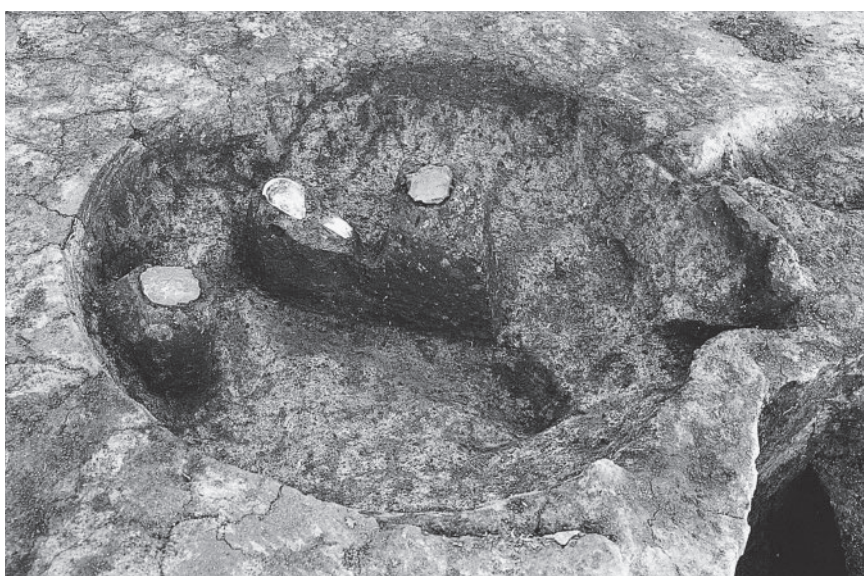




第132号井戸跡  
完掘状況



第3812号土坑  
遺物出土状況



第3817号土坑  
遺物出土状況

第 5115 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 5244 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 21 号 不 明 遺 構  
遺 物 出 土 状 况





第 1 号 水 田 跡  
確 認 状 況



第 129 号 井 戸 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 130 号 井 戸 跡  
遺 物 出 土 状 況

第2号水田跡  
畦畔検出状況



第2号水田跡  
完掘状況



第186号溝跡  
遺物出土状況





第 187 号 溝 跡  
水利施設検出状況



第 187 号 溝 跡  
水利施設検出状況



第 187 号 溝 跡  
遺物出土状況



第2579・2745・2765・2817・2970号住居跡，第5169号土坑，第2号遺物包含層出土土器



12区

PL57



第2563号住居跡出土土器







第2564・2567・2571・2774・2815号住居跡出土土器



12区

PL61



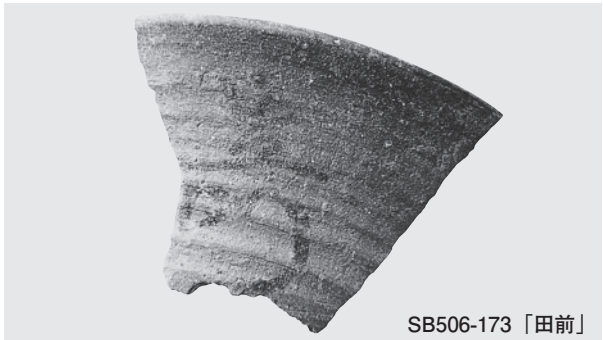
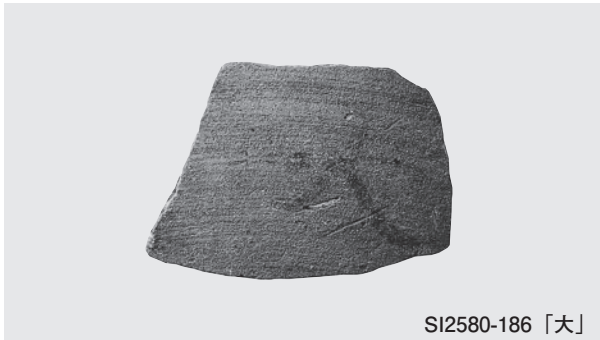
第2792・2802号住居跡出土土器



第2777 · 2779 · 2786 · 2787 · 2810号住居跡, 第5157号土坑出土土器



第2795号住居跡，第67・69号地下式坑，第130号井戸跡，第3810・3812・3817・4954・5115・5236号土坑出土土器



第102・187号溝跡，第5032号土坑，第1号段切り状遺構，遺構外出土土器，出土墨書土器

12区

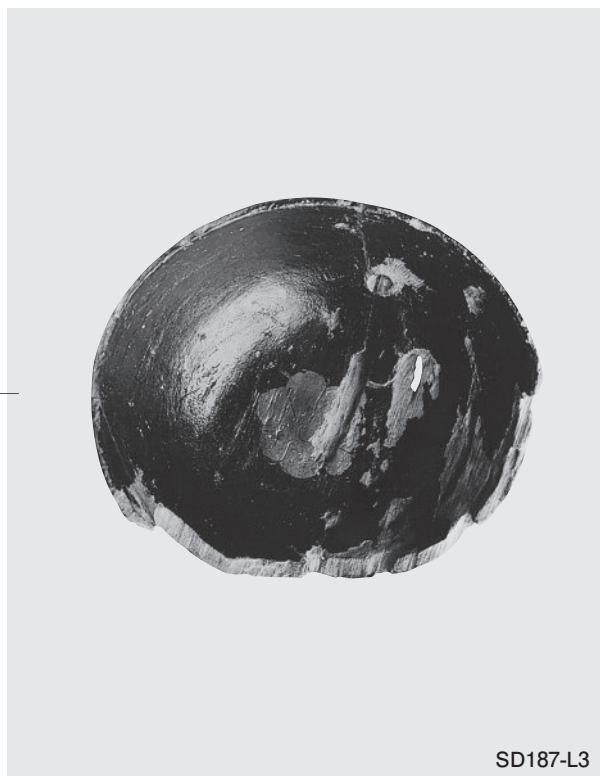
PL65



SD187-L3



SD187-L3



SD187-L3



SE129-W1



SE129-W1



SE129-W2

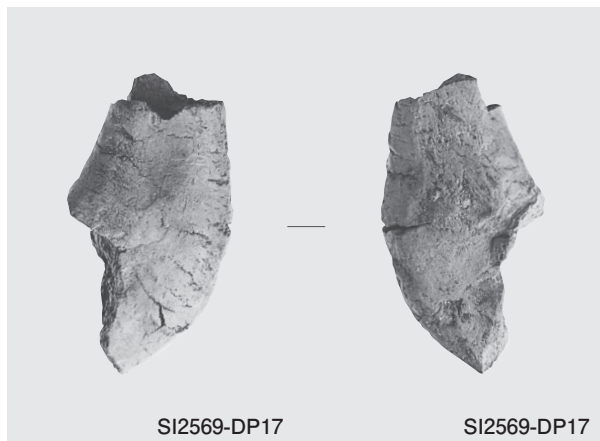


SE129-W2

出土漆器・木製品













SK5155-M24



SI2570-M30

SK5147-M44

遺構外-M50



SK4954-M43

SI2748-M35

SI2747-M34

SI2792-M42



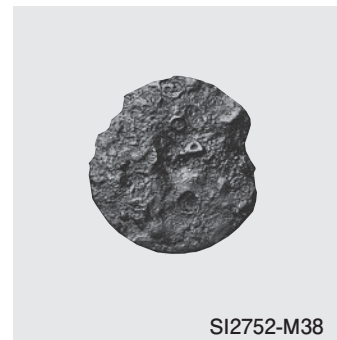
SI2570-M31

SI2749-M22

SD207-M48



SI2564-M14



SI2752-M38

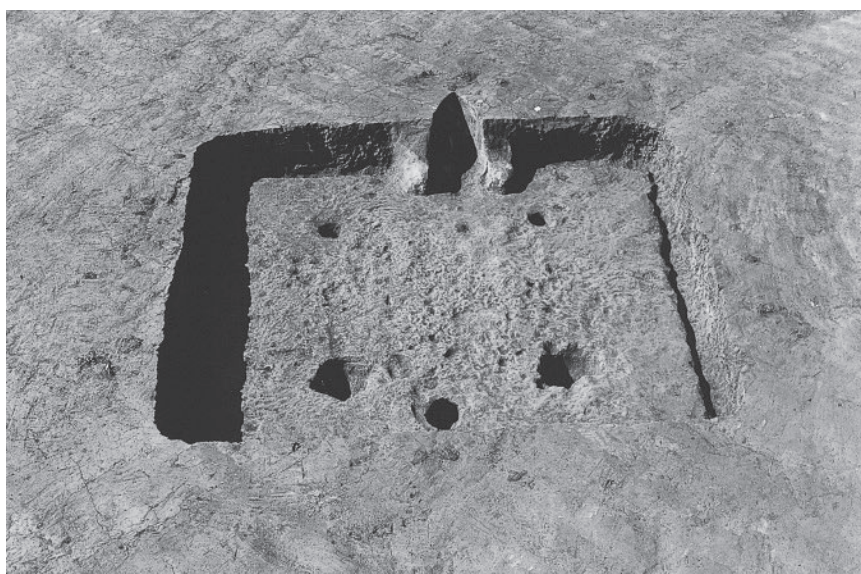


SI2565-M29

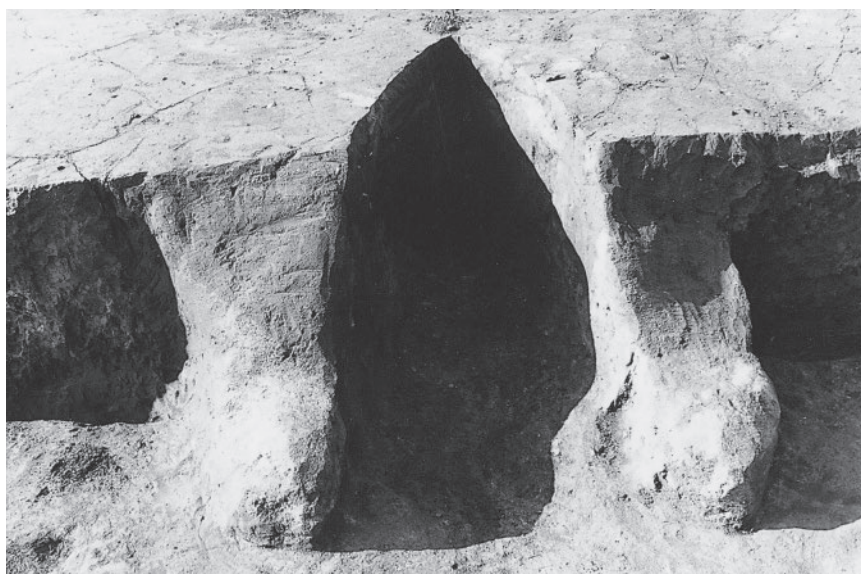
15区全景



第2314号住居跡  
完掘状況



第2314号住居跡竈  
完掘状況





第2308号住居跡  
完掘狀況



第2308号住居跡  
遺物出土狀況



第2308号住居跡  
遺物出土狀況

第2308号住居跡竈  
完掘状況



第2317号住居跡  
遺物出土状況



第2317号住居跡竈  
完掘状況







第2323号住居跡  
完掘狀況



第2323号住居跡  
遺物出土狀況



第2323号住居跡  
遺物出土狀況

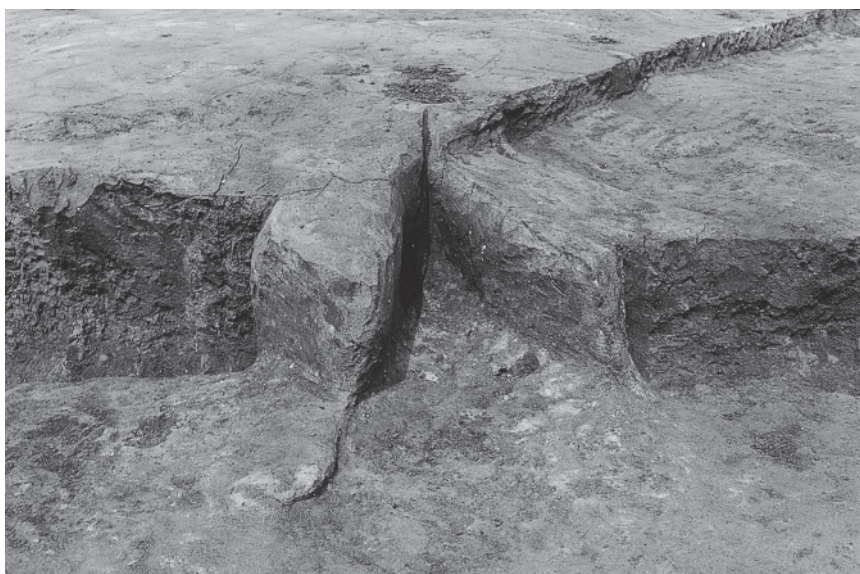
第2323号住居跡  
遺物出土狀況



第2323号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2323号住居跡竈  
完掘狀況





第2311号住居跡  
完掘状況



第2311号住居跡  
遺物出土状況



第2311号住居跡  
遺物出土状況

第2311号住居跡竈  
完掘状況



第2338号住居跡  
完掘状況



第2338号住居跡竈  
完掘状況





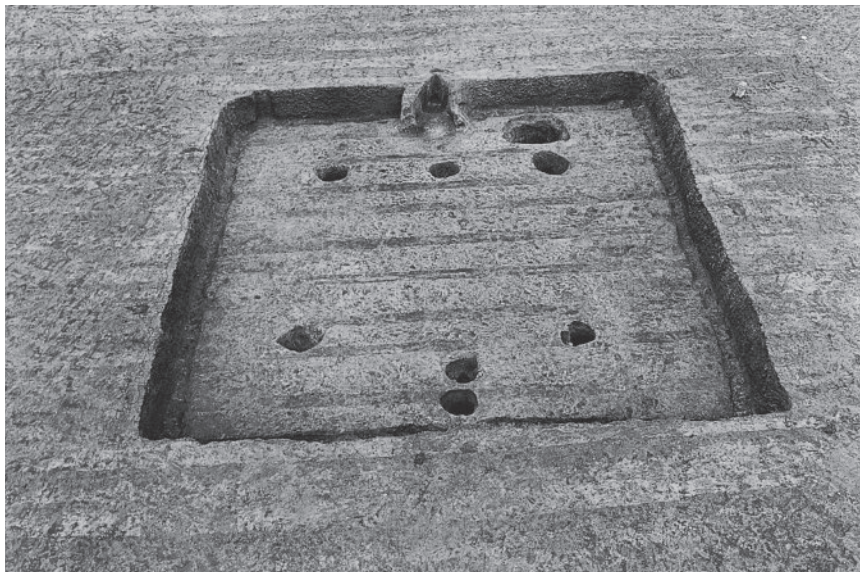
第2325号住居跡  
完掘状況



第2325号住居跡  
遺物出土状況



第2325号住居跡竈  
完掘状況



第2340号住居跡  
完掘状況



第2340号住居跡  
遺物出土状況



第2340号住居跡竈  
遺物出土状況



第2340号住居跡竈  
完掘状況



第2341号住居跡  
完掘状況



第2341号住居跡  
遺物出土状況

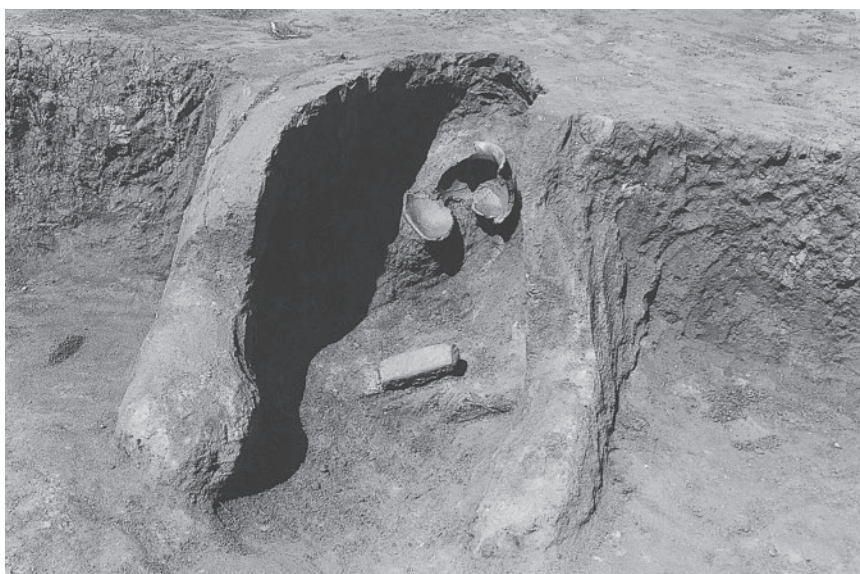
第2341号住居跡  
遺物出土狀況



第2341号住居跡貯藏穴  
遺物出土狀況



第2341号住居跡竈  
遺物出土狀況







第2330号住居跡  
完掘状況



第2330号住居跡  
遺物出土状況

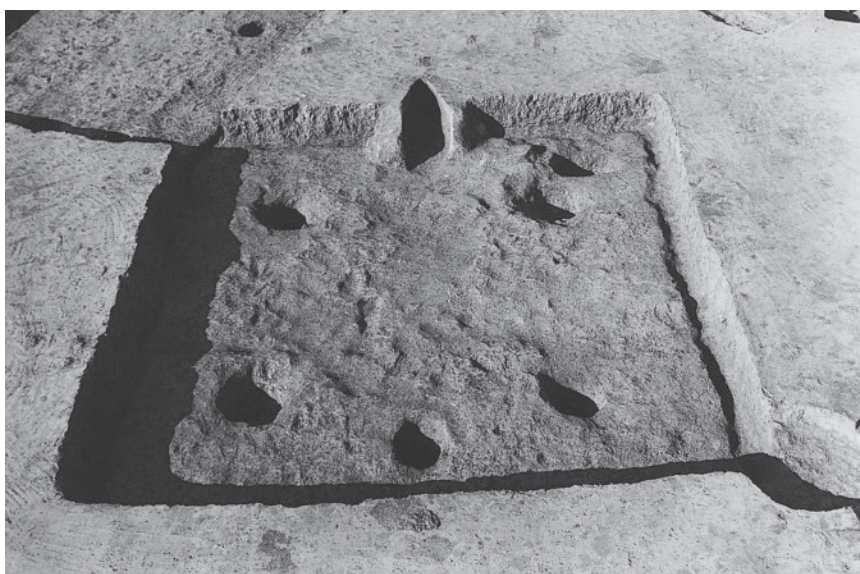


第2330号住居跡  
遺物出土状況

第2330号住居跡竈  
完掘状況



第2371号住居跡  
完掘状況



第2371号住居跡竈  
完掘状況





第2345号住居跡  
完掘状況



第2345号住居跡  
遺物出土状況



第2345号住居跡  
遺物出土状況

第2345号住居跡  
遺物出土狀況

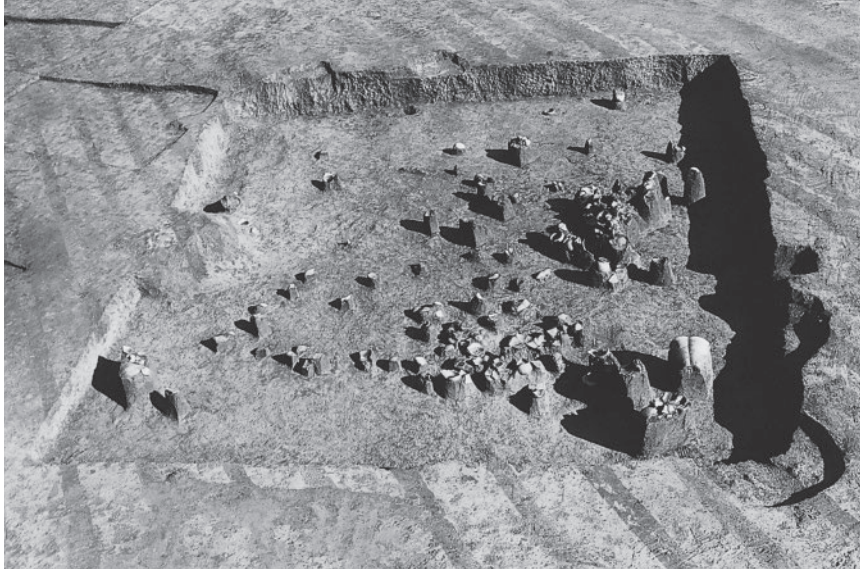


第2345号住居跡竈  
完掘狀況



第2351号住居跡  
完掘狀況





第2351号住居跡  
遺物出土状況



第2351号住居跡  
遺物出土状況



第2351号住居跡  
遺物出土状況

第2351号住居跡  
遺物出土狀況



第2351号住居跡  
遺物出土狀況



第2351号住居跡竈  
遺物出土狀況





第2347号住居跡  
完掘状況



第2347号住居跡  
遺物出土状況



第2347号住居跡竈  
完掘状況

第2350号住居跡  
完掘状況



第2350号住居跡  
遺物出土状況



第2350号住居跡竈  
完掘状況







第2355号住居跡  
完掘狀況



第2355号住居跡  
遺物出土狀況



第2355号住居跡  
遺物出土狀況

第2355号住居跡竈  
遺物出土狀況

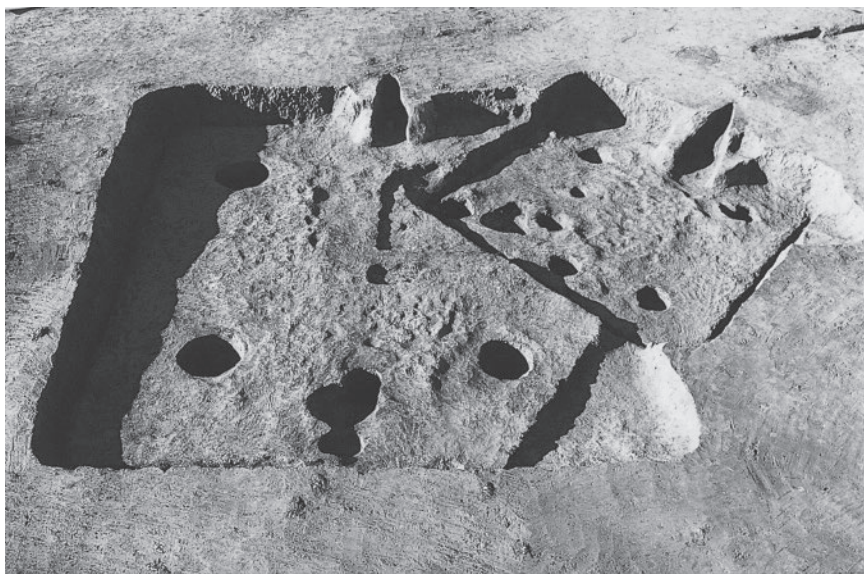


第2387号住居跡  
完掘狀況



第2387号住居跡  
遺物出土狀況





第2382A号住居跡  
完掘状況

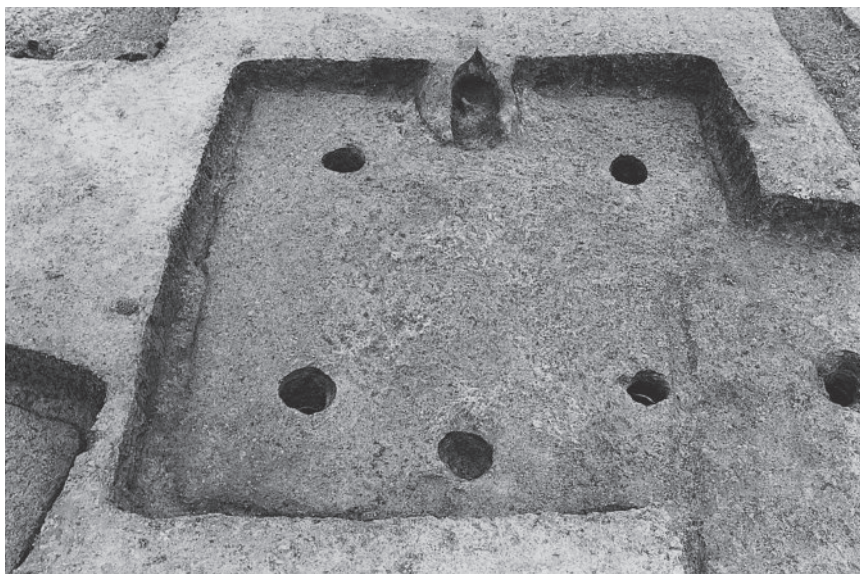


第2382A号住居跡竈  
完掘状況



第2382B号住居跡  
完掘状況

第2460号住居跡  
完掘状況



第2460号住居跡  
遺物出土状況

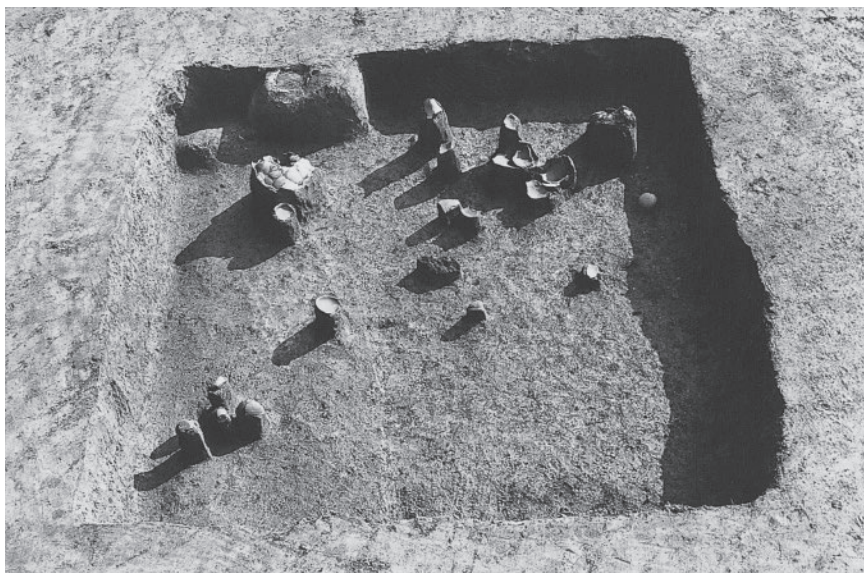


第2460号住居跡竈  
完掘状況





第2458号住居跡  
完掘状況



第2458号住居跡  
遺物出土状況



第2458号住居跡  
遺物出土状況

第2458号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2445号住居跡  
完掘狀況



第2445号住居跡竈  
完掘狀況





第2464号住居跡  
完掘状況



第2464号住居跡  
遺物出土状況

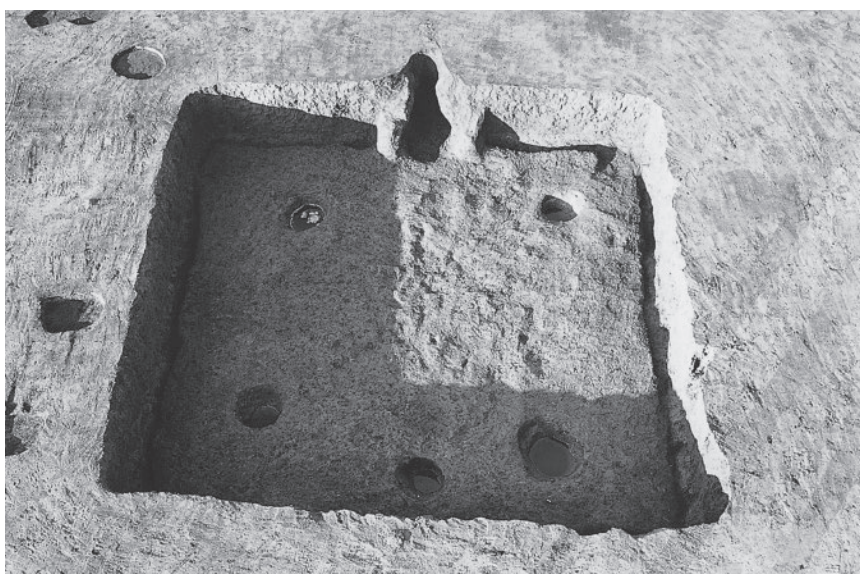


第2464号住居跡竈  
遺物出土状況

第2464号住居跡竈  
完掘状況



第2461号住居跡  
完掘状況



第2461号住居跡竈  
遺物出土状況







第2465号住居跡  
完掘狀況



第2465号住居跡  
遺物出土狀況



第2465号住居跡竈  
完掘狀況

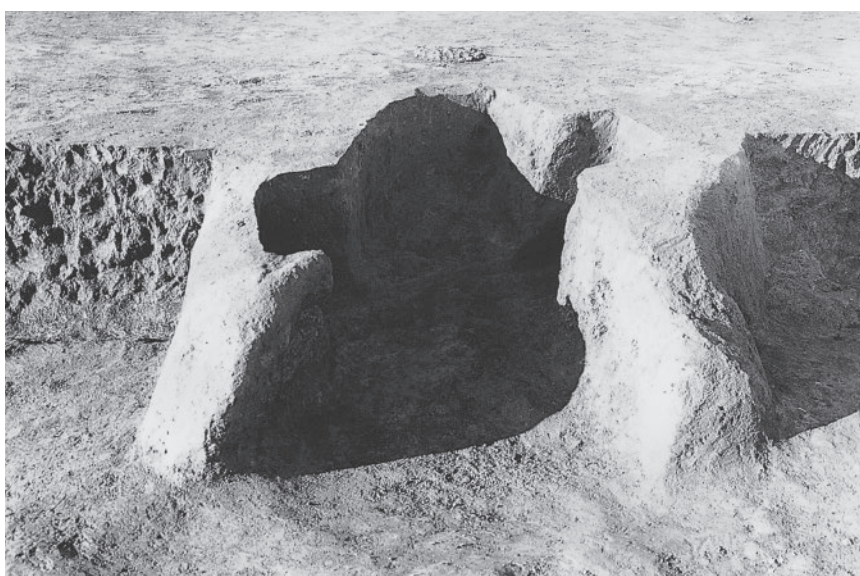
第2487号住居跡  
完掘狀況



第2487号住居跡  
遺物出土狀況



第2487号住居跡竈  
完掘狀況





第2468号住居跡  
完掘状況



第2468号住居跡竈  
完掘状況



第2479号住居跡  
完掘状況

第2479号住居跡竈  
完掘状況

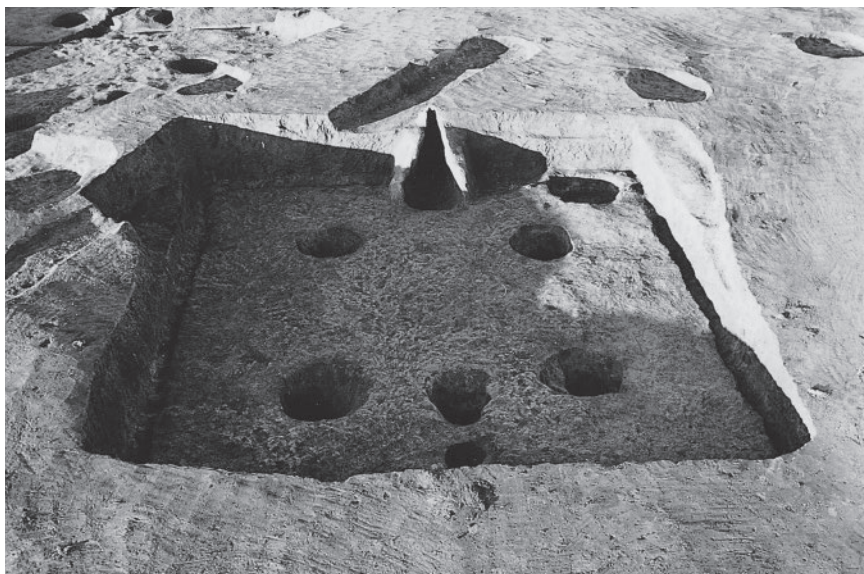


第2498号住居跡  
完掘状況



第2498号住居跡竈  
完掘状況





第2491号住居跡  
完掘状況



第2491号住居跡  
遺物出土状況



第2491号住居跡  
遺物出土状況

第2491号住居跡貯藏穴  
遺物出土状況



第2491号住居跡P2  
遺物出土状況



第2491号住居跡竈  
完掘状況





第2553号住居跡  
完掘状況

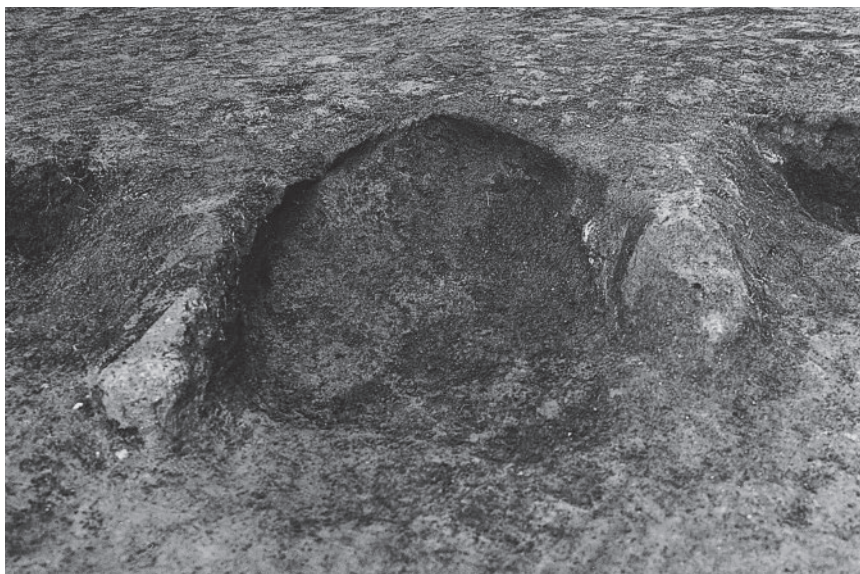


第2553号住居跡竈  
完掘状況



第2388号住居跡  
完掘状況

第2388号住居跡竈  
完掘状況



第2398号住居跡  
完掘状況



第2398号住居跡竈  
完掘状況







第2462号住居跡  
完掘状況



第2462号住居跡  
遺物出土状況



第2462号住居跡  
遺物出土状況

第2480号住居跡  
完掘状況



第2480号住居跡  
遺物出土状況



第2480号住居跡  
遺物出土状況





第2393号住居跡  
完掘狀況



第2393号住居跡  
遺物出土狀況



第2393号住居跡  
遺物出土狀況

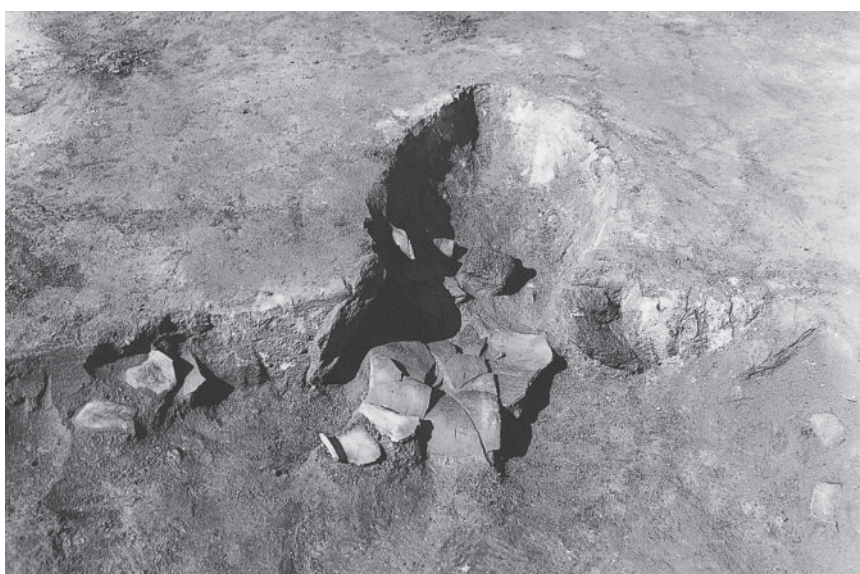
第2393号住居跡竈  
完掘状況



第2315号住居跡  
完掘状況



第2315号住居跡竈  
遺物出土状況





第2394号住居跡  
完掘狀況



第2394号住居跡  
遺物出土狀況



第2394号住居跡竈  
遺物出土狀況

第2453号住居跡  
完掘状況



第2453号住居跡  
遺物出土状況



第2453号住居跡竈  
遺物出土状況





第2378号住居跡  
遺物出土状況



第2454号住居跡  
完掘状況



第2454号住居跡  
遺物出土状況

第2454号住居跡  
遺物出土狀況



第2454号住居跡竈  
遺物出土狀況



第2454号住居跡竈  
遺物出土狀況







第2459号住居跡  
完掘状況



第2459号住居跡  
遺物出土状況



第2459号住居跡竈  
完掘状況

第2358号住居跡  
完掘狀況



第2358号住居跡  
遺物出土狀況



第2457号住居跡  
完掘狀況





第2369号住居跡竈  
遺物出土状況

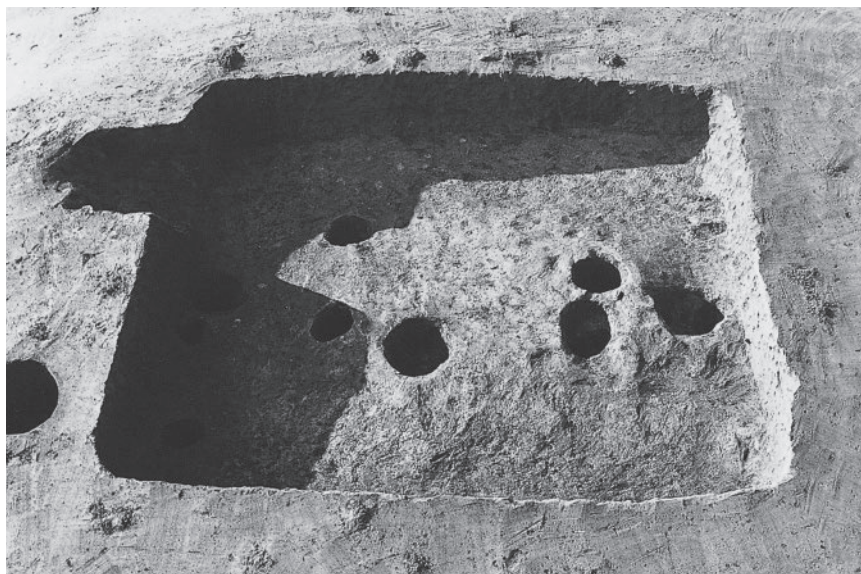


第2466号住居跡  
完掘状況



第2466号住居跡竈  
遺物出土状況

第81号方形竖穴遺構  
完掘状況



第88号方形竖穴遺構  
完掘状況



第315号掘立柱建物跡  
完掘状況

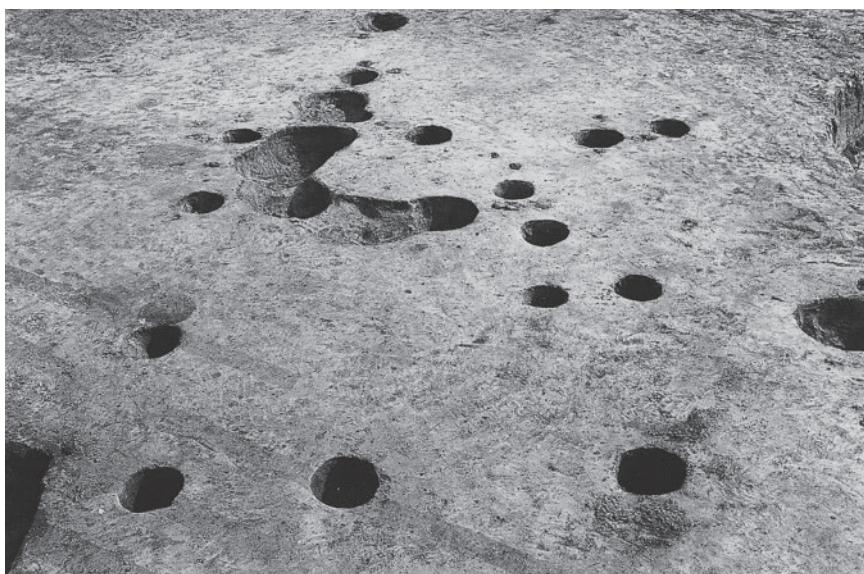




第326号掘立柱建物跡  
完掘状況



第329号掘立柱建物跡  
完掘状況

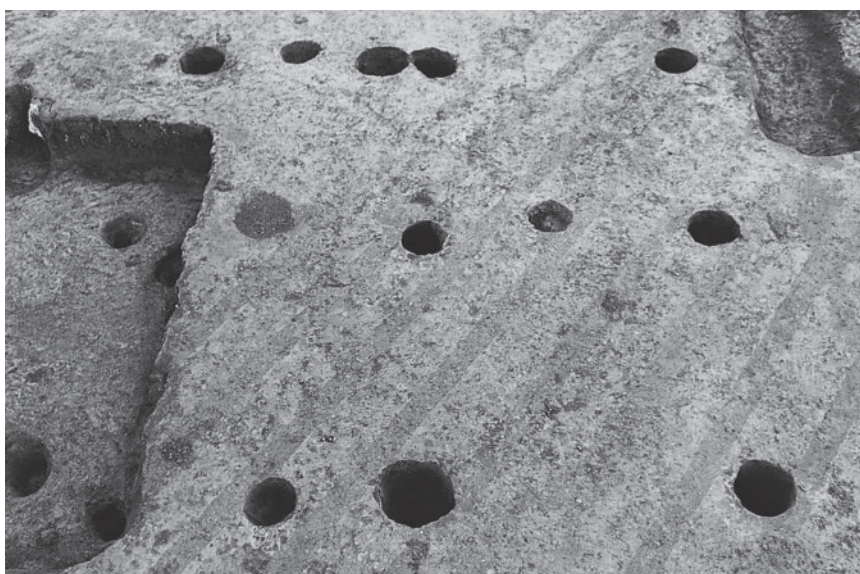


第344号掘立柱建物跡  
完掘状況

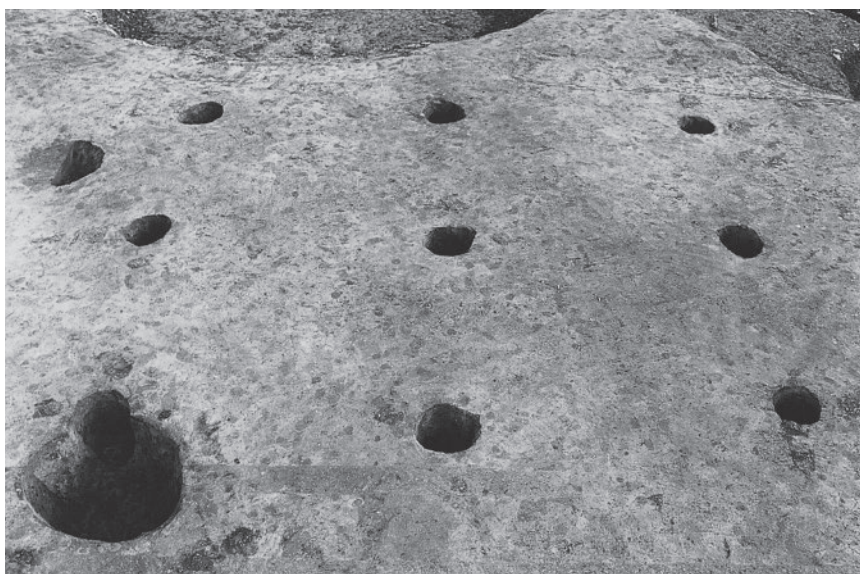
第461号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第462号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第467号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況





15区

PL121



第2311・2316・2317・2328号住居跡出土土器





第2323号住居跡出土土器

15区

PL123



第2314・2323・2327号住居跡出土土器



第2323号住居跡出土土器

15区

PL125



第2325・2329~2333・2352号住居跡出土土器



15区

PL127



第2337・2340号住居跡出土土器



第2340号住居跡出土土器



第2340号住居跡出土土器





第2341号住居跡出土土器

15区

PL131



第2341号住居跡出土土器



15区

PL133



第2347・2351号住居跡出土遺物



15区

PL135



SI2351-569



SI2351-570



SI2351-579



SI2351-579



SI2351-578



SI2351-578

第2351号住居跡出土土器



15区

PL137



第2355号住居跡出土土器







第2368号住居跡出土土器



第2374・2376・2382A・2384・2395号住居跡出土土器

15区

PL141



第2379・2384・2387・2389号住居跡出土土器



15区

PL143



第2445・2461・2463号住居跡出土土器



15区

PL145



第2464号住居跡出土土器





15区

PL147



第2491号住居跡出土土器



15区

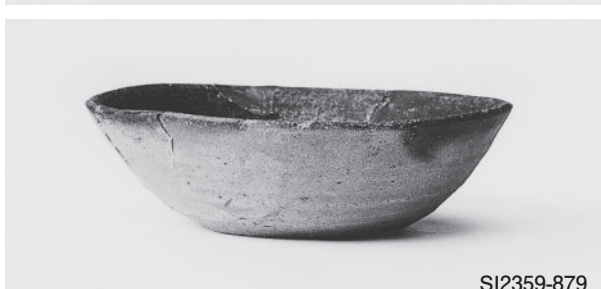
PL149



第2363・2365・2370・2388・2398・2444・2462・2483号住居跡出土土器













15区

PL155

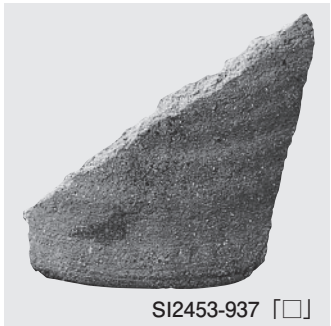


第2372・2375・2394号住居跡出土土器



15区

PL157



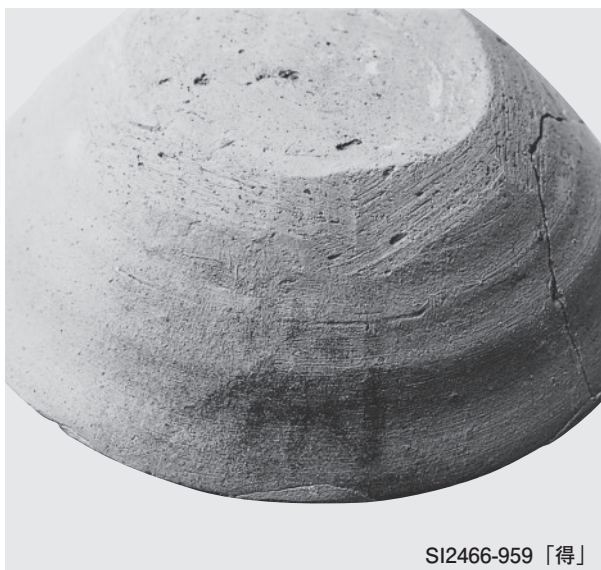
第2447・2452号住居跡出土土器，出土墨書・刻書土器



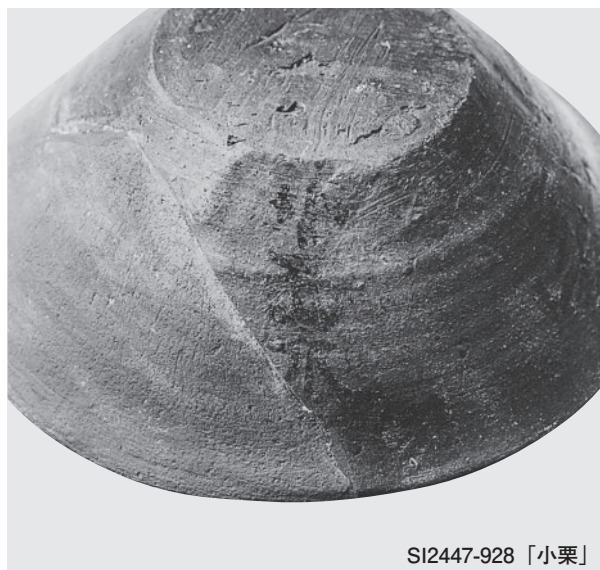
SI2466-960 [丕]



SI2452-933 [ナ]



SI2466-959 [得]



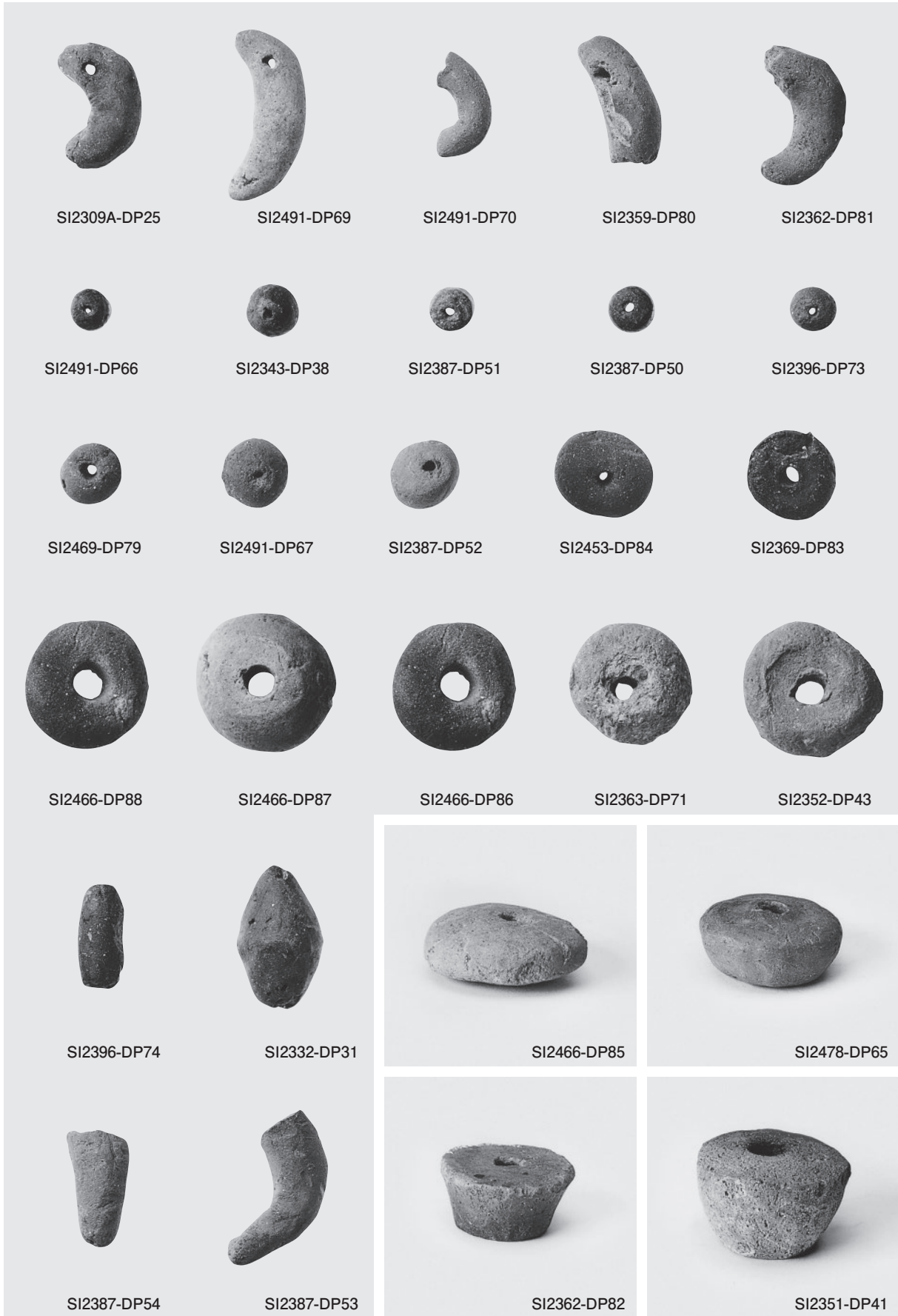
SI2447-928 [小栗]



SI2447-925 [小] [口]



SI2359-879 [口] [万カ]



出土土製品



15区

PL161



SI2309A-Q23



SI2491-Q38



SI2469-Q46



SB330-Q51



SI2369-Q48



SI2393-Q49



SI2331-Q25



SI2310-Q47

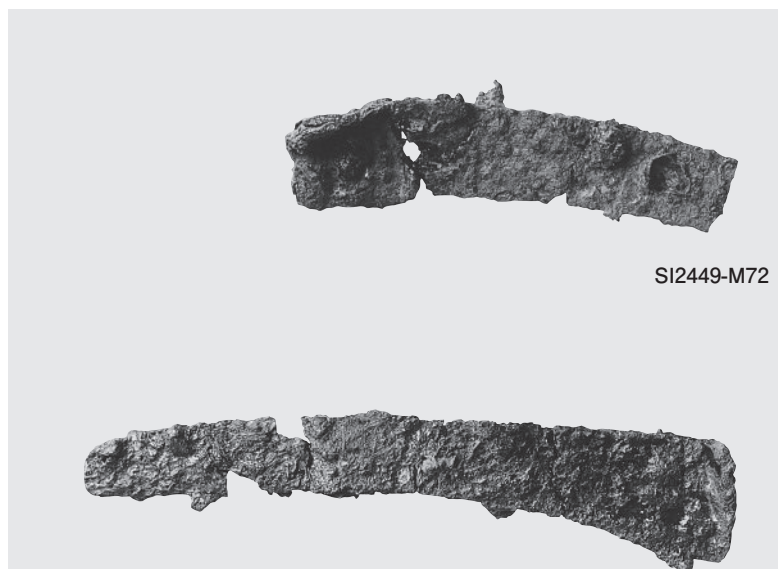
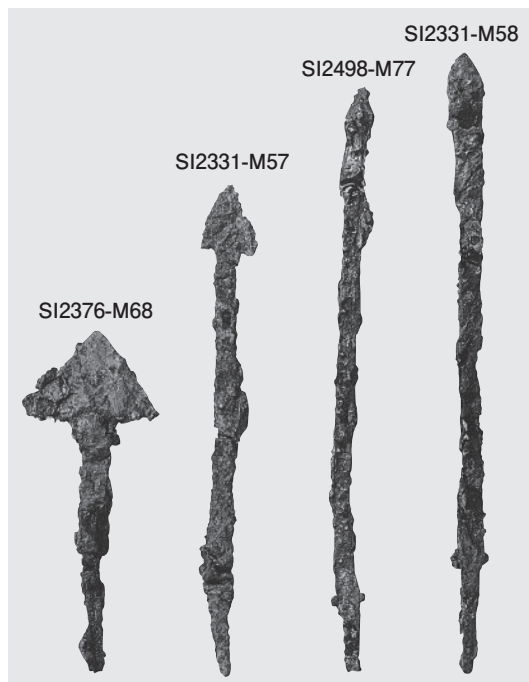
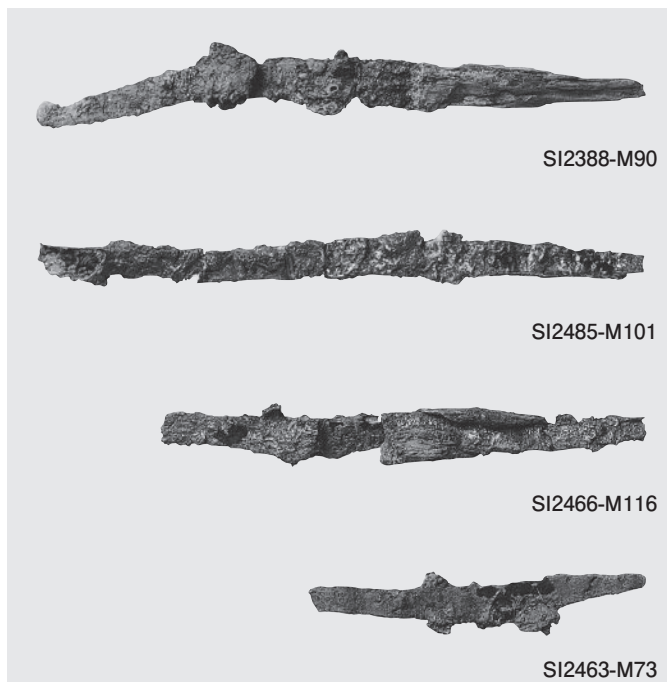
出土石器





15区

PL163



出土鉄製品

茨城県教育財団文化財調査報告第291集

## 島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XV

下 巻

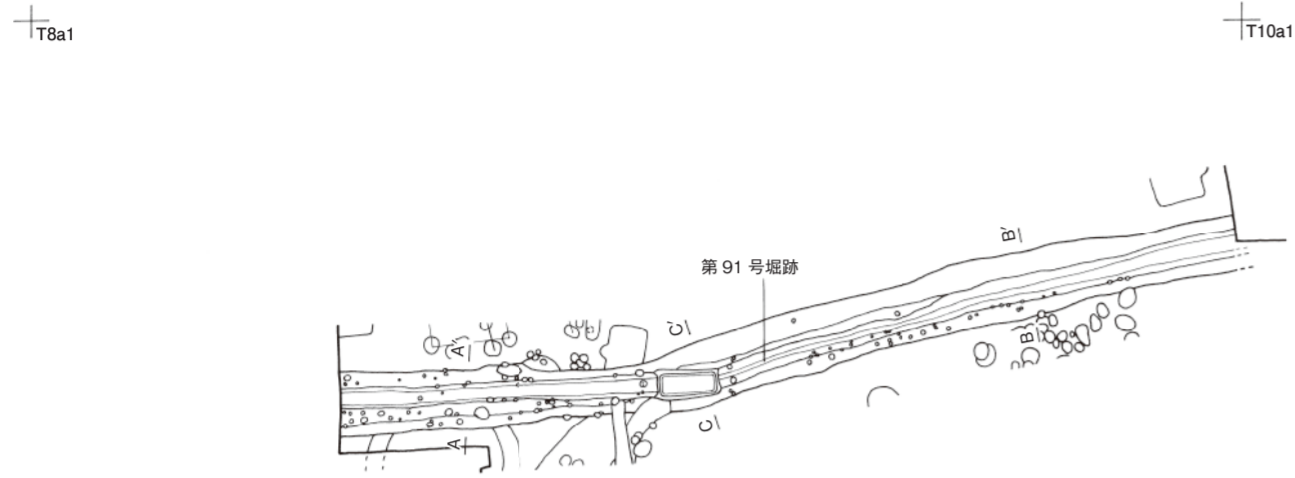
平成20(2008)年3月19日 印刷  
平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
印刷 株式会社 あけぼの印刷社  
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号  
TEL 029-227-5505

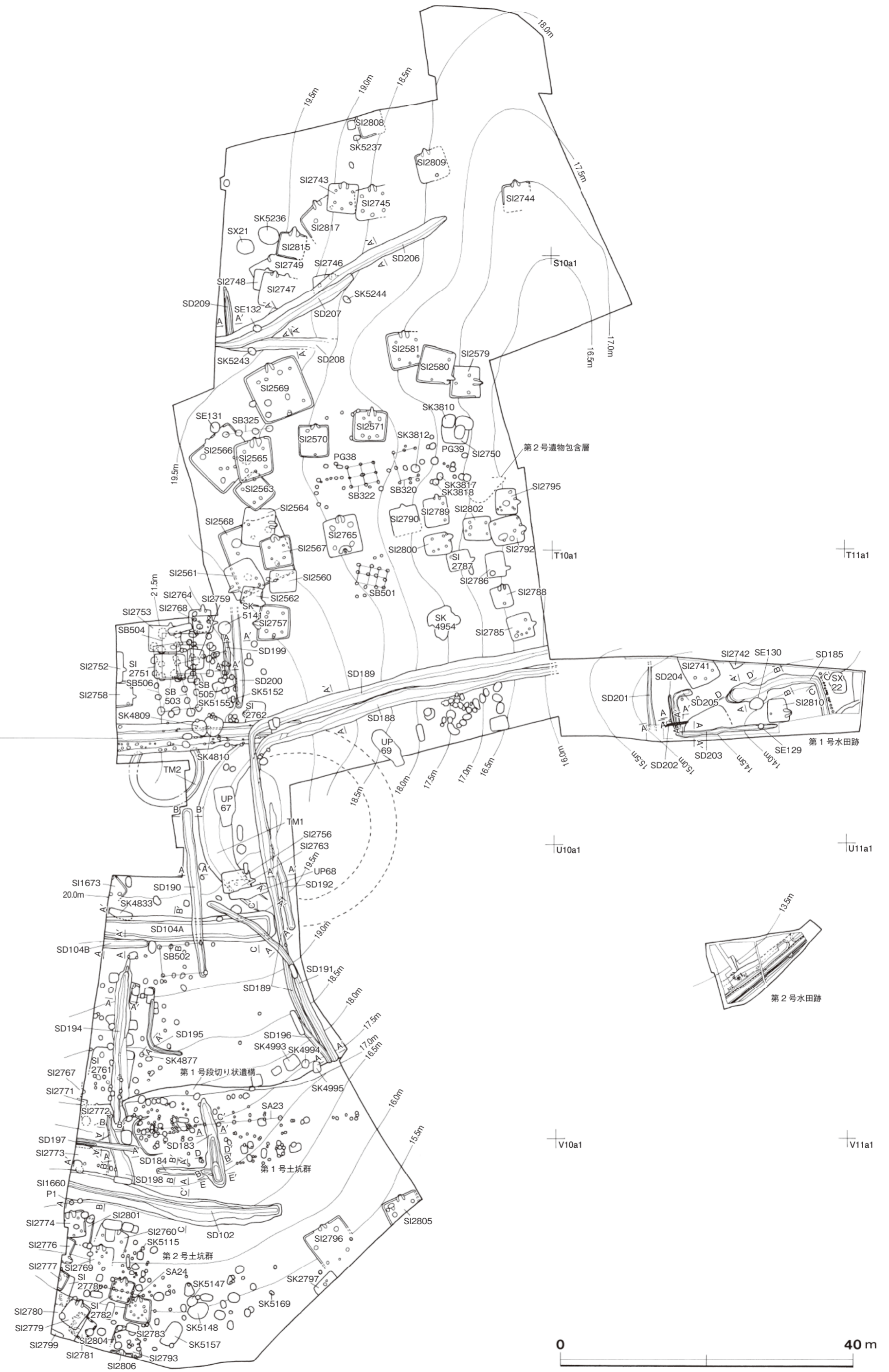
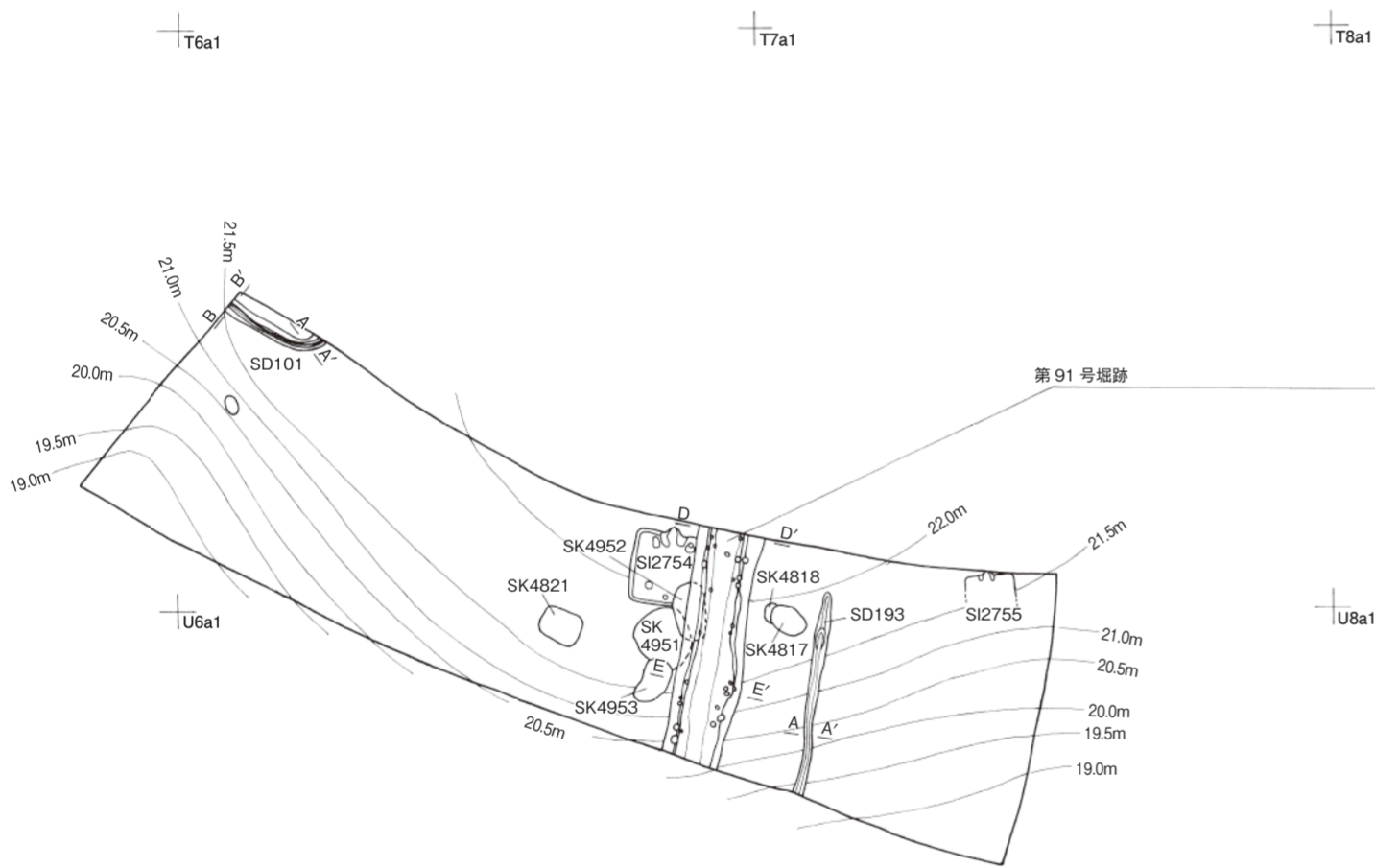
## 付 図

### 茨城県教育財団文化財調査報告第291集

- 付図1 島名熊の山遺跡 12区遺構全体図
- 付図2 島名熊の山遺跡 15区遺構全体図  
(平成19年度整理分)



第91号掘跡実測図



付図1 島名熊の山遺跡12区遺構全体図 茨城県教育財団文化財調査報告第291集



付図2 高名熊の山遺跡15区遺構全体図(平成19年度整理分) 茨城県教育財団文化財調査報告第291集